

Akashi College					Architecture								Year		2015												
Department Goals																											
Course Category		Course Title	Course Code	Credit Type	Credits	Class Hours per Week																Instructor	Division in Learning				
						1st Year				2nd Year				3rd Year				4th Year						5th Year			
						1st		2nd		1st		2nd		1st		2nd		1st		2nd				1st		2nd	
						1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q			1Q	2Q	3Q	4Q
General	Compulsory	国語Ⅲ	0001	School Credit	1																						
General	Compulsory	日本史	0002	School Credit	2																	CHATANI Sho					
General	Compulsory	数学Ⅲ A	0003	Academic Credit	4																	OMODA Yasuhiro					
General	Compulsory	数学Ⅲ B	0004	School Credit	2																	MIURA Takahiro					
General	Compulsory	サイエンスⅢ A	0005	School Credit	2																						
General	Compulsory	サイエンスⅢ B	0006	School Credit	2																	KURAMITSU Rie					
General	Compulsory	保健体育Ⅲ	0007	School Credit	2																	ISHIDA Masami, MAEDA Tadanori, KOBAYASHI Yuki					
General	Compulsory	英語Ⅲ	0008	School Credit	2																						
General	Compulsory	英会話Ⅰ	0009	School Credit	2																	HERBERT John C.					
General	Compulsory	C o + w o r k Ⅱ A	0010	School Credit	1																	All faculty					
General	Compulsory	C o + w o r k Ⅱ B	0011	School Credit	1																	All faculty					
General	Elective	海外研修Ⅰ	0012	School Credit	1																	All faculty of the department					
Specialized	Compulsory	建築構造力学Ⅱ A	0013	School Credit	1																	SHOJO Naoya					
Specialized	Compulsory	建築構造力学Ⅱ B	0014	School Credit	1																	SHOJO Naoya					

[illegible]

General	Elective	数学概論	0068	School Credit	1																2						OMODA Yasuhiro	
General	Elective	海外研修Ⅱ	0069	School Credit	1																						All faculty of the department	
Specialized	Compulsory	C o + w o r kⅢ A	0070	School Credit	1																2						All faculty	
Specialized	Compulsory	C o + w o r kⅢ B	0071	School Credit	1																	2					All faculty	
Specialized	Compulsory	応用数学	0072	School Credit	4																4		4				KAWATA Shoutarou	
Specialized	Compulsory	物理学入門	0073	Academic Credit	2																	2					KAKUNO Yoshinori	
Specialized	Compulsory	建築情報デザイン	0074	Academic Credit	2																2						KUDOH Kazumi	
Specialized	Compulsory	建築構造力学Ⅲ A	0075	School Credit	1																2						NAKAGAWA Hajime	
Specialized	Compulsory	建築構造力学Ⅲ B	0076	School Credit	1																	2					NAKAGAWA Hajime	
Specialized	Compulsory	建築工学実験	0077	School Credit	2																2		2				KAKUNO Yoshinori	
Specialized	Compulsory	鉄筋コンクリート構造	0078	Academic Credit	2																2							
Specialized	Compulsory	鋼構造 A	0079	School Credit	1																2						NAKAGAWA Hajime	
Specialized	Compulsory	鋼構造 B	0080	School Credit	1																	2					NAKAGAWA Hajime	
Specialized	Compulsory	建築計画Ⅲ	0081	School Credit	1																2						OTSUKA Takehiko	
Specialized	Compulsory	建築計画Ⅳ	0082	School Credit	1																	2					MOTOKUZA Tomoki	
Specialized	Compulsory	建築設計演習Ⅳ A	0083	School Credit	2																	4					KUDOH Kazumi, MIZUSHIMA Akane, KOBAYASHI Naoki	

Specialized	Compulsory	建築設計演習ⅣB	0084	Academic Credit	4																
-------------	------------	----------	------	-----------------	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

General	Elective	Overseas Training Ⅲ	0100	School Credit	1																		
---------	----------	---------------------	------	---------------	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

Akashi College		Year	2017		Course Title	国語Ⅲ	
Course Information							
Course Code	0001			Course Category	General / Compulsory		
Class Format	Lecture			Credits	School Credit: 1		
Department	Architecture			Student Grade	3rd		
Term	Second Semester			Classes per Week	2		
Textbook and/or Teaching Materials	中島国彦ほか「精選現代文B」（明治書院）久保田淳ほか「高等学校古典B」（明治書院）稲賀敬二ほか「新訂総合便覧」（第一学習社）						
Instructor							
Course Objectives							
1) 論理的な文章（論説や評論）の構成や展開を的確にとらえ、要約することができる 2) 文学的な文章（小説や詩）に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取ることができる 3) 社会生活の中で用いられている漢字や語句について正確に理解し、活用することができる							
Rubric							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	論理的な文章（論説や評論）の構成や展開を的確にとらえ、要約した上で、その論拠の妥当性について議論することができる			論理的な文章（論説や評論）の構成や展開をとらえ、おおむね要約することができる		論理的な文章（論説や評論）の構成や展開を的確にとらえることができない	
評価項目2	文学的な文章（小説や詩）に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、その特質を理解することができる			文学的な文章（小説や詩）に描かれた人物やものの見方を表現に即して適切に読み取ることができる		文学的な文章（小説や詩）に描かれた人物やものの見方を十分に読み取ることができない	
評価項目3	社会生活の中で用いられている漢字や語句について正確に理解し、活用することができる			社会生活の中で用いられている漢字や語句についておおむね正確に理解し、活用することができる		辞書など補助的な機器がなければ、社会生活の中で用いられている漢字や語句について正確に理解し、活用することができない	
Assigned Department Objectives							
学習・教育目標 (A) 学習・教育目標 (E)							
Teaching Method							
Outline	近現代の評論文や小説、古典文学など、様々な文章を主体的に読むことを通して、日本語及び日本文化の基本的な知識を習得する。豊かな感性と論理的な思考力を身につけ、的確な読解力と表現力を獲得する。						
Style	講義形式を基本とするが、随時課題を課すことがある						
Notice	自主的に予習を行い、授業には集中して意欲的に取り組むこと 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課						
Course Plan							
			Theme		Goals		
2nd Semester	3rd Quarter	1st	オリエンテーション「国語について」、「小景異情」（室生犀星）の読解		授業の進行・準備物について理解することができる		
		2nd	「〈読み〉の楽しみ」（丸山圭三郎）の読解		テキストに用いられている語句・表現を適切に理解することができる		
		3rd	「〈読み〉の楽しみ」（丸山圭三郎）の読解		テキストの構成をとらえ、内容を適切に理解することができる		
		4th	「〈読み〉の楽しみ」（丸山圭三郎）の読解とまとめ		これまでの記述と合わせて、テキスト全体の主張を適切に理解することができる		
		5th	『和泉式部日記』について・「夢よりもはかなき世の中を」（和泉式部日記）の読解		筆者およびテキストの歴史的背景を理解し、テキストを読解することができる		
		6th	「夢よりもはかなき世の中を」（和泉式部日記）の読解		助動詞や尊敬表現など文法事項に注意して、テキストを読解することができる		
		7th	「夢よりもはかなき世の中を」（和泉式部日記）の読解とまとめ		助動詞や尊敬表現など文法事項に注意して、テキストを読解することができる		
		8th	中間試験				
	4th Quarter	9th	中間試験の解説、「兵隊宿」（竹西寛子）の読解		時代背景や登場人物を正確にとらえ、小説の世界を理解することができる		
		10th	「兵隊宿」（竹西寛子）の読解		表現・構成に注意して小説の展開を理解することができる		
		11th	「兵隊宿」（竹西寛子）の読解		表現・構成に注意して小説の展開を理解することができる		
		12th	「兵隊宿」（竹西寛子）の読解とまとめ		表現・構成に注意して小説の展開を理解することができる		
		13th	「王昭君」（西京雑記）の読解		否定・使役といった句形に注意して内容を適切に理解することができる		
		14th	「四面楚歌」（史記）の読解		時代背景を正確にとらえ、疑問の句形に注意して内容を適切に理解することができる		
		15th	「四面楚歌」（史記）の読解とまとめ		内容を適切に理解し、現代における四字熟語の利用について意見を述べるができる		
		16th	期末試験				
Evaluation Method and Weight (%)							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	Total
Subtotal	80	0	0	10	0	10	100
基礎的能力	80	0	0	10	0	10	100

專門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

Akashi College		Year	2017		Course Title	数学Ⅲ A
Course Information						
Course Code	0003			Course Category	General / Compulsory	
Class Format	Lecture			Credits	Academic Credit: 4	
Department	Architecture			Student Grade	3rd	
Term	Year-round			Classes per Week	2	
Textbook and/or Teaching Materials	高専テキストシリーズ 微分積分 2 上野健爾監修（森北出版）、同問題集					
Instructor	OMODA Yasuhiro					
Course Objectives						
(1) 多変数関数の偏微分とそれに関わる計算能力を獲得し、その極値問題とのつながりを理解する。 (2) 2 変数関数の重積分の意味と計算法を身につけ、体積計算に利用する能力を獲得する。 (3) 獲得した知識を現実的な問題への応用に役立てる能力を身につける。						
Rubric						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1		多変数関数の偏微分とそれに関わる計算,及び極値の計算が十分にできる。	多変数関数の偏微分とそれに関わる計算,及び極値の計算ができる。	多変数関数の偏微分とそれに関わる計算,及び極値の計算ができない。		
評価項目2		2 変数関数の重積分の意味と計算法を身につけ、体積計算が十分にできる。	2 変数関数の重積分の意味と計算法を身につけ、体積計算ができる。	2 変数関数の重積分の意味と計算法を身につけ、体積計算ができない。		
評価項目3		獲得した知識を現実的な問題への応用に役立てることが十分にできる	獲得した知識を現実的な問題への応用に役立てることができる	獲得した知識を現実的な問題への応用に役立てることができない		
Assigned Department Objectives						
学習・教育目標 (D) 学習・教育目標 (G) 学習・教育目標 (H)						
Teaching Method						
Outline	2 変数関数の微分（偏微分）と積分（重積分）の基礎と応用を学ぶ。2 変数関数の理論としては、偏導関数の計算、その極値問題への応用、重積分の計算方法と体積計算への利用などを学ぶ。					
Style	最初に教科書に基づいた講義を行う。次に問題演習を行い、その結果をみんなの前で発表してもらう。					
Notice	予習復習をきちんとすること。分からないことは放置せず質問すること。教科書・問題集の問題を利用して自主的に勉強してほしい。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課					
Course Plan						
			Theme	Goals		
1st Semester r	1st Quarter	1st	ガイダンス、関数の展開	授業の目的と評価方法を理解する。 高次導関数が計算できる。		
		2nd	関数の展開 べき級数を学ぶ。	べき級数の収束半径の計算ができる。		
		3rd	関数の展開 1 変数関数のテイラー展開を学ぶ。	1 変数関数のテイラー展開の計算ができる。		
		4th	偏微分法 2 変数関数の極限を学ぶ。	2 変数関数の極限の計算ができる。		
		5th	偏微分法 偏導関数の意味を学び、偏導関数の計算を行う。	偏導関数の計算ができる。		
		6th	偏微分法 偏導関数の計算と、高階の偏導関数の計算を学習する。	高階の偏導関数の計算ができる。		
		7th	総括 復習と問題演習	これまでに学んだ内容を確実にこなせる。		
		8th	中間試験			
	2nd Quarter	9th	試験の解説 試験の解説を行う。	試験の解説を通して、これまでに学んだ内容を十分に理解する。		
		10th	偏微分法 偏微分について学ぶ。	複雑な偏微分の計算ができる。		
		11th	極値問題 2 変数関数の極値について学ぶ。	極値をとる点の候補を計算できる。		
		12th	極値問題 2 変数関数の極値の Hessian による判定法の公式を学ぶ。	2 変数関数の極値の Hessian による判定ができる。		
		13th	条件付き極値問題 2 変数関数で与えられた関係式の陰関数について学ぶ。	条件付きでの極値をとる点の候補を計算できる。		
		14th	条件付き極値問題 2 変数関数で与えられた関係式の陰関数の微分にもとづく極値判定の方法を学ぶ。	条件付きでの極値を判定できる。		
		15th	総括 復習と問題演習	これまでに学んだ内容を確実にこなせる。		
		16th	期末試験			
2nd Semester r	3rd Quarter	1st	曲面の描写 曲面の描写について学ぶ。	曲面の描写ができる。		

		2nd	2重積累次積分 1 空間内の物体の体積として重積分の概念を導入し、これがいかんにして分に結び付けて計算されるかを学ぶ。	やさしい累次積分が計算できる。
		3rd	2重積分 2 2変数関数の、変数ごとの2度の積分（累次積分）の計算を学び、これに慣れる。	少しむづかしい累次積分が計算できる。
		4th	2重積分 3 引き続き重積分の累次積分による計算に慣れ、また解釈の変更による計算のバリエーション（順序変更）をみる。	累次積分の順序交換ができる。
		5th	2重積分 4 重積分の変数変換の公式の理論的説明をおこない、これを用いた計算処理について学ぶ。	重積分の易しい変数変換ができる。
		6th	2重積分 5 極座標やその他の平面での座標変換の意味と、その Jacobian の計算、これを変換因子に伴った重積分の変数変換の公式を学ぶ。	極座標を用いた重積分の計算ができる。
		7th	総括 復習及び問題演習	これまでに学んだ内容を確実にこなせる。
		8th	中間試験	
	4th Quarter	9th	試験の解説 試験の解説を行う。	試験の解説を通して、これまでに学んだ内容を十分に理解する。
		10th	2重積分の応用 2 体積の計算について学ぶ。	体積の計算ができる。
		11th	2重積分の応用 3 表面積の計算について学ぶ。	表面積の計算ができる。
		12th	2重積分の応用 4 重心の計算について学ぶ。	重心の計算ができる。
		13th	2重積分の応用 5 広義積分などを学ぶ。	広義積分の計算ができる。
		14th	総括 復習と問題演習	これまでに学んだ内容を確実にこなせる。
		15th	総括 復習と問題演習	これまでに学んだ内容を確実にこなせる。
		16th	期末試験	

Evaluation Method and Weight (%)

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	Total
Subtotal	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	80	20	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

Akashi College		Year	2017		Course Title	数学Ⅲ B
Course Information						
Course Code	0004		Course Category	General / Compulsory		
Class Format	Lecture		Credits	School Credit: 2		
Department	Architecture		Student Grade	3rd		
Term	Year-round		Classes per Week	2		
Textbook and/or Teaching Materials	高専テキストシリーズ「線形代数」「同 問題集」「微分積分 2」「同 問題集」阿蘇和寿ほか著（森北出版）					
Instructor	MIURA Takahiro					
Course Objectives						
(1) 連立1次方程式の解法、逆行列の計算、行列式の計算といった、行列に関する基本的な計算技術を身に付ける。 (2) 固有値と固有ベクトルの計算、行列の対角化、ベクトルの正規直交化といった、行列・ベクトルに関するやや高度な計算技術を身に付ける。 (3) 初等的な微分方程式の解法を身に付ける。						
Rubric						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	行列に関する基本的な計算技術を身に付け、使うことができる。		行列に関する基本的な計算技術を理解できる。		行列に関する基本的な計算技術を理解できない。	
評価項目2	行列・ベクトルに関するやや高度な計算技術を身に付け、使うことができる。		行列・ベクトルに関するやや高度な計算技術を理解できる。		行列・ベクトルに関するやや高度な計算技術を理解できない。	
評価項目3	初等的な微分方程式の解法を身に付け、使うことができる。		初等的な微分方程式の解法を理解できる。		初等的な微分方程式の解法を理解できない。	
Assigned Department Objectives						
学習・教育目標 (D) 学習・教育目標 (G) 学習・教育目標 (H)						
Teaching Method						
Outline	線形代数および微分方程式の基礎を学ぶ。 行列とベクトルの基本的計算技術を習得すること、および抽象的定義に基づくベクトル空間と線形写像の基礎を学び、それを幾つかの具体的実現の枠組みに適用できる能力を獲得することを目標とする。また、初等的な微分方程式の解法を習得することも目標とする。					
Style	講義形態で授業を進める。課題を出し、それに沿った小テストを行うことがある。					
Notice	第2学年「数学Ⅱ B」からの連続ではあるが、大学初年級の内容に進んでいくこととなる。旧学年の学習内容の復習が必要なときは各自で補えるよう備えておくこと。予習復習をきちんとし、分からないことは放置せず質問すること。合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課					
Course Plan						
1st Semester	1st Quarter	1st	線形変換とその表現行列	線形変換の定義について理解することができる。		
		2nd	線形変換とその表現行列	線形変換の性質（線形変換の線形性）について理解することができる。		
		3rd	線形変換とその表現行列	線形変換の直線の像を求めることができる。		
		4th	いろいろな線形変換	線形変換による基本ベクトルの像、または、簡単な図形の像を求めることができる。		
		5th	いろいろな線形変換	原点を中心とした回転について理解し、使うことができる。		
		6th	合成変換と逆変換	合成変換の表現行列と、その像を求めることができる。		
		7th	演習	線形変換、合成変換についての演習問題を解くことができる。		
		8th	中間試験	いままでの学習を確認する。		
	2nd Quarter	9th	合成変換と逆変換	逆変換の表現行列と、その像を求めることができる。		
		10th	直交行列と直交変換	直交行列について学び、正方行列が直交行列かどうかを判断できる。		
		11th	直交行列と直交変換	直交変換の性質について理解でき、その像を求めることができる。		
		12th	固有値と固有ベクトル	固有値と固有ベクトルの定義と意味を理解し、2次正方行列の固有値と固有ベクトルを求めることができる。		
		13th	固有値と固有ベクトル	3次正方行列の固有値と固有ベクトルを求めることができる。		
		14th	行列の対角化	行列の対角化について理解し、簡単な正方行列を対角化することができる。		
		15th	演習	逆変換、直行変換、固有値、固有ベクトル、対角化についての演習問題を解くことができる。		
		16th	期末試験	いままでの学習を確認する。		
2nd Semester	3rd Quarter	1st	行列の対角化	固有方程式が重解をもつ場合の対角化ができる。		
		2nd	対角行列の対角化	対称行列の異なる固有値に属する固有ベクトルは互いに直交することを理解できる。		
		3rd	対角行列の対角化	直交行列によって対称行列を対角化することができる。		
		4th	線形微分方程式	斉次1階線形微分方程式の一般解を求めることができる。		
		5th	線形微分方程式	非斉次1階線形微分方程式の一般解を求めることができる。		

		6th	線形微分方程式	1階線形微分方程式を応用問題の中で使うことができる。
		7th	演習	対角化、1解線形微分方程式についての演習問題を解くことができる。
		8th	中間試験	いままでの学習を確認する。
	4th Quarter	9th	斉次2階線形微分方程式	斉次2階線形微分方程式の一般解について、線形独立性を理解することができる。
		10th	斉次2階線形微分方程式	定数係数斉次2階線形微分方程式を解くことができる。
		11th	非斉次2階線形微分方程式	補助方程式を使う非斉次2階線形微分方程式の一般解の求め方を理解できる。
		12th	非斉次2階線形微分方程式	定数係数非斉次2階線形微分方程式を解くことができる。
		13th	2階線形微分方程式の応用	定数係数斉次2階線形微分方程式を応用問題の中で使うことができる。
		14th	2階線形微分方程式の応用	定数係数非斉次2階線形微分方程式を応用問題の中で使うことができる。
		15th	演習	2階線形微分方程式についての演習問題を解くことができる。
		16th	期末試験	いままでの学習を確認する。

Evaluation Method and Weight (%)

	試験	小テスト・課題	Total
Subtotal	60	40	100
基礎的能力	60	40	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0

Akashi College		Year	2017		Course Title	サイエンスⅢ A
Course Information						
Course Code	0005			Course Category	General / Compulsory	
Class Format	Lecture			Credits	School Credit: 2	
Department	Architecture			Student Grade	3rd	
Term	Year-round			Classes per Week	2	
Textbook and/or Teaching Materials	前期：「総合物理1, 2」数研出版　「リードα 物理基礎・物理」数研出版　後期：中山正敏「基礎力学」裳華房					
Instructor						
Course Objectives						
(1) 交流回路と電磁波に関する計算問題を解くことができる。 (2) 気体を対象とした熱力学に関する計算問題を解くことができる。 (3) 原子・原子核・素粒子に関する初等的な問題を解くことができる。 (4) 微積分による取り扱いを含む、力学の基本法則に基づいた力と運動の取り扱いができる。						
Rubric						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1		交流回路と電磁波に関する応用的な計算問題を解くことができる。	交流回路と電磁波に関する基本的な計算問題を解くことができる。	交流回路と電磁波に関する計算問題を解くことができない。		
評価項目2		気体を対象とした熱力学に関する応用的な計算問題を解くことができる。	気体を対象とした熱力学に関する基本的な計算問題を解くことができる。	気体を対象とした熱力学に関する計算問題を解くことができない。		
評価項目3		原子・原子核・素粒子に関する初等的な計算を用いる問題を解くことができる。	原子・原子核・素粒子に関する初等的な知識に関する問題を解くことができる。	原子・原子核・素粒子に関する初等的な問題を解くことができない。		
評価項目4		力学の基本法則に基づいた力と運動の的確な取り扱いができる。	力学の基本法則に基づいた力と運動の取り扱いができる。	力学の基本法則に基づいた力と運動の取り扱いができない。		
Assigned Department Objectives						
学習・教育目標 (D) 学習・教育目標 (F) 学習・教育目標 (G)						
Teaching Method						
Outline	前期には主として熱と気体に関する分野と原子に関する分野を学習する。					
Style	授業は講義形式で行い、その中で演習課題や小テストも課す。					
Notice	毎回の授業に対して予習・復習および問題演習を行うこと。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課					
Course Plan						
			Theme	Goals		
1st Semester r	1st Quarter	1st	交流と抵抗・コイル・コンデンサー(p209-p216)	交流と抵抗・コイル・コンデンサーに関する計算ができる。		
		2nd	交流回路のインピーダンス、LC電気振動（共振）と電磁波。(p217-p228)	インピーダンス、電気振動、電磁波に関する計算ができる。		
		3rd	比熱(p182-p191)	比熱に関する計算ができる。		
		4th	ボイル・シャルルの法則と状態方程式(p192-p197)	理想気体の状態方程式に関する計算ができる。		
		5th	気体分子運動論と内部エネルギー(p198-p204)	気体分子運動論と気体の内部エネルギーに関する計算ができる。		
		6th	熱力学第一法則と4つの気体状態変化(p205-p209)	熱力学の第一法則と4つの状態変化に関する計算ができる。		
		7th	2つのモル比熱と熱効率(p210-p217)	モル比熱と熱効率に関する計算ができる。		
		8th	中間試験			
	2nd Quarter	9th	トムソンの実験とミリカンの実験(p242-p249)	トムソンの実験とミリカン実験について理解し、関連する計算ができる。		
		10th	光電効果と仕事関数 (p250-p255)	光電効果と仕事関数について理解し、関連する計算ができる。		
		11th	X線と電子線(p256-p264)	X線と電子線について理解し、関連する計算ができる。		
		12th	水素の原子構造とボーアの理論(p266-p272)	水素の原子構造とボーアの理論について理解し、関連する計算ができる。		
		13th	原子核と放射能(p276-284)	原子核と放射能について理解し、関連する計算ができる。		
		14th	核分裂と核融合(p285-p292)	核分裂と核融合について理解し、関連する計算ができる。		
		15th	クォークと4つの力(p293-p296)	クォークと4つの力について理解し、関連する計算ができる。		
		16th	期末試験			
2nd Semester r	3rd Quarter	1st	位置・速度・加速度	質点の運動を微積分に基づいて記述することができる。		
		2nd	位置・速度・加速度	質点の運動を微積分に基づいて記述することができる。		
		3rd	運動の法則	運動の法則について説明でき、それらを具体的な問題に適用できる。		
		4th	運動の法則	運動の法則について説明でき、それらを具体的な問題に適用できる。		

		5th	仕事と力学的エネルギー	仕事と力学的エネルギーおよびその保存則について説明でき、それらを具体的な問題に適用できる。
		6th	仕事と力学的エネルギー	仕事と力学的エネルギーおよびその保存則について説明でき、それらを具体的な問題に適用できる。
		7th	仕事と力学的エネルギー	仕事と力学的エネルギーおよびその保存則について説明でき、それらを具体的な問題に適用できる。
		8th	中間試験	
	4th Quarter	9th	力積と運動量	力積と運動量の関係や運動量保存則について説明でき、それらを具体的な問題に適用できる。
		10th	力積と運動量	力積と運動量の関係や運動量保存則について説明でき、それらを具体的な問題に適用できる。
		11th	振動	振動を取り扱うための代表的な手法を理解し、具体的な問題に適用できる。
		12th	振動	振動を取り扱うための代表的な手法を理解し、具体的な問題に適用できる。
		13th	振動	振動を取り扱うための代表的な手法を理解し、具体的な問題に適用できる。
		14th	流体の力学	本科目の第3四半期に学習した内容を流体に適用できる。
		15th	流体の力学	本科目の第3四半期に学習した内容を流体に適用できる。
		16th	期末試験	

Evaluation Method and Weight (%)

	試験	演習課題・小テスト	Total
Subtotal	60	40	100
基礎的能力	60	40	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0

Akashi College		Year	2017		Course Title	サイエンスⅢ B
Course Information						
Course Code	0006			Course Category	General / Compulsory	
Class Format	Lecture			Credits	School Credit: 2	
Department	Architecture			Student Grade	3rd	
Term	Year-round			Classes per Week	2	
Textbook and/or Teaching Materials	「新編 化学」（東京書籍）、「センサー 化学」（啓林館）					
Instructor	KURAMITSU Rie					
Course Objectives						
1. 物質の状態に関する基本事項について説明や計算ができる。 2. 化学反応に関する基本事項について説明や計算ができる。 3. 無機物質に関する基本事項について説明や計算ができる。 4. 有機物質に関する基本事項について説明や計算ができる。						
Rubric						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	物質の状態に関する基本事項についての確な説明や正確な計算が十分にできる。		物質の状態に関する基本事項について説明や計算ができる。		物質の状態に関する基本事項について説明や計算ができない。	
評価項目2	化学反応に関する基本事項についての確な説明や正確な計算が十分にできる。		化学反応に関する基本事項について説明や計算ができる。		化学反応に関する基本事項について説明や計算ができない。	
評価項目3	無機物質に関する基本事項についての確な説明や正確な計算が十分にできる。		無機物質に関する基本事項について説明や計算ができる。		無機物質に関する基本事項について説明や計算ができない。	
評価項目4	有機物質に関する基本事項についての確な説明や正確な計算が十分にできる。		有機物質に関する基本事項について説明や計算ができる。		有機物質に関する基本事項について説明や計算ができない。	
Assigned Department Objectives						
学習・教育目標 (D) 学習・教育目標 (F) 学習・教育目標 (G)						
Teaching Method						
Outline	化学物質に関する基礎知識を習得する。 化学の基礎理論を理解することによって、科学的思考力を養う。					
Style	平素は講義形式で授業を行い、一部に実験を行う週も設ける。					
Notice	日常生活を科学的に考察することによって、「化学」が身近な存在であることを認識して欲しい。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課					
Course Plan						
			Theme	Goals		
1st Semester	1st Quarter	1st	物質の状態 1	物質の状態に関する基本事項について説明や計算ができる。		
		2nd	物質の状態 2	物質の状態に関する基本事項について説明や計算ができる。		
		3rd	物質の状態 3	物質の状態に関する基本事項について説明や計算ができる。		
		4th	化学反応とエネルギー 1	化学反応とエネルギーに関する基本事項について説明や計算ができる。		
		5th	化学反応とエネルギー 2	化学反応とエネルギーに関する基本事項について説明や計算ができる。		
		6th	化学反応とエネルギー 3	化学反応とエネルギーに関する基本事項について説明や計算ができる。		
		7th	化学反応とエネルギー 4	化学反応とエネルギーに関する基本事項について説明や計算ができる。		
		8th	中間試験			
	2nd Quarter	9th	物質の状態 及び 化学反応とエネルギー まとめ	物質の状態や化学反応とエネルギーに関する基本事項について説明や計算ができる。		
		10th	反応速度と平衡 1	反応速度と平衡に関する基本事項について説明や計算ができる。		
		11th	反応速度と平衡 2	反応速度と平衡に関する基本事項について説明や計算ができる。		
		12th	反応速度と平衡 3	反応速度と平衡に関する基本事項について説明や計算ができる。		
		13th	反応速度と平衡 4	反応速度と平衡に関する基本事項について説明や計算ができる。		
		14th	反応速度と平衡 5	反応速度と平衡に関する基本事項について説明や計算ができる。		
		15th	反応速度と平衡 6	反応速度と平衡に関する基本事項について説明や計算ができる。		
		16th	期末試験			
2nd Semester	3rd Quarter	1st	反応速度と平衡 まとめ	反応速度と平衡に関する基本事項について説明や計算ができる。		
		2nd	無機物質 1	無機物質に関する基本事項について説明や計算ができる。		

		3rd	無機物質 2	無機物質に関する基本事項について説明や計算ができる。
		4th	無機物質 3	無機物質に関する基本事項について説明や計算ができる。
		5th	無機物質と有機物質 1	無機物質と有機物質に関する基本事項について説明や計算ができる。
		6th	無機物質と有機物質 2	無機物質と有機物質に関する基本事項について説明や計算ができる。
		7th	無機物質と有機物質 3	無機物質と有機物質に関する基本事項について説明や計算ができる。
		8th	中間試験	
	4th Quarter	9th	有機物質 1	有機物質に関する基本事項について説明や計算ができる。
		10th	有機物質 2	有機物質に関する基本事項について説明や計算ができる。
		11th	有機物質 3	有機物質に関する基本事項について説明や計算ができる。
		12th	有機物質 4	有機物質に関する基本事項について説明や計算ができる。
		13th	有機物質 5	有機物質に関する基本事項について説明や計算ができる。
		14th	有機物質 6	有機物質に関する基本事項について説明や計算ができる。
		15th	有機物質 7	有機物質に関する基本事項について説明や計算ができる。
		16th	期末試験	

Evaluation Method and Weight (%)

	定期試験	実験・レポート・小テスト・課題等	受講状況	Total
Subtotal	40	20	40	100
基礎的能力	40	20	40	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

Akashi College		Year	2017		Course Title	保健体育Ⅲ
Course Information						
Course Code	0007			Course Category	General / Compulsory	
Class Format	Skill			Credits	School Credit: 2	
Department	Architecture			Student Grade	3rd	
Term	Year-round			Classes per Week	2	
Textbook and/or Teaching Materials	新版保健体育概論(近畿地区高専体育研究会編:晃洋書房)					
Instructor	ISHIDA Masami,MAEDA Tadanori,KOBAYASHI Yuki					
Course Objectives						
・授業に参加して自身の健康増進、体力向上に努める。また、ある程度の自己管理能力がある。 ・それぞれの種目のルールやゲームの進め方を理解し、参加することができる。						
Rubric						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安(可)	未到達レベルの目安		
出席・授業態度	主体的に授業に参加して自身の健康増進、体力向上に努める。自己管理能力が高い。	授業に参加して自身の健康増進、体力向上に努める。ある程度自己管理能力がある。	授業への参加や自身の健康増進、体力向上に消極的。自己管理能力が高くない。	授業に参加しない。自身の健康増進、体力向上に努めない。自己管理能力が低い。		
実技	各種目の練習、ゲームに積極的に参加し、競技力が非常に高い。また、ゲーム等に大きな影響力を持つ。	各種目の練習、ゲームに積極的に参加することができる。また、その技術を身に付けている。	各種目の練習、ゲームに参加することができる。	各種目の練習、ゲームに参加しない。		
リーダーシップ	リーダーの役割をよく理解し、チームワーク力を高めることができる。	リーダーの役割を理解して担う、もしくは引き受けることができる。	リーダーの役割を理解しているが、その役割を担うことはない。	リーダーの役割を理解していない。またその役割を担うこともない。		
Assigned Department Objectives						
学習・教育目標 (A) 学習・教育目標 (B)						
Teaching Method						
Outline	基礎体力の向上を図りつつ、様々なスポーツに適応できる能力を高める。また、身体活動を通して豊かな社会性を養い、ルールやマナー、安全に対する態度や知識も身につける。					
Style	ゲームや練習に積極的に参加し、その種目の楽しさを各々に発見してもらいたい。まずはルールやゲームの進め方などを覚え、基本技術の習得に努める。さらにゲームやゲーム形式練習を通して、より高度な技術を身に付け、チームワーク力も高めてほしい。受講学生と担当教員が協力して安全で雰囲気の良い授業作りをしたいと考えている。					
Notice	・学校指定のトレーニングウェア、運動靴を着用すること。 ・アクセサリ類、時計、その他不必要な物の着用や持ち込みを禁止する。 ・遅刻は開始20分までとする。20分以後の参加は認めるが欠席扱いとする。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/4以上の欠課					
Course Plan						
			Theme	Goals		
1st Semester r	1st Quarter	1st	ガイダンス、男子:バレーボール(1) / 女子:バレーボール(1)	この授業の目的、目標を理解する。ルールやゲームの進め方を覚える。基本技術の習得に努める。		
		2nd	男子:バレーボール(2) / 女子:バレーボール(2)	ルールやゲームの進め方を覚える。基本技術の習得に努める。		
		3rd	男子:バレーボール(3) / 女子:バレーボール(3)	ルールやゲームの進め方を覚える。基本技術の習得に努める。		
		4th	男子:バレーボール(4) / 女子:バレーボール(4)	ゲームに参加することができる。		
		5th	男子:バレーボール(5) / 女子:バレーボール(5)	ゲームに参加することができる。		
		6th	男子:バレーボール(6) / 女子:バレーボール(6)	ゲームに参加することができる。		
		7th	男子:バレーボール(7) / 女子:バレーボール(7)	ゲームに参加することができる。		
		8th	中間試験実施せず			
	2nd Quarter	9th	男子:卓球(1) / 女子:卓球(1)	基本技術の習得に努める。		
		10th	男子:卓球(2) / 女子:卓球(2)	基本技術の習得に努める。		
		11th	男子:卓球(3) / 女子:卓球(3)	基本技術の習得に努める。		
		12th	男子:卓球(4) / 女子:卓球(4)	ゲームに参加することができる。		
		13th	男子:卓球(5) / 女子:卓球(5)	ゲームに参加することができる。		
		14th	男子:卓球(6) / 女子:卓球(6)	ゲームに参加することができる。		
		15th	男子:卓球(7) / 女子:卓球(7)	ゲームに参加することができる。		
		16th	期末試験実施せず			
2nd Semester r	3rd Quarter	1st	男子:テニス (1) / 女子:バドミントン (1)	ルールやゲームの進め方を覚える。基本技術の習得に努める。		
		2nd	男子:テニス (2) / 女子:バドミントン (2)	ルールやゲームの進め方を覚える。基本技術の習得に努める。		
		3rd	男子:テニス (3) / 女子:バドミントン (3)	ルールやゲームの進め方を覚える。基本技術の習得に努める。		
		4th	男子:テニス (4) / 女子:バドミントン (4)	ゲームに参加することができる。		
		5th	男子:テニス (5) / 女子:バドミントン (5)	ゲームに参加することができる。		
		6th	男子:テニス (6) / 女子:バドミントン (6)	ゲームに参加することができる。		
		7th	男子:テニス (7) / 女子:バドミントン (7)	ゲームに参加することができる。		
		8th	中間試験実施せず			

	4th Quarter	9th	男子:バスケットボール (1) / 女子:バスケットボール (1)	ルールやゲームの進め方を覚える。基本技術の習得に努める。
		10th	男子:バスケットボール (2) / 女子:バスケットボール (2)	ルールやゲームの進め方を覚える。基本技術の習得に努める。
		11th	男子:バスケットボール (3) / 女子:バスケットボール (3)	ルールやゲームの進め方を覚える。基本技術の習得に努める。
		12th	男子:バスケットボール (4) / 女子:バスケットボール (4)	ゲームに参加することができる。
		13th	男子:バスケットボール (5) / 女子:バスケットボール (5)	ゲームに参加することができる。
		14th	男子:バスケットボール (6) / 女子:バスケットボール (6)	ゲームに参加することができる。
		15th	男子:バスケットボール (7) / 女子:バスケットボール (7)	ゲームに参加することができる。
		16th	期末試験実施せず	

Evaluation Method and Weight (%)				
	出席・授業態度	実技	リーダーシップ	Total
Subtotal	75	15	10	100
基礎的能力	75	0	0	75
専門的能力	0	15	0	15
分野横断的能力	0	0	10	10

Akashi College		Year	2017	Course Title	英語Ⅲ
Course Information					
Course Code	0008			Course Category	General / Compulsory
Class Format	Lecture			Credits	School Credit: 2
Department	Architecture			Student Grade	3rd
Term	Year-round			Classes per Week	2
Textbook and/or Teaching Materials	石井隆之：『オールパワフル演習』（成美堂）David Nunan：『Hear Me Out 2』（センゲージラーニング）刀祢雅彦：『システム英単語』（駿台文庫）1年次よりの継続使用				
Instructor					
Course Objectives					
・相手と英語でコミュニケーションを図ろうとする態度や異文化を理解しようとする姿勢を身に付け、実際の場面での英語の使用に役立てることができる。 ・日常生活や自分の身近なことについて、ある程度の的確さ、流暢さ、即応性をもって内容を聴解、読解、伝達できる。 ・社会性のある話題や自分の専門に関する基本的な情報や考えについて、内容の聴解、読解、伝達に加え、簡単な意見交換ができる。					
Rubric					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	相手と英語でコミュニケーションを図ろうとする態度や異文化を理解しようとする姿勢を身に付け、実際の場面での英語の使用に役立てることができる。		相手と英語でコミュニケーションを図ろうとする態度や異文化を理解しようとする姿勢を身に付け、実際の場面での英語の使用に役立てることができる。		相手と英語でコミュニケーションを図ろうとする態度や異文化を理解しようとする姿勢を身に付け、実際の場面での英語の使用に役立てることができない。
評価項目2	日常生活や自分の身近なことについて、的確さ、流暢さ、即応性をもって内容を聴解、読解、伝達できる。		日常生活や自分の身近なことについて、ある程度の的確さ、流暢さ、即応性をもって内容を聴解、読解、伝達できる。		日常生活や自分の身近なことについて、ある程度の的確さ、流暢さ、即応性をもって内容を聴解、読解、伝達できない。
評価項目3	社会性のある話題や自分の専門に関する基本的な情報や考えについて、内容の聴解、読解、伝達に加え、意見交換ができる。		社会性のある話題や自分の専門に関する基本的な情報や考えについて、内容の聴解、読解、伝達に加え、簡単な意見交換ができる。		社会性のある話題や自分の専門に関する基本的な情報や考えについて、内容の聴解、読解、伝達に加え、簡単な意見交換ができない。
Assigned Department Objectives					
学習・教育目標 (B) 学習・教育目標 (E)					
Teaching Method					
Outline	リスニング、文法、語彙、リーディングなどの個別スキルのレベルアップに加え、TOEICで高得点が狙えるよう英語力の向上を目指す。				
Style	単語の習得を確認する小テストの後、教科書を使った講義、グループもしくはペアによる英語の口頭練習を行う。				
Notice	遅刻は授業開始後10分まで。10分を超えた場合は特別な事情を除き欠席扱い。授業中の居眠り、他の教科の勉強、漫画や雑誌を読むこと、忘れ物、予習の不備、携帯電話の使用なども欠席扱いとなる。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/4以上の欠課				
Course Plan					
			Theme	Goals	
1st Semester r	1st Quarter	1st	授業概要説明 TOEICテスト概要説明	授業内容や進行について整理し、年間を通じてやることを理解できる。	
		2nd	Unit 1 Asking and answering personal information questions	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略（ジェスチャー、アイコンタクト）を適切に用いることができる。	
		3rd	Unit 1 の続き	平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略（ジェスチャー、アイコンタクト）を適切に用いることができる。	
		4th	Unit 2 Describing people	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略（ジェスチャー、アイコンタクト）を適切に用いることができる。	
		5th	Unit 2 の続き	平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略（ジェスチャー、アイコンタクト）を適切に用いることができる。	
		6th	Unit 3 Asking and talking about special events	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略（ジェスチャー、アイコンタクト）を適切に用いることができる。	
		7th	Unit 3 の続き	平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略（ジェスチャー、アイコンタクト）を適切に用いることができる。	
		8th	中間試験実施	これまでの学習で理解したことをきちんと成果として表現することができる。	
	2nd Quarter	9th	中間試験返却	弱点を見つけ、今後に向けてそれを克服することができる。	

2nd Semester		10th	Unit 4 Asking and talking about school subjects	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略（ジェスチャー、アイコンタクト）を適切に用いることができる。
		11th	Unit 4 の続き	平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略（ジェスチャー、アイコンタクト）を適切に用いることができる。
		12th	Unit 5 Asking and talking about a trip	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略（ジェスチャー、アイコンタクト）を適切に用いることができる。
		13th	Unit 5 の続き	平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略（ジェスチャー、アイコンタクト）を適切に用いることができる。
		14th	Unit 6 Asking about and describing homes	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略（ジェスチャー、アイコンタクト）を適切に用いることができる。
		15th	Unit 6 の続き	平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略（ジェスチャー、アイコンタクト）を適切に用いることができる。
		16th	期末試験	これまでの学習で理解したことをきちんと成果として表現することができる。
	3rd Quarter	1st	期末試験返却	弱点を見つけ、今後に向けてそれを克服することができる。
		2nd	Unit 7 Discussing and bargaining for customer goods	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略（ジェスチャー、アイコンタクト）を適切に用いることができる。
		3rd	Unit 7 の続き	平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略（ジェスチャー、アイコンタクト）を適切に用いることができる。
		4th	Unit 8 Asking about and describing jobs	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略（ジェスチャー、アイコンタクト）を適切に用いることができる。
		5th	Unit 8 の続き	平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略（ジェスチャー、アイコンタクト）を適切に用いることができる。
		6th	Unit 9 Asking for information and making excuses	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略（ジェスチャー、アイコンタクト）を適切に用いることができる。
		7th	Unit 9 の続き	平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略（ジェスチャー、アイコンタクト）を適切に用いることができる。
		8th	中間試験実施	これまでの学習で理解したことをきちんと成果として表現することができる。
	4th Quarter	9th	中間試験返却	弱点を見つけ、今後に向けてそれを克服することができる。
		10th	Unit 10 Asking for and giving tour information	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略（ジェスチャー、アイコンタクト）を適切に用いることができる。
		11th	Unit 10 の続き	平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略（ジェスチャー、アイコンタクト）を適切に用いることができる。
		12th	Unit 11 Placing and taking orders for take-out food	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略（ジェスチャー、アイコンタクト）を適切に用いることができる。

		13th	Unit 11 の続き	平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略（ジェスチャー、アイコンタクト）を適切に用いることができる。
		14th	Unit 12 Asking and talking about stress and relaxation	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略（ジェスチャー、アイコンタクト）を適切に用いることができる。
		15th	Unit 12 の続き	平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略（ジェスチャー、アイコンタクト）を適切に用いることができる。
		16th	期末試験	これまでの学習で理解したことをきちんと成果として表現することができる。

Evaluation Method and Weight (%)							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	小テスト	Total
Subtotal	50	0	0	0	0	50	100
基礎的能力	50	0	0	0	0	50	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

Akashi College		Year	2017		Course Title	C o + w o r k II A	
Course Information							
Course Code	0010			Course Category	General / Compulsory		
Class Format	Seminar			Credits	School Credit: 1		
Department	Architecture			Student Grade	3rd		
Term	First Semester			Classes per Week	2		
Textbook and/or Teaching Materials	各チームの活動の内容に応じて適宜使用する。						
Instructor	All faculty						
Course Objectives							
主体性や自己管理能力が身についている 他者を尊重しながらチームで作業ができる 情報を収集・整理して課題を発見し提案することができる							
Rubric							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	他人と予定を調整しながら自分のスケジュールを立てて動き、状況に応じて見直しをかけることができる		自分が立てたスケジュール通りに動くことができる		できない		
評価項目2	自分と意見の異なる人の意見を受け入れ、自分の意見も述べながら、チーム全体を合意形成に導くことができる		自分と意見の異なる人の話を聞いたうえで、適切に自分の意見を言うことができる		できない		
評価項目3	自主的に情報収集することができ、整理しまとめ、自分の意見を加えて他人に説明することができる		自分のアイディアを出すことができる		できない		
Assigned Department Objectives							
学習・教育目標 (B) 学習・教育目標 (E) 学習・教育目標 (G)							
Teaching Method							
Outline	自立、協働、創造の能力を養成することを目的とし、他学科・他学年の学生と活動に取り組む。チームで取り組んだ活動についての報告会での報告や振り返り会を経て、活動計画の修正を行いながら、学習を進める。						
Style	(1) 個人の取り組み 80% (自立 (40%) + 協働 (40%) + 創造 (20%)) (2) チームの取り組みと成果 20% (協働 (50%) + 創造 (50%)) 上記 (1) は、ルーブリックを用いた学生の自己評価、相互評価と教員の評価をもとに、チームの担当教員が評価を行う。(2) は中間報告会での複数の教員による評価とする。60点以上を合格とする。						
Notice	学科学年横断でのチームによって計画した活動の実施に基づく授業であるため、その取り組み課題を通じて自立・協働・創造にかかる力を身に付け、目標を達成するためには、積極的に関わる必要がある。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/4以上の欠課						
Course Plan							
			Theme		Goals		
1st Semester	1st Quarter	1st	全体授業ガイダンス、チームメンバーの発表、チームビルディング		自立・協働・創造の能力を身に着ける		
		2nd	活動目標の決定および活動内容の計画		自立・協働・創造の能力を身に着ける		
		3rd	活動目標の決定および活動内容の計画		自立・協働・創造の能力を身に着ける		
		4th	活動目標の決定および活動内容の計画		自立・協働・創造の能力を身に着ける		
		5th	活動目標の決定および活動内容の計画		自立・協働・創造の能力を身に着ける		
		6th	チーム活動		自立・協働・創造の能力を身に着ける		
		7th	チーム活動		自立・協働・創造の能力を身に着ける		
		8th	(中間試験 実施せず)		自立・協働・創造の能力を身に着ける		
	2nd Quarter	9th	チーム活動		自立・協働・創造の能力を身に着ける		
		10th	チーム活動		自立・協働・創造の能力を身に着ける		
		11th	チーム活動		自立・協働・創造の能力を身に着ける		
		12th	チーム活動		自立・協働・創造の能力を身に着ける		
		13th	中間報告会		自立・協働・創造の能力を身に着ける		
		14th	振り返り会・これまでの活動のまとめ		自立・協働・創造の能力を身に着ける		
		15th	振り返り会・これまでの活動のまとめ		自立・協働・創造の能力を身に着ける		
		16th	期末試験実施せず		自立・協働・創造の能力を身に着ける		
Evaluation Method and Weight (%)							
	個人の取り組み	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	Total
Subtotal	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	80	20	0	0	0	0	100

Akashi College		Year	2017		Course Title	C o + w o r k II B	
Course Information							
Course Code	0011			Course Category	General / Compulsory		
Class Format	Seminar			Credits	School Credit: 1		
Department	Architecture			Student Grade	3rd		
Term	Second Semester			Classes per Week	2		
Textbook and/or Teaching Materials	各チームの活動の内容に応じて適宜使用する。						
Instructor	All faculty						
Course Objectives							
主体性や自己管理能力が身につけている 他者を尊重しながらチームで作業ができる 情報を収集・整理して課題を発見し提案することができる							
Rubric							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	他人と予定を調整しながら自分のスケジュールを立てて動き、状況に応じて見直しをかけることができる			自分が立てたスケジュール通りに動くことができる		できない	
評価項目2	自分と意見の異なる人の意見を受け入れ、自分の意見も述べながら、チーム全体を合意形成に導くことができる			自分と意見の異なる人の話を聞いたうえで、適切に自分の意見を言うことができる		できない	
評価項目3	自主的に情報収集することができ、整理しまとめ、自分の意見を加えて他人に説明することができる			自分のアイディアを出すことができる		できない	
Assigned Department Objectives							
学習・教育目標 (B) 学習・教育目標 (E) 学習・教育目標 (G)							
Teaching Method							
Outline	自立、協働、創造の能力を養成することを目的とし、他学科・他学年の学生と活動に取り組む。チームで取り組んだ活動についての報告会での報告や振り返り会を経て、活動計画の修正を行いながら、学習を進める。						
Style	(1) 個人の取り組み 80% (自立 (40%) + 協働 (40%) + 創造 (20%)) (2) チームの取り組みと成果 20% (協働 (50%) + 創造 (50%)) 上記 (1) は、ルーブリックを用いた学生の自己評価、相互評価と教員の評価をもとに、チームの担当教員が評価を行う。(2) は中間報告会での複数の教員による評価とする。60点以上を合格とする。						
Notice	学科学年横断でのチームによって計画した活動の実施に基づく授業であるため、その取り組み課題を通じて自立・協働・創造にかかる力を身に付け、目標を達成するためには、積極的に関わる必要がある。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/4以上の欠課						
Course Plan							
			Theme		Goals		
2nd Semester r	3rd Quarter	1st	活動目標の決定および活動内容の計画		自立・協働・創造の能力を身に着ける		
		2nd	チーム活動		自立・協働・創造の能力を身に着ける		
		3rd	チーム活動		自立・協働・創造の能力を身に着ける		
		4th	チーム活動		自立・協働・創造の能力を身に着ける		
		5th	チーム活動		自立・協働・創造の能力を身に着ける		
		6th	チーム活動		自立・協働・創造の能力を身に着ける		
		7th	チーム活動		自立・協働・創造の能力を身に着ける		
		8th	(中間試験 実施せず)		自立・協働・創造の能力を身に着ける		
	4th Quarter	9th	チーム活動		自立・協働・創造の能力を身に着ける		
		10th	チーム活動		自立・協働・創造の能力を身に着ける		
		11th	チーム活動		自立・協働・創造の能力を身に着ける		
		12th	チーム活動		自立・協働・創造の能力を身に着ける		
		13th	最終報告会		自立・協働・創造の能力を身に着ける		
		14th	振り返り会・これまでの活動のまとめ		自立・協働・創造の能力を身に着ける		
		15th	振り返り会・これまでの活動のまとめ		自立・協働・創造の能力を身に着ける		
		16th	期末試験実施せず		自立・協働・創造の能力を身に着ける		
Evaluation Method and Weight (%)							
	個人の取り組み	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	Total
Subtotal	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	80	20	0	0	0	0	100

Akashi College		Year	2017		Course Title	海外研修 I
Course Information						
Course Code		0012		Course Category	General / Elective	
Class Format		Practical training		Credits	School Credit: 1	
Department		Architecture		Student Grade	3rd	
Term		Year-round		Classes per Week	1	
Textbook and/or Teaching Materials		なし				
Instructor		All faculty of the department				
Course Objectives						
本研修では以下のことができるようになることを目標とする。 (1) 海外における各種の研修体験を通じて、多面的に物事を考えることができる。 (2) 海外における各種の研修体験を通じて、コミュニケーションをとることができる。						
Rubric						
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1		海外における各種の研修体験を通じて、多面的に物事を考えることができる。		海外における各種の研修体験を通じて、多面的に物事を考えることができる。		海外における各種の研修体験を通じて、多面的に物事を考えることができない。
評価項目2		海外における各種の研修体験を通じて、コミュニケーションをとることができる。		海外における各種の研修体験を通じて、コミュニケーションをとることができる。		海外における各種の研修体験を通じて、コミュニケーションをとることができない。
Assigned Department Objectives						
学習・教育目標 (B) 学習・教育目標 (E)						
Teaching Method						
Outline		海外における各種の研修体験を通じて、多面的に物事を考える能力やコミュニケーション能力を身に付けることが本科目のねらいである。研修期間は、夏季休業期間などとしてもよい。研修日数は、5日間以上とする。				
Style		実地研修および報告会				
Notice		学級担任又は指導教員と緊密に連絡を取り合うこと。研修期間中は、積極的に現地の人たちと関わり、コミュニケーションをとるよう努めるとともに、服装・言葉遣い等、研修生として相応しい態度で取り組むこと。合格の対象としない欠席条件(割合) 条件なし				
Course Plan						
			Theme		Goals	
1st Semester	1st Quarter	1st				
		2nd				
		3rd				
		4th				
		5th				
		6th				
		7th				
		8th				
	2nd Quarter	9th				
		10th				
		11th				
		12th				
		13th				
		14th				
		15th				
		16th	期末試験実施せず			
2nd Semester	3rd Quarter	1st				
		2nd				
		3rd				
		4th				
		5th				
		6th				
		7th				
		8th				
	4th Quarter	9th				
		10th				
		11th				
		12th				
		13th				
		14th				
		15th				
		16th	期末試験実施せず			
Evaluation Method and Weight (%)						

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	Total
Subtotal	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

Akashi College		Year	2017		Course Title	建築構造力学Ⅱ A	
Course Information							
Course Code	0013			Course Category	Specialized / Compulsory		
Class Format	Lecture			Credits	School Credit: 1		
Department	Architecture			Student Grade	3rd		
Term	First Semester			Classes per Week	2		
Textbook and/or Teaching Materials	寺本隆幸著:建築構造の力学I(静定力学編)、森北出版(参考図書)松本慎也著:よくわかる構造力学の基本、秀和システム 中川肇著:基礎から学ぶ建築構造力学、井上書院						
Instructor	SHOJO Naoya						
Course Objectives							
1. 静定トラスの軸力の正負を理解した上で応力図を描くことができる。 2. 静定合成骨組の応力を計算し、応力図を描くことができる。 3. 弾性状態における応力とひずみの定義、力と変形の関係を説明でき、それらを計算できる。 4. 断面一次モーメントを理解し、図心を計算できる。 5. 断面二次モーメント、断面係数や断面二次半径などの断面諸量を計算できる。							
Rubric							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	静定トラスの軸力の正負を的確に理解した上で応力図を描くことができる。			静定トラスの軸力の正負を理解した上で応力図を描くことができる。		静定トラスの軸力の正負を理解した上で応力図を描くことができない。	
評価項目2	静定合成骨組の応力を的確に計算し、応力図を描くことができる。			静定合成骨組の応力を計算し、応力図を描くことができる。		静定合成骨組の応力を計算し、応力図を描くことができない。	
評価項目3	弾性状態における応力とひずみの定義、力と変形の関係を的確に説明でき、それらを計算できる。			弾性状態における応力とひずみの定義、力と変形の関係を説明でき、それらを計算できる。		弾性状態における応力とひずみの定義、力と変形の関係を説明でき、それらを計算できない。	
評価項目4	断面一次モーメントを的確に理解し、図心を計算できる。			断面一次モーメントを理解し、図心を計算できる。		断面一次モーメントを理解し、図心を計算できない。	
評価項目5	断面二次モーメント、断面係数や断面二次半径などの断面諸量を的確に計算できる。			断面二次モーメント、断面係数や断面二次半径などの断面諸量を計算できる。		断面二次モーメント、断面係数や断面二次半径などの断面諸量を計算できない。	
Assigned Department Objectives							
学習・教育目標 (D)							
Teaching Method							
Outline	建築構造力学Iに引き続き、静定構造物の応力計算、部材断面の性質、断面の応力度について学習する。						
Style	講義形式の座学を中心として進めるが、適宜、演習形式を含めながら授業を進める。						
Notice	構造の骨組、数学に関して関心をもち、授業中はしっかり聞き板書すること。演習は自分で問題を解き、確実理解することが大切です。判らない点はかならず質問し、理解し先に進むこと。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課						
Course Plan							
			Theme	Goals			
1st Semester	1st Quarter	1st	建築構造力学Ⅰの復習および静定トラス(1)	静定トラスの軸力の正負を理解した上で応力図を描くことができる。			
		2nd	静定トラス(2):節点法の解法	静定トラスの軸力の正負を理解した上で応力図を描くことができる。			
		3rd	静定トラス(3):節点法に関する演習	静定トラスの軸力の正負を理解した上で応力図を描くことができる。			
		4th	静定トラス(4):切断法の解法	静定トラスの軸力の正負を理解した上で応力図を描くことができる。			
		5th	静定トラス(5):切断法に関する演習	静定トラスの軸力の正負を理解した上で応力図を描くことができる。			
		6th	静定合成骨組の解法	静定合成骨組の応力を計算し、応力図を描くことができる。			
		7th	静定合成骨組の演習	静定合成骨組の応力を計算し、応力図を描くことができる。			
		8th	中間試験				
	2nd Quarter	9th	応力度とひずみ度(1):応力度の種類とその関係	弾性状態における応力とひずみの定義、力と変形の関係を説明でき、それらを計算できる。			
		10th	応力度とひずみ度(2):応力度の種類とその関係およびひずみの種類	弾性状態における応力とひずみの定義、力と変形の関係を説明でき、それらを計算できる。			
		11th	応力度とひずみ度(3):演習	弾性状態における応力とひずみの定義、力と変形の関係を説明でき、それらを計算できる。			
		12th	断面の性質(1):断面一次モーメントと図心	断面一次モーメントを理解し、図心を計算できる。			
		13th	断面の性質(2):断面二次モーメントと断面相乗モーメント	断面二次モーメント、断面係数や断面二次半径などの断面諸量を計算できる。			
		14th	断面の性質(3):断面係数と断面二次半径と断面極二次モーメント	断面二次モーメント、断面係数や断面二次半径などの断面諸量を計算できる。			
		15th	断面の性質(4):演習	断面一次モーメントを理解し、図心を計算できる。 断面二次モーメント、断面係数や断面二次半径などの断面諸量を計算できる。			
		16th	期末試験				
Evaluation Method and Weight (%)							

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	課題レポート	Total
Subtotal	70	0	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	0	0	0	0	0	30	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0

Akashi College		Year	2017		Course Title	建築構造力学Ⅱ B
Course Information						
Course Code	0014			Course Category	Specialized / Compulsory	
Class Format	Lecture			Credits	School Credit: 1	
Department	Architecture			Student Grade	3rd	
Term	Second Semester			Classes per Week	2	
Textbook and/or Teaching Materials	寺本隆幸著:建築構造の力学I(静定力学編)、森北出版(参考図書)松本慎也著:よくわかる構造力学の基本、秀和システム 中川肇著:基礎から学ぶ建築構造力学、井上書院					
Instructor	SHOJO Naoya					
Course Objectives						
1. 軸方向力による断面に生じる応力とひずみの関係を理解し、それらを計算できる。 2. 曲げモーメントによる断面に生じる応力とひずみの関係を理解し、それらを計算できる。 3. はり断面内のせん断応力分布について理解し、それらを計算できる。 4. 偏心圧縮柱の応力状態を理解し、それらを計算できる。 5. 許容応力度設計法の概要を理解し、構造安全性の検討ができる。 6. 軸方向応力によるはりの変形を計算できる。 7. はりのたわみの微分方程式やモールの定理を用い、たわみやたわみ角を計算できる。 8. せん断応力によるはりの変形を計算できる。 9. 各種支持条件に対するEuler座屈荷重を計算できる。						
Rubric						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	軸方向力による断面に生じる応力とひずみの関係を的確に理解し、それらを計算できる。		軸方向力による断面に生じる応力とひずみの関係を理解し、それらを計算できる。		軸方向力による断面に生じる応力とひずみの関係を理解し、それらを計算できる。	
評価項目2	曲げモーメントによる断面に生じる応力とひずみの関係を的確に理解し、それらを計算できる。		曲げモーメントによる断面に生じる応力とひずみの関係を理解し、それらを計算できる。		曲げモーメントによる断面に生じる応力とひずみの関係を理解し、それらを計算できない。	
評価項目3	はり断面内のせん断応力分布についての的確に理解し、それらを計算できる。		はり断面内のせん断応力分布について理解し、それらを計算できる。		はり断面内のせん断応力分布について理解し、それらを計算できない。	
評価項目4	偏心圧縮柱の応力状態を的確に理解し、それらを計算できる。		偏心圧縮柱の応力状態を理解し、それらを計算できる。		偏心圧縮柱の応力状態を理解し、それらを計算できない。	
評価項目5	許容応力度設計法の概要を的確に理解し、構造安全性の検討ができる。		許容応力度設計法の概要を理解し、構造安全性の検討ができる。		許容応力度設計法の概要を理解し、構造安全性の検討ができない。	
評価項目6	軸方向応力によるはりの変形を的確に計算できる。		軸方向応力によるはりの変形を計算できる。		軸方向応力によるはりの変形を計算できない。	
評価項目7	はりのたわみの微分方程式やモールの定理を用い、的確にたわみやたわみ角を計算できる。		はりのたわみの微分方程式やモールの定理を用い、たわみやたわみ角を計算できる。		はりのたわみの微分方程式やモールの定理を用い、たわみやたわみ角を計算できない。	
評価項目8	せん断応力によるはりの変形を的確に計算できる。		せん断応力によるはりの変形を計算できる。		せん断応力によるはりの変形を計算できない。	
評価項目9	各種支持条件に対するEuler座屈荷重を的確に計算できる。		各種支持条件に対するEuler座屈荷重を計算できる。		各種支持条件に対するEuler座屈荷重を計算できない。	
Assigned Department Objectives						
学習・教育目標 (D)						
Teaching Method						
Outline	建築構造力学ⅡAに引き続き、断面の応力度、構造設計への応用、部材の変形について学習する。					
Style	講義形式の座学を中心として進めるが、適宜、演習形式を含めながら授業を進める。					
Notice	構造の骨組、数学に関して関心をもち、授業中はしっかり聞き板書すること。演習は自分で問題を解き、確実理解することが大切です。判らない点はかならず質問し、理解し先に進むこと。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課					
Course Plan						
			Theme		Goals	
2nd Semester	3rd Quarter	1st	断面の応力度(1):軸方向応力度と曲げ応力度		軸方向力による断面に生じる応力とひずみの関係を理解し、それらを計算できる。	
		2nd	断面の応力度(2):曲げ応力度		曲げモーメントによる断面に生じる応力とひずみの関係を理解し、それらを計算できる。	
		3rd	断面の応力度(3):せん断応力度		はり断面内のせん断応力分布について理解し、それらを計算できる。	
		4th	断面の応力度(4):軸方向力と曲げモーメントによる応力度		偏心圧縮柱の応力状態を理解し、それらを計算できる。	
		5th	断面の応力度(5):演習		軸方向力による断面に生じる応力とひずみの関係を理解し、それらを計算できる。 曲げモーメントによる断面に生じる応力とひずみの関係を理解し、それらを計算できる。 はり断面内のせん断応力分布について理解し、それらを計算できる。 偏心圧縮柱の応力状態を理解し、それらを計算できる。	
		6th	部材の設計への応用(1):許容応力度設計法の概要		許容応力度設計法の概要を理解し、構造安全性の検討ができる。	
		7th	部材の設計への応用(2):演習		許容応力度設計法の概要を理解し、構造安全性の検討ができる。	

4th Quarter	8th	中間試験	
	9th	部材の変形(1):軸方向力による変形と曲げモーメントによる変形(たわみ曲線)	軸方向応力によるはりの変形を計算できる。
	10th	部材の変形(2):曲げモーメントによる変形(たわみ曲線)	はりのたわみの微分方程式やモールの定理を用い、たわみやたわみ角を計算できる。
	11th	部材の変形(3):曲げモーメントによる変形(たわみ曲線)	はりのたわみの微分方程式やモールの定理を用い、たわみやたわみ角を計算できる。
	12th	部材の変形(4):曲げモーメントによる変形(モールの定理)	はりのたわみの微分方程式やモールの定理を用い、たわみやたわみ角を計算できる。
	13th	部材の変形(5):せん断力による変形および座屈	せん断応力によるはりの変形を計算できる。 各種支持条件に対するEuler座屈荷重を計算できる。
	14th	部材の変形(6):演習	軸方向応力によるはりの変形を計算できる。 はりのたわみの微分方程式やモールの定理を用い、たわみやたわみ角を計算できる。 せん断応力によるはりの変形を計算できる。 各種支持条件に対するEuler座屈荷重を計算できる。
	15th	総合演習	
	16th	期末試験	

Evaluation Method and Weight (%)

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	課題レポート	Total
Subtotal	70	0	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	0	0	0	0	0	30	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0

Akashi College		Year	2017		Course Title	建築材料
Course Information						
Course Code		0015		Course Category	Specialized / Compulsory	
Class Format		Lecture		Credits	School Credit: 1	
Department		Architecture		Student Grade	3rd	
Term		First Semester		Classes per Week	2	
Textbook and/or Teaching Materials		野口貴文ほか『ベーシック建築材料』彰国社				
Instructor		KAKUNO Yoshinori				
Course Objectives						
材料（建築）領域は、建築物に使用される主な材料の製造方法、組成、性質等を理解し、使用目的に応じて適切に材料を選定し、計画的、経済的に材料を活用することができる能力を養う領域である。 （１）構造材料分野（木、コンクリート、金属）では、構造性能について理解するとともに、要求される性能を発揮するために必要な要因について理解できる。 （２）仕上げ材料分野（内装、外装）では、多くの仕上げ材料を適切に選定するために、機能性と適用環境について理解できる。						
Rubric						
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1		構造材料分野では、構造性能および要求される性能を発揮するために必要な要因について十分理解できる。		構造材料分野では、構造性能および要求される性能を発揮するために必要な要因について理解できる。		構造材料分野では、構造性能および要求される性能を発揮するために必要な要因について理解できていない。
評価項目2		仕上げ材料分野では、多くの仕上げ材料を適切に選定するために、機能性と適用環境について十分理解できる。		仕上げ材料分野では、多くの仕上げ材料を適切に選定するために、機能性と適用環境について理解できる。		仕上げ材料分野では、多くの仕上げ材料を適切に選定するために、機能性と適用環境について十分理解できていない。
Assigned Department Objectives						
学習・教育目標 (D)						
Teaching Method						
Outline		建築材料について、素材毎の特徴と主要な製品を知ること。各建築部位に求められる基本的な性能を知ること。				
Style		講義形式				
Notice		身の周りの環境をよく観察し、どのような材料がどのように使われているのか興味・関心を持つこと。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課				
Course Plan						
			Theme		Goals	
1st Semester	1st Quarter	1st	オリエンテーション(建築材料の分類・総論)		建築材料の変遷や発展について説明できる。 建築材料の規格・要求性能について説明することができる。	
		2nd	木材(1)		木材の種類について説明できる。 木材の成長と組織形成から、物理的性質の違いについて説明できる。	
		3rd	木材(2)		傷（節など）について説明できる。 耐久性（例えば腐れ、枯渇、虫害など）について説明できる。 耐火性について説明できる。 近年の木材工業製品（集成材、積層材など）の種類について説明できる。	
		4th	コンクリート(1)		セメントの製造方法について説明できる。 セメントの種類・特徴について説明できる。 コンクリート用軽量骨材があることを知っている。 混和材（剤）料の種類をあげることができる。 コンクリートの調合のうち、水セメント比の計算ができる。 スランプ、空気量について、強度または、耐久性の観点でその影響について説明できる。	
		5th	コンクリート(2)		コンクリートの強度の関係について説明できる。 耐久性について現象名をあげることができる。 各種・特殊コンクリートの名称をあげることができる。 コンクリート製品の特徴について説明できる。	
		6th	鋼材(1)		鋼材の耐久性の現象と概要について説明できる。 鋼材の応力～ひずみ関係について説明でき、その特異点の特定と性質について説明できる。	
		7th	鋼材(2)		建築用構造用鋼材の種類・性質について説明できる。 建築用鋼製品の特徴・性質について説明できる。	
		8th	中間試験			
	2nd Quarter	9th	メタル素材(ステンレス、アルミニウム、銅など)		非鉄金属の分類、特徴をあげることができる。	
		10th	石材、ガラス		石材の種類・性質について説明できる。 石材の使用方法について説明できる。 ガラスの製法、種類をあげることができる。	
		11th	焼成品(タイル、れんが、瓦など)		粘土焼成材料の特徴をあげることができる。 タイルの種類、特徴をあげることができる。	
		12th	左官材料(土壁、しっくいなど)		内装材料として（モルタル、しっくい、クロス、珪藻土、合板、ボードなど）をあげることができる。	
		13th	高分子系材料		高分子系材料の種類・特徴をあげることができる。	

		14th	新素材・高機能性材料	新素材・高機能性材料について特徴をあげることができる。
		15th	建築材料と環境	建築材料と環境問題の関係について説明することができる。
		16th	期末試験	
Evaluation Method and Weight (%)				
		試験	小テスト	Total
Subtotal		70	30	100
基礎的能力		0	0	0
専門的能力		70	30	100
分野横断的能力		0	0	0

Akashi College		Year	2017		Course Title	建築設計演習Ⅲ A	
Course Information							
Course Code		0018		Course Category		Specialized / Compulsory	
Class Format		Seminar		Credits		School Credit: 2	
Department		Architecture		Student Grade		3rd	
Term		First Semester		Classes per Week		4	
Textbook and/or Teaching Materials		コンパクト版 建築史、建築史編集委員会、彰国者					
Instructor		NAKAGAWA Hajime,HIGASHINO Adriana P.					
Course Objectives							
Rubric							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
Assigned Department Objectives							
学習・教育目標 (D) 学習・教育目標 (E) 学習・教育目標 (F)							
Teaching Method							
Outline		本科目は、3年生まで学習した専門知識を統合的に展開し、空間構成の基本を学ぶ。具体的な与件に則して設計を行う。構造体の形式やディテール、材料について考え、その特性を生かした形態や空間を持つ建築の設計を行う。指定された条件に基づき、自由な発想で各種建築物の設計・デザインの基本を身につけることを目的とする。建築製図用具を使用し、手書きによる線の描き分け、縮尺の概念、寸法・文字の記入方法を理解し、建築製図の規則を習得する。これにより図面上での建築物の表現・投影方法ができることを目指す。					
Style		設計課題の政策を通して学習する。					
Notice		建物の見学や専門雑誌の読書を通して建築について考えること。本科目は、授業外での学修時間が単位数に含まれている。提出期限に遅れないよう、計画的に課題に取り組むこと。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/4以上の欠課					
Course Plan							
			Theme		Goals		
1st Semester r	1st Quarter	1st	第1課題 「構造体から建築表現を考える」 課題説明および現地見学		設計趣旨、コンセプトを理解し、先入観に縛られず、自由な発想を育成する。		
		2nd	エスキス1:構造体に関する事例発表		設計趣旨、コンセプトを理解し、先入観に縛られず、自由な発想を育成する。		
		3rd	エスキス2:個別指導によるエスキスチェック		設計趣旨、コンセプトを理解し、先入観に縛られず、自由な発想を育成する。		
		4th	エスキス3:個別指導によるエスキスチェック		設計趣旨、コンセプトを理解し、先入観に縛られず、自由な発想を育成する。		
		5th	図面作成1:エスキスの再検討を行い、下書き作業に取りかかる		手書きでの線の描き分けができる。正投影図を用いた図面製作ができる。図面の図構成を理解し、種類別の図と文字情報をバランス良く配置できる。図面上（2次元）立体的な発想とその表現ができる。模型を製作できる。写真撮影に必要な知識（図構成、露出、焦点）を用いて、模型写真撮影ができる。		
		6th	図面作成3:図面作成および模型の作成		手書きでの線の描き分けができる。正投影図を用いた図面製作ができる。図面の図構成を理解し、種類別の図と文字情報をバランス良く配置できる。図面上（2次元）立体的な発想とその表現ができる。模型を製作できる。写真撮影に必要な知識（図構成、露出、焦点）を用いて、模型写真撮影ができる。		
		7th	図面作成2:仕上げ図面作成		手書きでの線の描き分けができる。正投影図を用いた図面製作ができる。図面の図構成を理解し、種類別の図と文字情報をバランス良く配置できる。図面上（2次元）立体的な発想とその表現ができる。模型を製作できる。写真撮影に必要な知識（図構成、露出、焦点）を用いて、模型写真撮影ができる。		
		8th	第1課題 講評会:図面・模型を提示し、設計趣旨を発表する。講評と学生同士の意見交換を行う		設計趣旨、コンセプトを理解し、建築における形態について説明できる。		
	2nd Quarter	9th	第1課題 「こども園の設計」 課題説明および現地見学		設計趣旨、コンセプトを理解し、先入観に縛られず、自由な発想を育成する。		
		10th	エスキス1:こども園に関する事例発表		設計趣旨、コンセプトを理解し、先入観に縛られず、自由な発想を育成する。		
		11th	エスキス2:個別指導によるエスキスチェック		設計趣旨、コンセプトを理解し、先入観に縛られず、自由な発想を育成する。		
		12th	エスキス3:個別指導によるエスキスチェック		手書きでの線の描き分けができる。正投影図を用いた図面製作ができる。図面の図構成を理解し、種類別の図と文字情報をバランス良く配置できる。図面上（2次元）立体的な発想とその表現ができる。模型を製作できる。写真撮影に必要な知識（図構成、露出、焦点）を用いて、模型写真撮影ができる。		
		13th	図面作成1:エスキスの再検討を行い、下書き作業に取りかかる		手書きでの線の描き分けができる。正投影図を用いた図面製作ができる。図面の図構成を理解し、種類別の図と文字情報をバランス良く配置できる。図面上（2次元）立体的な発想とその表現ができる。模型を製作できる。写真撮影に必要な知識（図構成、露出、焦点）を用いて、模型写真撮影ができる。		

		14th	図面作成3:図面作成および模型の作成、夏休みの課題説明	手書きでの線の描き分けができる。正投影図を用いた図面製作ができる。図面の図構成を理解し、種類別の図と文字情報をバランス良く配置できる。図面上（2次元）立体的な発想とその表現ができる。模型を製作できる。写真撮影に必要な知識（図構成、露出、焦点）を用いて、模型写真撮影ができる。
		15th	第2課題 講評会:図面・模型を提示し、設計趣旨を発表する。講評と学生同士の意見交換を行う	設計趣旨、コンセプトを理解し、建築における形態について説明できる。
		16th	期末試験	

Evaluation Method and Weight (%)

	課題	発表					Total
Subtotal	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	80	20	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

Akashi College		Year	2017		Course Title	建築設計演習Ⅲ B
Course Information						
Course Code	0019			Course Category	Specialized / Compulsory	
Class Format	Seminar			Credits	Academic Credit: 4	
Department	Architecture			Student Grade	3rd	
Term	Second Semester			Classes per Week	4	
Textbook and/or Teaching Materials	(住宅をデザインする/鹿島出版会)(建築のかたちと空間をデザインする/彰国社)(アクティビティを設計せよ/彰国社)					
Instructor	KUDOH Kazumi,HIRAIISHI Toshihiro,KAKUNO Yoshinori					
Course Objectives						
与えられた条件をもとに、コンセプトがまとめられる。 与えられた条件をもとに、動線・ゾーニングのエスキスができる。 与えられた条件をもとに、配置図、各階平面図、立面図、断面図などがかかる。 敷地と周辺地域および景観などに配慮し、配置、意匠を検討できる。 講評会等において、コンセプトなどをまとめ、プレゼンテーションができる。						
Rubric						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	与えられた条件をもとに、創造的なコンセプトがまとめられる。		与えられた条件をもとに、コンセプトがまとめられる。		与えられた条件をもとに、コンセプトがまとめられない。	
評価項目2	与えられた条件をもとに、動線・ゾーニングのエスキスが的確にできる。		与えられた条件をもとに、動線・ゾーニングのエスキスができる。		与えられた条件をもとに、動線・ゾーニングのエスキスができない。	
評価項目3	与えられた条件をもとに、配置図、各階平面図、立面図、断面図などが的確にかける。		与えられた条件をもとに、配置図、各階平面図、立面図、断面図などがかかる。		与えられた条件をもとに、配置図、各階平面図、立面図、断面図などがかけない。	
評価項目4	敷地と周辺地域および景観などに配慮し、配置、意匠を的確に検討できる。		敷地と周辺地域および景観などに配慮し、配置、意匠を検討できる。		敷地と周辺地域および景観などに配慮し、配置、意匠を検討できない。	
評価項目5	講評会等において、コンセプトなどをまとめ、的確なプレゼンテーションができる。		講評会等において、コンセプトなどをまとめ、プレゼンテーションができる。		講評会等において、コンセプトなどをまとめ、プレゼンテーションができる。	
Assigned Department Objectives						
学習・教育目標 (D) 学習・教育目標 (E) 学習・教育目標 (F)						
Teaching Method						
Outline	建築設計演習Ⅲは、建築設計に関して学んできた基礎的事項を活かし、複雑な条件の併用住宅の設計を行う。第2課題では建築と都市空間の関係性を読み取り、条件とプログラムをグループワークにより計画して設計する。					
Style	演習形式で建築設計の技術を習得することを目指す。2.5世帯住宅とサテライトカレッジの2課題の設計を行う。サテライトカレッジについては、グループで設計を行うこととする。					
Notice	日常的に建物や雑誌の作品にふれること。エスキスはトレーシングペーパーを使用し、方眼紙の使用は認めない。単位はmmを使用する。建築設計演習ⅢAの夏期休暇課題を提出すること。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/4以上の欠課					
Course Plan						
			Theme	Goals		
2nd Semester	3rd Quarter	1st	第1課題：ケヤキのある家 2.5世帯住宅 建築設計演習ⅢAの夏期休暇課題の提出	敷地調査と事例調査を行い、レポートにまとめることができる。		
		2nd	エスキス1:コンセプトワーキング	二世帯併用住宅のコンセプトがまとめられる。		
		3rd	エスキス2:ダイアグラム、ゾーニングの検討	二世帯併用住宅の動線・ゾーニングのエスキスができる。		
		4th	エスキス3:個別指導によるエスキスチェック	二世帯併用住宅の配置図、各階平面図、立面図、断面図などがかかる。		
		5th	エスキス4:個別指導によるエスキスチェック	二世帯併用住宅の設定敷地と周辺地域および景観などに配慮し、配置、意匠を検討できる。		
		6th	エスキス5:個別指導によるエスキスチェック	二世帯併用住宅の設計した建築物の模型またはパースなどを製作できる。		
		7th	講評会:図面・模型を提示し、設計趣旨を発表する。講評と学生同士の意見交換を行う	講評会等において、コンセプトなどをまとめ、プレゼンテーションができる。		
		8th	第2課題：グループワークによるサテライトカレッジの設計	敷地調査と事例調査を行い、レポートにまとめることができる。		
	4th Quarter	9th	スタディの模型製作:エスキスをもとにスタディ模型を制作する	サテライトカレッジのコンセプトがまとめられる。コンセプトがまとめられる。		
		10th	スタディの模型製作:エスキスをもとにスタディ模型を制作する	サテライトカレッジの動線・ゾーニングのエスキスができる。		
		11th	図面作成1:エスキスの再検討を行い、下書き作業に取りかかる	サテライトカレッジの配置図、各階平面図、立面図、断面図などがかかる。		
		12th	図面作成2:仕上げ図面作成	サテライトカレッジの設定敷地と周辺地域および景観などに配慮し、配置、意匠を検討できる。		
		13th	図面作成3:図面作成および模型の作成	設計した建築物の模型またはパースなどを製作できる。		
		14th	図面作成4:図面作成および模型の作成	設計した建築物の模型またはパースなどを製作できる。		
		15th	講評会:図面・模型を提示し、設計趣旨を発表する。講評と学生同士の意見交換を行う	講評会等において、コンセプトなどをまとめ、プレゼンテーションができる。		

		16th	期末試験実施せず				
Evaluation Method and Weight (%)							
	試験	発表	演習課題	課題の取り組み	ポートフォリオ	その他	Total
Subtotal	0	10	70	20	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	10	70	20	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

Akashi College		Year	2017		Course Title	図学	
Course Information							
Course Code	0021			Course Category	Specialized / Compulsory		
Class Format	Lecture			Credits	Academic Credit: 2		
Department	Architecture			Student Grade	3rd		
Term	Second Semester			Classes per Week	2		
Textbook and/or Teaching Materials	配布プリントVectorWorks2014ベーシックマスター						
Instructor	KUDOH Kazumi						
Course Objectives							
立体的な発想とその表現（正投象）ができる。 ソフトウェアを用い、各種建築図面を作成できる。							
Rubric							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	立体的な発想とその表現（正投象）ができる。						
評価項目2	ソフトウェアを用い、各種建築図面を作成できる。						
評価項目3							
Assigned Department Objectives							
学習・教育目標 (D) 学習・教育目標 (E)							
Teaching Method							
Outline	三次元空間を二次元(平面)に表現する能力を養う。二次元空間表現より三次元空間をイメージできる能力を養う。2次元CADの基本操作を習得する。						
Style							
Notice	欠席をしないで、授業中の演習問題に取り組むこと。課題については、進捗に合わせて各自で取り組むこと。できる限り授業中に理解・習得し、課題に取り組むように心がけてほしい。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課						
Course Plan							
			Theme	Goals			
2nd Semester r	3rd Quarter	1st	正投象の概念について、点と直線と跡	立体的な発想とその表現（正投象）ができる。正投象が理解できる。			
		2nd	平面の跡と副投象、平面上の点と直線	平面の正投象が作図できる。			
		3rd	直線の傾角と実長、平面と直線との交点	平面と直線の正投象が作図できる。			
		4th	立体の作図、立体と直線との交点	立体の正投象が作図できる。			
		5th	立体の接平面、立体の切断	複数の立体の正投象が作図できる。			
		6th	相貫体、陰影	複数の立体の正投象が作図できる。立体の陰影が理解できる。			
		7th	陰影	立体の陰影が表現できる。			
		8th	中間試験				
	4th Quarter	9th	情報と図形に関するCAD概念の理解と基本操作の習得	ソフトウェアを用い、建築図面作成の基礎が理解できる。			
		10th	2次元図形の作図 各種平面図形とその合成等の作図ツールの習得、通り芯、壁、柱を描く	ソフトウェアを用い、平面図を作成できる。			
		11th	建築平面図の作成 間仕切り壁、開口部を描く	ソフトウェアを用い、平面図を作成できる。			
		12th	建築平面図の作成 内外部建具を描く、造作線、シンボルの配置	ソフトウェアを用い、平面図を作成できる。			
		13th	建築立面図の作成	ソフトウェアを用い、立面図を作成できる。			
		14th	建築断面図の作成 曲面状の 壁の作図と建具詳細	ソフトウェアを用い、断面図を作成できる。			
		15th	建築平面図・立面図・断面図の作成 寸法、部屋名を記入、提出	ソフトウェアを用い、断面図を作成できる。作成した建築図面を変更し完成させることができる。			
		16th	期末試験				
Evaluation Method and Weight (%)							
	試験	課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	Total
Subtotal	85	15	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	85	15	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

Akashi College		Year	2018		Course Title	国語Ⅳ
Course Information						
Course Code	0060			Course Category	General / Compulsory	
Class Format	Lecture			Credits	Academic Credit: 2	
Department	Architecture			Student Grade	4th	
Term	Second Semester			Classes per Week	2	
Textbook and/or Teaching Materials	野田尚史・森口稔著：日本語を話すトレーニング（ひつじ書房）					
Instructor	ZENTOH Masashi					
Course Objectives						
1）報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。 2）作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。 3）課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。						
Rubric						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	明確な結論・意見・報告を分かりやすく、論理的・実証的、レイアウトにも優れたレジメに作成できる。		明確な結論・意見・報告を分かりやすく、論理的・実証的なレジメに作成できる。		結論・意見・報告を示す材料は上げられるが構成・レイアウトに不備がある。	
評価項目2	動作・スピード・わかりやすさに優れたプレゼンテーションができ、質問にも的確に答えることができる。		準備されたプレゼンテーションができるが、質問に対して即座に適切な回答ができない。		読み合わせに近いプレゼンテーションとなっている。	
評価項目3	テーマに即した意味のある発言が、簡潔・論理的・実証的にできる。		テーマに合った、意味のある発言だが、冗長となっている。		テーマから外れてはいないが、未整理な発言内容である。	
Assigned Department Objectives						
学習・教育到達度目標 (A) 学習・教育到達度目標 (E)						
Teaching Method						
Outline	テキストの設問に従った学生の発表と、それに対する質疑応答を中心に授業を進行する。日本語を使用する様々な場面での諸問題を取り上げ、日本語の表現と日本人の発想の特徴について、知識の整理、自発的な考察、適切な実践により習得することを目標とする。					
Style	講義形式。学生のプレゼンテーション（A4 1 枚のレジメを使用）と質疑応答を中心に、各テーマの理解とプレゼン技術の習得をはかる。					
Notice	本科目は、授業で保証する学習時間と、予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が、90時間に相当する学習内容である。 事前学習を含め、発表と質疑応答に意欲的に取り組み、国語表現に必要な知識と技術を確実に習得するよう心がけること。なお適宜、資料を配付し、小テストを実施する。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課					
Course Plan						
			Theme	Goals		
2nd Semester	3rd Quarter	1st	オリエンテーション 授業の概要 発表予定の立案	レジメの作成の仕方、プレゼン注意、それぞれの評価基準が理解できる。		
		2nd	問い合わせをする トレーニング1の発表と質疑応答 上記問題点の考察と整理	「問い合わせ」のテーマを理解し、必要な技術（話し方・5W2H・タイミングなど）を中心としたレジメを作成し、プレゼンテーションすることができる。		
		3rd	お願いをする トレーニング3の発表と質疑応答 上記問題点の考察と整理	「お願いする」テーマを理解し、必要な技術（気配り・タイミング・話し方など）を中心としたレジメを作成し、プレゼンテーションすることができる。		
		4th	誘う・断る・謝る トレーニング5の発表と質疑応答 上記問題点の考察と整理	対他意識に関するテーマを理解し、必要な技術（気配り・タイミング・話し方など）を中心としたレジメを作成し、プレゼンテーションすることができる。		
		5th	インタビューをする トレーニング7の発表と質疑応答 上記問題点の考察と整理	「インタビュー」のテーマを理解し、必要な技術（事前準備・対象選択・話し方など）を中心としたレジメを作成し、プレゼンテーションすることができる。		
		6th	会議で発言する1 トレーニング10の発表と質疑応答 上記問題点の考察と整理	「会議での発言」のテーマを理解し、必要な技術（報告資料・提案資料・意見の出し方など）を中心としたレジメを作成し、プレゼンテーションすることができる。		
		7th	会議で発言する2 トレーニング10の発表と質疑応答 上記問題点の考察と整理	「会議での発言」のテーマを理解し、必要な技術（意見整理・決定の仕方・会議進行など）を中心としたレジメを作成し、プレゼンテーションすることができる。		
		8th	中間試験			
	4th Quarter	9th	分野別課題研究研究1 受講者に関係の深い事例研究	テーマ別の事例について議論として意見をだすことができる。		
		10th	やさしい日本語 トレーニング12の発表と質疑応答 上記問題点の考察と整理	「やさしい日本語」のテーマを理解し、必要な技術（語選択・異文化理解・マナーなど）を中心としたレジメを作成し、プレゼンテーションすることができる。		
		11th	プレゼンテーション1 トレーニング13の発表と質疑応答 上記問題点の考察と整理	「プレゼンテーション」のテーマを理解し、必要な技術（公的表現・用語選択・図表作成など）を中心としたレジメを作成し、プレゼンテーションすることができる。		

		12th	プレゼンテーション 2・研究発表 1 トレーニング 1 3・1 4 の発表と質疑応答 上記問題点の考察と整理	「プレゼンテーション」のテーマを理解し、必要な技術（レジメ作成・材料選択・レイアウトなど）を中心としたレジメを作成し、プレゼンテーションすることができる。
		13th	研究発表 2 トレーニング 1 4 の発表と質疑応答 上記問題点の考察と整理	「研究発表」のテーマを理解し、必要な技術（資料訂正・序論の構成・資料作成など）を中心としたレジメを作成し、プレゼンテーションすることができる。
		14th	面接 1 トレーニング 1 5 の発表と質疑応答 上記問題点の考察と整理	「面接」のテーマを理解し、必要な技術（質問意図・種類別の基準・自己紹介の仕方など）を中心としたレジメを作成し、プレゼンテーションすることができる。
		15th	面接 2 トレーニング 1 5 の発表と質疑応答 上記問題点の考察と整理	「面接」のテーマを理解し、必要な技術（志望理由・質問を通じたPRなど）を中心としたレジメを作成し、プレゼンテーションすることができる。
		16th	期末試験	

Evaluation Method and Weight (%)							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	Total
Subtotal	50	50	0	0	0	0	100
基礎的能力	50	50	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

Akashi College		Year	2018		Course Title	保健体育Ⅳ			
Course Information									
Course Code		0061		Course Category		General / Compulsory			
Class Format		Skill		Credits		School Credit: 2			
Department		Architecture		Student Grade		4th			
Term		Year-round		Classes per Week		2			
Textbook and/or Teaching Materials		新版保健体育概論(近畿地区高専体育研究会編:晃洋書房)							
Instructor		GOTOH Takayuki,ISHIDA Masami,KOBAYASHI Yuki							
Course Objectives									
・授業に参加して自身の健康増進、体力向上に努める。また、ある程度の自己管理能力がある。 ・安全にスポーツを行うための行動がとれる。また、チームで協調、共同することの意義を認識し、そのために必要な行動がとれる。									
Rubric									
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安(可)		未到達レベルの目安	
出席・態度		主体的に授業に参加して自身の健康増進、体力向上に努める。自己管理能力が高い。		授業に参加して自身の健康増進、体力向上に努める。ある程度自己管理能力がある。		授業への参加や自身の健康増進、体力向上に消極的。自己管理能力が高くない。		授業に参加しない。自身の健康増進、体力向上に努めない。自己管理能力が低い。	
実技		各種目の練習、ゲームに積極的に参加し、競技力が非常に高い。また、ゲーム等に大きな影響力を持つ。		各種目の練習、ゲームに積極的に参加することができる。また、その技術を身に付けている。		各種目の練習、ゲームに参加することができる。		各種目の練習、ゲームに参加しない。	
リーダーシップ		リーダーの役割をよく理解し、チームワーク力を高めることができる。		リーダーの役割を理解して担う、もしくは引き受けることができる。		リーダーの役割を理解しているが、その役割を担うことはない。		リーダーの役割を理解していない。またその役割を担うこともない。	
Assigned Department Objectives									
学習・教育到達度目標 (A) 学習・教育到達度目標 (B)									
Teaching Method									
Outline		スポーツを日常的に取り入れる習慣を身に付けてもらうべく、その楽しさや奥深さをさらに知ってもらいたい。この授業は、主体的、積極的に参加する姿勢を求めている。グループを作り、リーダーが中心となって授業内容の立案、検討、実施をすべて行ってもらう。選択可能な種目は以下の通りである。野球、ソフトボール、サッカー、フットサル、テニス、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球							
Style		下級生で覚えたルールやゲームの進め方、習得した基本技術を基にゲームを通してさらにスキルアップしてもらいたい。また、リーダーを中心にチームで協調、共同しながらチームワーク力を高める楽しさも体験してほしい。受講学生が主体的に、安全かつ雰囲気の良い授業となるような取り組みをし、担当教員がそのサポートをするような授業作りをしたいと考えている。							
Notice		・トレーニングウェア、運動靴を着用すること。 ・アクセサリ類、時計、その他不必要な物の着用や持ち込みを禁止する。 ・遅刻は開始20分までとする。20分以後の参加は認めるが欠席扱いとする。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/4以上の欠課							
Course Plan									
			Theme			Goals			
1st Semester	1st Quarter	1st	ガイダンス、野球、ソフトボール、サッカー、フットサル、テニス、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球			この授業の目的、目標を理解する。希望種目に分かれチームを作り、リーダーを選出する。			
		2nd	野球、ソフトボール、サッカー、フットサル、テニス、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球			リーダーを中心に準備体操、練習、ゲームを行い、授業の振り返りを行うことができる。			
		3rd	野球、ソフトボール、サッカー、フットサル、テニス、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球			リーダーを中心に準備体操、練習、ゲームを行い、授業の振り返りを行うことができる。			
		4th	野球、ソフトボール、サッカー、フットサル、テニス、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球			リーダーを中心に準備体操、練習、ゲームを行い、授業の振り返りを行うことができる。			
		5th	野球、ソフトボール、サッカー、フットサル、テニス、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球			リーダーを中心に準備体操、練習、ゲームを行い、授業の振り返りを行うことができる。			
		6th	野球、ソフトボール、サッカー、フットサル、テニス、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球			リーダーを中心に準備体操、練習、ゲームを行い、授業の振り返りを行うことができる。			
		7th	野球、ソフトボール、サッカー、フットサル、テニス、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球			リーダーを中心に準備体操、練習、ゲームを行い、授業の振り返りを行うことができる。			
		8th	中間試験実施せず						
	2nd Quarter	9th	野球、ソフトボール、サッカー、フットサル、テニス、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球			希望種目に分かれチームを作り、リーダーを選出する。			
		10th	野球、ソフトボール、サッカー、フットサル、テニス、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球			リーダーを中心に準備体操、練習、ゲームを行い、授業の振り返りを行うことができる。			
		11th	野球、ソフトボール、サッカー、フットサル、テニス、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球			リーダーを中心に準備体操、練習、ゲームを行い、授業の振り返りを行うことができる。			

2nd Semester		12th	野球、ソフトボール、サッカー、フットサル、テニス、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球	リーダーを中心に準備体操、練習、ゲームを行い、授業の振り返りを行うことができる。
		13th	野球、ソフトボール、サッカー、フットサル、テニス、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球	リーダーを中心に準備体操、練習、ゲームを行い、授業の振り返りを行うことができる。
		14th	野球、ソフトボール、サッカー、フットサル、テニス、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球	リーダーを中心に準備体操、練習、ゲームを行い、授業の振り返りを行うことができる。
		15th	野球、ソフトボール、サッカー、フットサル、テニス、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球	リーダーを中心に準備体操、練習、ゲームを行い、授業の振り返りを行うことができる。
		16th	期末試験実施せず	
	3rd Quarter	1st	スポーツ大会練習	スポーツ大会が安全に行えるよう準備、練習をする。
		2nd	野球、ソフトボール、サッカー、フットサル、テニス、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球	希望種目に分かれチームを作り、リーダーを選出する。
		3rd	野球、ソフトボール、サッカー、フットサル、テニス、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球	リーダーを中心に準備体操、練習、ゲームを行い、授業の振り返りを行うことができる。
		4th	野球、ソフトボール、サッカー、フットサル、テニス、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球	リーダーを中心に準備体操、練習、ゲームを行い、授業の振り返りを行うことができる。
		5th	野球、ソフトボール、サッカー、フットサル、テニス、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球	リーダーを中心に準備体操、練習、ゲームを行い、授業の振り返りを行うことができる。
		6th	野球、ソフトボール、サッカー、フットサル、テニス、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球	リーダーを中心に準備体操、練習、ゲームを行い、授業の振り返りを行うことができる。
		7th	野球、ソフトボール、サッカー、フットサル、テニス、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球	リーダーを中心に準備体操、練習、ゲームを行い、授業の振り返りを行うことができる。
		8th	中間試験実施せず	
	4th Quarter	9th	野球、ソフトボール、サッカー、フットサル、テニス、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球	希望種目に分かれチームを作り、リーダーを選出する。
		10th	野球、ソフトボール、サッカー、フットサル、テニス、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球	リーダーを中心に準備体操、練習、ゲームを行い、授業の振り返りを行うことができる。
		11th	野球、ソフトボール、サッカー、フットサル、テニス、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球	リーダーを中心に準備体操、練習、ゲームを行い、授業の振り返りを行うことができる。
		12th	野球、ソフトボール、サッカー、フットサル、テニス、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球	リーダーを中心に準備体操、練習、ゲームを行い、授業の振り返りを行うことができる。
		13th	野球、ソフトボール、サッカー、フットサル、テニス、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球	リーダーを中心に準備体操、練習、ゲームを行い、授業の振り返りを行うことができる。
		14th	野球、ソフトボール、サッカー、フットサル、テニス、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球	リーダーを中心に準備体操、練習、ゲームを行い、授業の振り返りを行うことができる。
		15th	野球、ソフトボール、サッカー、フットサル、テニス、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球	リーダーを中心に準備体操、練習、ゲームを行い、授業の振り返りを行うことができる。
		16th	期末試験実施せず	

Evaluation Method and Weight (%)

	出席・授業態度	実技	リーダーシップ	Total
Subtotal	75	10	15	100
基礎的能力	75	0	0	75
分野横断的能力	0	10	15	25

Akashi College		Year	2018		Course Title	英語Ⅳ A	
Course Information							
Course Code		0062		Course Category		General / Compulsory	
Class Format		Lecture		Credits		School Credit: 1	
Department		Architecture		Student Grade		4th	
Term		First Semester		Classes per Week		2	
Textbook and/or Teaching Materials		(1) 穂本浩美、濱田真由美「Roman Holiday」:マクミランランゲージハウス(2) 刀祢雅彦「システム英単語」(3年次より継続使用):駿台文庫					
Instructor		AKIMOTO Hiromi					
Course Objectives							
・実映像を含む視覚教材を通して英語圏文化に対する理解を深める。 ・英文リーディング、リスニングを通して語学力増強および基礎的なコミュニケーションの能力養成を目指す。							
Rubric							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		実映像を含む視覚教材を通して英語圏文化に対する理解を深めることができる。		実映像を含む視覚教材を通して英語圏文化に対する基礎的な理解を深めることができる。		実映像を含む視覚教材を通して英語圏文化に対する理解を深めることができない。	
評価項目2		英文リーディング、リスニングを通して語学力増強およびコミュニケーションの能力を養成することができる。		英文リーディング、リスニングを通して語学力増強および基礎的なコミュニケーションの能力養成を目指すことができる。		英文リーディング、リスニングを通して語学力増強および基礎的なコミュニケーションの能力を養成できない。	
Assigned Department Objectives							
学習・教育到達度目標 (A) 学習・教育到達度目標 (B) 学習・教育到達度目標 (E)							
Teaching Method							
Outline		精読、速読を行うことでリーディング力の向上を狙い、英語圏文化の特徴についても知識吸収を目指す。映画で使われる英語表現を学ぶことを通して語彙増強およびリスニング力の向上もはかる。					
Style		単語の習得を確認するための小テストを行い、教科書による講義、英作文、グループもしくはペアによる口頭練習を実施する。					
Notice		授業中の私語、居眠り、忘れ物、予習の不徹底、携帯電話の使用などは欠席扱いとみなすことがあるので要注意。欠席過多、試験未受験など明らかな棄権行為が原因で成績不振に陥った場合、原則として再試験や学力補充は行わない。合格の対象としない欠席条件(割合) 1/4以上の欠課					
Course Plan							
			Theme		Goals		
1st Semester	1st Quarter	1st	授業概要説明		授業で行う内容、課題、評価方法を整理し、開講期を通してなすべきことを理解できる。		
		2nd	英語圏文化演習		テキストで取り扱う映画を視聴し、英米文化に触れると共に次週以降の準備を行う。		
		3rd	教科書 Unit 1およびクイズ(1)		重要表現「初対面の挨拶で使う表現」の確認と応用。		
		4th	教科書 Unit 2およびクイズ(2)		重要表現「行き先を尋ねる表現」の確認と応用。		
		5th	教科書 Unit 3およびクイズ(3)		重要表現「許可を求める表現」の確認と応用。		
		6th	教科書 Unit 4およびクイズ(4)		重要表現「電話で使われる表現」の確認と応用。		
		7th	レビューとクイズ(5)		これまでの授業の復習を行う。		
		8th	後期中間試験		これまでの学習で理解したことを成果として表すことができる。		
	2nd Quarter	9th	後期中間試験返却および英語圏文化演習		映像やプリントを用い英語圏文化の考察を試みる。		
		10th	教科書 Unit 5およびクイズ(6)		重要表現「感謝の気持ちを伝える表現」の確認と応用。		
		11th	教科書 Unit 6およびクイズ(7)		重要表現「美容院で使われる表現」の確認と応用。		
		12th	英語圏文化演習およびクイズ(8)		映像やプリントを用い英語圏文化の考察を試みる。		
		13th	教科書 Unit 7およびクイズ(9)		重要表現「好みを尋ねる表現」の確認と応用。		
		14th	教科書 Unit 8およびクイズ(10)		重要表現「場所を尋ねる表現」の確認と応用。		
		15th	レビュー		これまでの授業の復習を行う。		
		16th	期末試験		これまでの学習で理解したことを成果として表すことができる。		
Evaluation Method and Weight (%)							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	小テスト	Total
Subtotal	50	0	0	0	0	50	100
基礎的能力	50	0	0	0	0	50	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

Akashi College		Year	2018		Course Title	英語Ⅳ B	
Course Information							
Course Code	0063			Course Category	General / Compulsory		
Class Format	Lecture			Credits	School Credit: 1		
Department	Architecture			Student Grade	4th		
Term	Second Semester			Classes per Week	2		
Textbook and/or Teaching Materials	(1) Successful Keys to the TOEIC L & R Test: 4th Edition、(2) 『データベース4500』 (3年次よりの継続)						
Instructor	KITAGAWA Chiho						
Course Objectives							
(1) 英語の聴解力・読解力の向上 (学習教育目標 E-2) : TOEIC 用教材における聴解及び読解に関する演習を通して、実用的な英語運用能力の向上を図る。 (2) 英語の語彙力の増強 (学習教育目標 E-2) : 英単語の学習を通して、英語の語彙力の増強を図る。 (3) 現代社会に直結した題材に触れることによって、将来の技術者として必要な論理性や国際性など、広い教養を身につける。(学習教育目標 A-2・B-1)							
Rubric							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	聴解及び読解に関する演習を通して、実用的な英語運用能力の向上を十分に図ることができる。		聴解及び読解に関する演習を通して、実用的な英語運用能力の向上を図ることができる。		聴解及び読解に関する演習を通して、実用的な英語運用能力の向上を図ることができない。		
評価項目2	英単語の学習を通して、英語の語彙力の増強を十分に図ることができる。		英単語の学習を通して、英語の語彙力の増強を図ることができる。		英単語の学習を通して、英語の語彙力の増強を図ることができない。		
評価項目3	将来の技術者として必要な論理性や国際性など、広い教養を十分に身につけることができる。		将来の技術者として必要な論理性や国際性など、広い教養を身につけることができる。		将来の技術者として必要な論理性や国際性など、広い教養を身につけることができない。		
Assigned Department Objectives							
学習・教育到達度目標 (A) 学習・教育到達度目標 (B) 学習・教育到達度目標 (E)							
Teaching Method							
Outline	(1) TOEIC の演習問題を通して、実践的な英語運用能力の向上を目指す。 (2) 映像やオーセンティックな素材から情報を読み取り、英語による口頭の発話に結び付ける。						
Style	語彙力を確認するためのテストを実施する。テキストの重要ポイントについて解説をし、各ユニットの問題演習を行う。						
Notice	予習の不備や忘れ物、居眠り、スマートフォンの使用などは欠席扱いとなる可能性があるので要注意。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/4以上の欠課						
Course Plan							
			Theme	Goals			
2nd Semester r	3rd Quarter	1st	授業のガイダンス 授業の進め方・単語テスト・課題・評価の方法などについて説明を行う。	授業内容や課題について適切な理解を深め今後の計画を立てる。			
		2nd	Unit 1 テーマに関する聴解、読解の学習をする。	教科書のテーマに沿い語彙の増強、リスニングと文法、読解力の向上を図る。			
		3rd	Unit 2 テーマに関する聴解、読解の学習をする。	教科書のテーマに沿い語彙の増強、リスニングと文法、読解力の向上を図る。			
		4th	英語圏文化演習	映像や素材をもとに英語圏文化への理解を深める。			
		5th	Unit 4 テーマに関する聴解、読解の学習をする。	教科書のテーマに沿い語彙の増強、リスニングと文法、読解力の向上を図る。			
		6th	Unit 5 テーマに関する聴解、読解の学習をする。	教科書のテーマに沿い語彙の増強、リスニングと文法、読解力の向上を図る。			
		7th	Unit 6 後期中間試験Q&A	教科書のテーマに沿い語彙の増強、リスニングと文法、読解力の向上を図る。			
		8th	中間試験 中間試験を実施する。	これまでの授業内容に対する理解力を試す。			
	4th Quarter	9th	中間試験の返却と解説 中間試験の返却と解説を行う。	弱点の確認と克服を目指す。			
		10th	Unit 7 テーマに関する聴解、読解の学習をする。	教科書のテーマに沿い語彙の増強、リスニングと文法、読解力の向上を図る。			
		11th	Unit 8 テーマに関する聴解、読解の学習をする。	教科書のテーマに沿い語彙の増強、リスニングと文法、読解力の向上を図る。			
		12th	英語圏文化演習	映像や素材をもとに英語圏文化への理解を深める。			
		13th	Unit 9 テーマに関する聴解、読解の学習をする。	教科書のテーマに沿い語彙の増強、リスニングと文法、読解力の向上を図る。			
		14th	Unit 10 テーマに関する聴解、読解の学習をする。	教科書のテーマに沿い語彙の増強、リスニングと文法、読解力の向上を図る。			
		15th	Unit 11 後期期末試験Q&A	教科書のテーマに沿い語彙の増強、リスニングと文法、読解力の向上を図る。			
		16th	期末試験	これまでの授業内容に対する理解力を試す。			
Evaluation Method and Weight (%)							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	Total
Subtotal	50	0	0	0	0	50	100

基礎的能力	50	0	0	0	0	50	100
專門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

Akashi College		Year	2018	Course Title	英会話Ⅱ
Course Information					
Course Code	0064		Course Category	General / Compulsory	
Class Format	Lecture		Credits	School Credit: 1	
Department	Architecture		Student Grade	4th	
Term	Second Semester		Classes per Week	2	
Textbook and/or Teaching Materials	Speaking of Speech Level 2: Basic Skills for Academic and Professional Presentations; by Charles LeBeau; Copyright 2015; Macmillan Education; ISBN: 978-4-7773-6515-9.				
Instructor	HERBERT John C.				
Course Objectives					
By the end of this course, the students should be able to prepare 5-minute English presentations, and they should understand the cultural norms of giving presentations in an English speaking context. To this end, the students will be required to work on improving their English communication and presentation skills in the following areas as described in the textbook: 1) Creating a confident "Physical Message" which utilizes good posture, eye contact, gestures, and voice inflection. 2) Displaying a clear "Visual Message" with well prepared slides to support their speech. 3) Writing a well structured "Story Message" with a good introduction, body, and conclusion.					
Rubric					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
Physical Message	Stand up straight, look at the audience, use natural gestures and appropriate voice inflection		Stand up straight, look at the audience, use planned gestures, and experiment with voice inflection		Slouch as you read without gestures or voice inflection
Visual Message	Prepare very interesting and meaningful slides and synchronize them perfectly with your speech performance		Prepare easily understood and meaningful slides and use them appropriately		Prepare crowded slides that are hard to read without practicing slide synchronization
Story Message	Make sure you have a well-structured presentation with all of the components of a speech described in your textbook.		Create a good English speech introduction, body, and conclusion		Fail to make your message clear or fail to organize your message in a logical order
English	Speak clearly with excellent English vocabulary and grammar		Speak clearly with understandable English vocabulary and grammar		Use only katakana to speak English
Assigned Department Objectives					
学習・教育到達度目標 (A) 学習・教育到達度目標 (B) 学習・教育到達度目標 (E)					
Teaching Method					
Outline	The objective of this course is to develop the oral English communication skills necessary for making academic and professional presentations in English. The course will focus on strategies for creating and delivering presentations, and plenty of English language support will be provided by the textbook and the teacher as needed.				
Style	Every two weeks, teams of five students will prepare and perform a different type of English presentation, such as a sales presentation, a technical presentation, an academic presentation and so on. All team members will be graded for preparing the presentations. However, only one team member has to speak for each of these 2-4 minute "Solo Presentations." And, every presentation must be performed by a different team member each time, so that everyone performs a "Solo Presentation" once by the end of the semester. Then, in the last class, all of the presentation techniques covered in the course will be combined, and all 5 team members will speak in a final 8-10 minute English presentation.				
Notice	Active participation in English is essential for completing this course successfully. During this class, being more than 15 minutes late, doing coursework for other professors, sleeping, talking out-of-turn at length, playing smart phone games, and any similar actions that distract one's focus away from class will result in a recorded absence or a required make-up class. 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/4以上の欠課				
Course Plan					
			Theme	Goals	
2nd Semester	3rd Quarter	1st	Preparation for the Option Presentation: Presentation teams will learn about how to prepare a presentation on options for fast-food restaurants, cell phone carriers, or airlines. Homework: Prepare an option presentation for Week 2.	Develop skills in giving, evaluating, and summarizing options in English.	
		2nd	Performing the Option Presentation: One team member from each team will perform a solo presentation called the "Option Presentation." Homework: Practice online activities to review common English errors that will be on the Week 3 quiz.	Focus on smoothness, loudness, expression, eye contact, and posture for making a good English presentation.	
		3rd	Common English Errors Quiz 1. Preparation for the Proposal Presentation: Presentation teams will learn about how to prepare a presentation of a new project or club for their classmates to join. Homework: Prepare a proposal presentation for Week 4.	Master the common English errors reviewed online. Develop skills for emphasizing how special, different, and unique your ideas are.	
		4th	Performing the Proposal Presentation: One team member from each team will perform a solo presentation called the "Proposal Presentation." Homework: Practice online activities to review common English errors that will be on the Week 5 quiz.	Focus on smoothness, loudness, expression, eye contact, posture and how to emphasize how special, different, and unique your ideas are.	

		5th	Common English Errors Quiz 2. Preparation for the Sales Presentation: Presentation teams will learn about how to prepare a presentation to sell a new product. Homework: Prepare a sales presentation for Week 6.	Master the common English errors reviewed online. Develop skills necessary for creating interest, understanding, agreement, and action in your English presentation.
		6th	Performing the Sales Presentation: One team member from each team will perform a solo presentation called the "Sales Presentation." Homework: Practice online activities to review common English errors that will be on the Week 7 quiz.	Focus on the Physical Message, the Visual Message, and the Story Message.
		7th	Common English Errors Quiz 3. Review and feedback.	Master the common English errors reviewed online. Prepare for the mid-term test.
		8th	Mid-term Test	Master the common English errors reviewed online, as well as all aspects of the Physical, Visual, and Story messages presented in the textbook on pages 1 - 42.
	4th Quarter	9th	Preparation for the Technical Presentation: Presentation teams will learn about how to prepare a presentation on how a new technology overcame the limitations of an older technology. Homework: Prepare a technical presentation for Week 10.	Develop skills for explaining problems, giving solutions, and talking about benefits and results in English.
		10th	Performing the Technical Presentation: One team member from each team will perform a solo presentation called the "Technical Presentation." No homework.	Focus on giving balanced peer feedback.
		11th	Preparation for the Academic Presentation: Presentation teams will learn about how to prepare a presentation on the good or bad prospects of a particular country's future. Homework: Prepare an Academic presentation for Week 12.	Develop skills for analyzing strengths, weaknesses, opportunities, and threats (SWOT) and handling questions from the audience with ease.
		12th	Performing the Academic Presentation: One team member from each team will perform a solo presentation called the "Academic Presentation." No homework.	Focus on preparation for the question and answer session.
		13th	Preparation for the Team Presentation: Presentation teams will learn about how to prepare a presentation of a "Co+Work" product as a team in English. The product can be one that was designed by any team member's Co+Work groups over the past 3 years. Homework: Prepare a Co+Work presentation for Week 14.	Put all aspects of the course into one presentation and prepare for the question and answer session.
		14th	Performing the Team Presentation: All team members will work together to do Co+Work presentations in English, followed by a question and answer period.	Evaluate groups for their teamwork and their ability to apply what they should have learned from this course.
		15th	Review and feedback.	Check understandings and achievements from taking this course.
		16th	期末試験実施せず	

Evaluation Method and Weight (%)

	Solo Presentation Preparation	Solo Presentation Performance	Team Presentation	Homework	Quizzes	Mid-term Exam	Total
Subtotal	10	20	30	10	5	25	100
English Presentation	10	20	30	10	5	25	100

Akashi College		Year	2018		Course Title	中国語
Course Information						
Course Code		0065		Course Category	General / Elective	
Class Format		Lecture		Credits	School Credit: 2	
Department		Architecture		Student Grade	4th	
Term		Year-round		Classes per Week	2	
Textbook and/or Teaching Materials		新谷秀明・王宇南：「読み書き話す 中国語の基本」朝日出版社。				
Instructor		ARIKAWA Kei				
Course Objectives						
①中国語の発音をマスターし、基礎的な語彙と文法の規則を応用できるようにし、会話力と読解力を養うように目指します。 ②挨拶や日常会話など、身の回りの事を実用的な中国語で表現でき、簡単な中国語でコミュニケーションを取れることを目指します。 ③中国人の考え方や生活習慣、中国文化に対する理解を深めていきます。						
Rubric						
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1		中国語の発音をマスターし、基礎的な語彙と文法の規則を応用できるようにし、会話力と読解力を十分に養っている。		中国語の発音をマスターし、基礎的な語彙と文法の規則を応用できるようにし、会話力と読解力を養っている。		中国語の発音をマスターし、基礎的な語彙と文法の規則を応用できるようにし、会話力と読解力を養えていない。
評価項目2		挨拶や日常会話など、身の回りの事を実用的な中国語で表現でき、簡単な中国語で十分にコミュニケーションを取ることができる。		挨拶や日常会話など、身の回りの事を実用的な中国語で表現でき、簡単な中国語でコミュニケーションを取ることができる。		挨拶や日常会話など、身の回りの事を実用的な中国語で表現でき、簡単な中国語でコミュニケーションを取ることができない。
評価項目3		中国人の考え方や生活習慣、中国文化に対する理解を十分深めている。		中国人の考え方や生活習慣、中国文化に対する理解を深めている。		中国人の考え方や生活習慣、中国文化に対する理解を深めていない。
Assigned Department Objectives						
学習・教育到達度目標 (A) 学習・教育到達度目標 (B)						
Teaching Method						
Outline		中国語の初級から中級段階までの授業です。前期では、中国語標準語の発音や基礎語彙などを丁寧に学習し、また、プリント資料をあわせて学習することで、中国の社会文化についても触れます。後期では、日常生活に密着した平易な基礎文法や会話を学習します。				
Style		①事前に予習を行い、学習ポイント把握したうえで授業に臨むこと。 ②授業に積極的に参加すること。 ③発声練習、会話練習にしっかり取り組むこと。 ④予習時に生じた疑問や、授業中に理解できない事項は質問をすること。				
Notice		目標達成のため、次の自己学習が必要である。 ①学習ポイントを把握し授業の理解度を高めるため、予習を行うこと。 ②授業で学習した後に必ず復習を行うこと。 ③テキストの添付CDや音声ストーリーミングURLを活用し、中国語の発音を自主的練習すること。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/4以上の欠課				
Course Plan						
			Theme		Goals	
1st Semester	1st Quarter	1st	第一課～第四課 発音の基礎 (1) ～ (4)		表記の法則・声調・軽声・母音・子音など中国語の発音の基礎を学ぶ。	
		2nd	第五課 発音の基礎 (5)		第三声の連続による声調変化・半三声・r化音・隔音符号・簡単なあいさつ・数字の読み方・教室で使う言葉を学ぶ。	
		3rd	第六課 はじめまして、よろしくお願いします。		人称代名詞・動詞「是」・名前のたずね方、言い方を学ぶ。	
		4th	第七課 私は図書館に行きます。		動詞述語文・副詞「也」・文末の語気助詞「吧」を学ぶ。	
		5th	第八課 中国の緑茶はとてもおいしい。		指示代詞・「的」を使って名詞を修飾する・形容詞述語文を学ぶ。	
		6th	第九課 郵便局は遠いですか？		数字の読み方と書き方・量詞・反復疑問文を学ぶ。	
		7th	第十課 あなたはどこに行きますか？		名詞の後ろに置く「呢」・疑問詞を使った疑問文・連動文を学ぶ。	
		8th	復習と中間テスト		既習内容を復習する。	
	2nd Quarter	9th	第十一課 病院は銀行の隣にある。		方位詞・存在を表す「在」を学ぶ。	
		10th	第十二課 あなたは電子辞書を持っていますか？		存在を表す「有」・所有を表す「有」を学ぶ。	
		11th	第十三課 あなたの誕生日は何月何日ですか？		年月日の言い方・曜日の言い方・時刻の言い方を学ぶ。	
		12th	第十四課 私は一番出口であなたを待ちます。		前置詞「从」、「到」、「在」、「离」などを学ぶ。	
		13th	第十五課 私はあなたより一歳年上です。		疑問詞「多」・年齢のたずね方・比較の表現を学ぶ。	
		14th	第十六課 彼女は熱が出ました。		完了や変化を表す「了」・没(有) + 動詞を学ぶ。	
		15th	前期総まとめ		復習と質問応答を実施する。	
		16th	期末試験			
2nd Semester	3rd Quarter	1st	第十七課 あなたは何をしていますか？		動作、行為の進行を表す・状態の持続を表す・主述述語文を学ぶ。	
		2nd	第十八課 あなたは故宮に行ったことがありますか？		動作の回数や数量の表し方などを学ぶ。	
		3rd	第十九課 私はダイエットをしたい。		選択疑問文・助動詞「想」、「要」、「得」を学ぶ。	

		4th	第二十課 公園の中で魚釣りができますか？	助動詞「可以」、「会」、「能」を学ぶ。
		5th	第二十一課 このスカートはいくらですか？	「又～又…」、「既～又…」・お金の数え方・動詞の重ね型と「一下」を学ぶ。
		6th	第二十二課 私は教室をきれいに掃除したいです。	結果補語・副詞「就」・「把」構文を学ぶ。
		7th	第二十三課 あなたはいつ中国に来たのですか？	「是…的」・方向補語を学ぶ。
		8th	復習と中間テスト	既習内容を復習する。
	4th Quarter	9th	第二十四課 私は先生に叱られた。	受け身文・「有」の連動文を学ぶ。
		10th	第二十五課 買えるはずです。	存現文・可能補語を学ぶ。
		11th	第二十六課 母は私に実家に帰って新年を迎えるように言った。	「快…了」・原因、理由を表す「因～所以…」などを学ぶ。
		12th	第二十七課 あなたは中国語を話すのがますます上手になってきた。	様態補語・「虽然～，但（是）…」を学ぶ。
		13th	第二十八課 あなたが成功するように祈ります。	兼語文・副詞「再」・二重目的語を取る動詞を学ぶ。
		14th	後期総まとめ	復習と質問応答を実施する。
		15th	後期総まとめ	復習と質問応答を実施する。
		16th	期末試験	

Evaluation Method and Weight (%)

	定期試験	小テスト	平常点	Total
Subtotal	60	20	20	100
基礎的能力	60	20	20	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

Akashi College		Year	2018		Course Title	ドイツ語
Course Information						
Course Code	0066			Course Category	General / Elective	
Class Format	Lecture			Credits	School Credit: 2	
Department	Architecture			Student Grade	4th	
Term	Year-round			Classes per Week	2	
Textbook and/or Teaching Materials	D V Dわかるぞドイツ語！見えるぞドイツ語！春日正男、松澤淳（朝日出版社）					
Instructor	YOKOTA Kazuya					
Course Objectives						
・ドイツ語の文構造や、規則を確実に把握し、辞書を用いれば、中級程度のドイツ語を読みこなすことができるようになることを目標とします。 ・対話形式の練習で身につけたことを生かし、自分の身の回りの事柄を、簡単なドイツ語で表現できるようになることを目標とします。 ・ドイツの社会事情に関する読み物を読むことにより、ドイツ人のものの考え方や、生活習慣などについての理解を深めることを目標とします。						
Rubric						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1		ドイツ語の文構造や、規則を確実に把握し、辞書を用いれば、中級程度のドイツ語を読みこなすことができる。	ドイツ語の文構造や、規則を確実に把握し、辞書を用いれば、中級程度のドイツ語を読みこなすことができる程度できる。	ドイツ語の文構造や、規則を確実に把握できず、辞書を用いても、中級程度のドイツ語を読みこなすことができない。		
評価項目2		対話形式の練習で身につけたことを生かし、自分の身の回りの事柄を、ドイツ語で表現できる。	身につけたことを生かし、自分の身の回りの事柄を、簡単なドイツ語で表現できる。	自分の身の回りの事柄を、簡単なドイツ語で表現できない。		
評価項目3		ドイツの社会事情に関する読み物を読むことにより、ドイツ人のものの考え方や、生活習慣などについての理解を深めることができる。	ドイツの社会事情に関する読み物を読むことにより、ドイツ人のものの考え方や、生活習慣などについての理解を深めることができる程度できる。	ドイツの社会事情に関する読み物を読むことにより、ドイツ人のものの考え方や、生活習慣などについての理解を深めることができない。		
Assigned Department Objectives						
学習・教育到達度目標 (A) 学習・教育到達度目標 (B)						
Teaching Method						
Outline	この授業では、ドイツ語の基礎文法を学び、ドイツ語の読む、書く、聞く、話すといった総合的な力を、バランスよく身につけることを主な目的とします。文法事項を学ぶ際には、実用的な、生きたドイツ語が身につくように、それぞれの課で学ぶ文法事項を用いた、対話形式の練習を多く取り入れていきます。また、ドイツの社会事情について書かれた読み物を読みながら、ドイツ語の読解力を向上させ、ドイツという国についての知識も豊富になるようにしていきます。					
Style	講義に加え、対話形式の練習を多く取り入れることと、講読を通して読解力を向上させます。					
Notice	（１）最初の授業の時に、いくつか辞書を紹介するので、その中から、自分が使いやすいと思う辞書を買って、必ず毎回授業に持ってくること。（２）与えられた課題にはしっかり取り組むこと。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/4以上の欠課					
Course Plan						
			Theme	Goals		
1st Semester	1st Quarter	1st	ドイツ語とドイツについての紹介	アルファベットと発音規則について理解できる。		
		2nd	ドイツ語とドイツについての紹介	発音規則とあいさつ表現について理解できる。		
		3rd	Lektion1	文法・動詞の現在人称変化について理解できる。		
		4th	Lektion1	文法・ドイツ語の語順について理解できる。		
		5th	Lektion1	読み物・ドイツの中の日本について理解できる。		
		6th	Lektion2	文法・seinとhabenについて理解できる。		
		7th	Lektion2	文法・名詞の性と数について理解できる。		
		8th	Lektion2	読み物・ドイツのビールとワインについて理解できる。		
	2nd Quarter	9th	Lektion3	文法・冠詞と名詞の格変化について理解できる。		
		10th	Lektion3	読み物・ベルリンについて理解できる。		
		11th	Lektion4	文法・不規則変化動詞と命令形について理解できる。		
		12th	Lektion4	読み物・ヨーロッパとEUについて理解できる。		
		13th	Lektion5	文法・定冠詞類と不定冠詞類について理解できる。		
		14th	Lektion5	読み物・ドイツの若者のアルバイトについて理解できる。		
		15th	復習	前期で行ってきたことの復習		
		16th	期末試験	これまで学習した事柄をきちんとあらわすことができる。		
2nd Semester	3rd Quarter	1st	Lektion6	文法・人称代名詞について理解できる。		
		2nd	Lektion6	文法・前置詞について理解できる。		
		3rd	Lektion6	読み物・ドイツのパン屋について理解できる。		
		4th	Lektion7	文法・話法の助動詞と未来形について理解できる。		
		5th	Lektion7	文法・従属の接続詞について理解できる。		
		6th	Lektion7	読み物・ドイツの旅行事情について理解できる。		
		7th	Lektion8	文法・分離動詞について理解できる。		

		8th	Lektion8	文法・再帰動詞について理解できる。
	4th Quarter	9th	Lektion8	読み物・ミュンヘンについて理解できる。
		10th	Lektion9	文法・形容詞の格変化について理解できる。
		11th	Lektion9	読み物・ミュンヘンのオクトーバーフェストについて理解できる。
		12th	Lektion10	文法・動詞の三基本形と過去形について理解できる。
		13th	Lektion10	読み物・ドイツのサッカー事情について理解できる。
		14th	Lektion11	文法・完了形について理解できる。
		15th	復習	後期で行ってきたことの復習
		16th	期末試験	これまで学習した事柄をきちんとあらわすことができる。

Evaluation Method and Weight (%)

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	小テスト	Total
Subtotal	60	0	0	20	0	20	100
基礎的能力	60	0	0	20	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

Akashi College		Year	2018		Course Title	フランス語
Course Information						
Course Code	0067			Course Category	General / Elective	
Class Format	Lecture			Credits	School Credit: 2	
Department	Architecture			Student Grade	4th	
Term	Year-round			Classes per Week	2	
Textbook and/or Teaching Materials	藤田祐二／『パスカル・オ・ジャポン』／白水社					
Instructor						
Course Objectives						
近年のグローバル化の流れの中で、多言語主義、多文化主義的観点がますます重要になってきている。国際化によって世界が一様になるのではなく、種々雑多な文化の共存が必要となる。異文化の学習の最良の方法は、言語の学習であるという観点から、フランス語の学習を通して、多文化・多言語共存社会への対応に慣れていくようにする。						
Rubric						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	フランス語のしくみを学習することで、フランス語運用能力の基礎を身に着けることができる。		フランス語のしくみを学習することで、フランス語運用能力の基礎を身に着けることができる。		フランス語のしくみを学習することで、フランス語運用能力の基礎を身に着けることができない。	
評価項目2	フランス語の語彙を学習することで、フランス語運用能力の基礎を身に着けることができる。		フランス語の語彙を学習することで、フランス語運用能力の基礎を身に着けることができる。		フランス語の語彙を学習することで、フランス語運用能力の基礎を身に着けることができない。	
評価項目3	フランス語の学習を通して、多文化・多言語共存社会に対応できる。		フランス語の学習を通して、多文化・多言語共存社会に対応できる。		フランス語の学習を通して、多文化・多言語共存社会に対応できない。	
Assigned Department Objectives						
学習・教育到達度目標 (A) 学習・教育到達度目標 (B)						
Teaching Method						
Outline	フランス語によるコミュニケーションの基礎を学習する。フランス語のしくみ、いわゆる文法には約束事がたくさんあり、綴りと発音の関係、名詞の性に関する規則、動詞の活用など、一見複雑そうであるが、ある程度習熟すると、突然視野が広がってくるものであり、少ない語彙でかなり高度なコミュニケーションも可能となる。自己紹介の仕方、時候の挨拶など日常会話の基礎的な表現を学習しながら、「聞き、話し、読み、書く」の4技能のバランスのとれた修得を目指す。					
Style	文法・語彙の説明後、練習問題を通して運用能力の習得を目指す。					
Notice	外国語の学習には、学習者が本来持っているコミュニケーション能力と想像力を最大限に駆使することが大切であるため、授業への積極的な参加が必要である。また、予習より復習に時間を割いて欲しいと考えている。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/4以上の欠課					
Course Plan						
			Theme		Goals	
1st Semester r	1st Quarter	1st	ガイダンス：授業の進め方		授業の概要を理解することができる。	
		2nd	フランスとフランス語に関する一般的な説明 テーマについて学習する		フランス語の一般的な特徴を理解することができる。	
		3rd	国籍を言う テーマについて学習する		動詞の活用の基礎を理解することができる。	
		4th	名前・職業を言う テーマについて学習する		動詞の活用の基礎を理解することができる。	
		5th	フランス語の発音と綴り字の読み方 テーマについて学習する		綴り字と発音規則の基礎を理解することができる。	
		6th	持ち物を尋ねる テーマについて学習する		名詞の性の規則の基礎を理解することができる。	
		7th	趣味を語る テーマについて学習する		名詞の性と冠詞の規則の基礎を理解することができる。	
		8th	既習内容の復習 テーマについて学習する		名詞の性の規則と動詞の活用の基礎を理解することができる。	
	2nd Quarter	9th	フランス文化の紹介（パリの歴史的建造物／語彙：祈願の表現） テーマについて学習する		語彙を増やし、フランス文化に興味を持つ。	
		10th	誰かを尋ねる テーマについて学習する		疑問詞の規則の基礎を理解することができる。	
		11th	したいことを尋ねる テーマについて学習する		動詞の活用の基礎を理解することができる。	
		12th	住んでいる所を言う テーマについて学習する		動詞の活用の基礎を理解することができる。	
		13th	何をしているか尋ねる テーマについて学習する		名詞の性の規則の基礎を理解することができる。	
		14th	フランス文化の紹介（パリの公園と通り／語彙：身体部位） テーマについて学習する		語彙を増やし、フランス文化に興味を持つ。	
		15th	総復習・試験準備		名詞の性の規則と動詞の活用の基礎を理解することができる。	
		16th	期末試験			
2nd Semester r	3rd Quarter	1st	前期学習事項の復習、後期学習へ向けてのウォームアップ テーマについて学習する		名詞の性の規則と動詞の活用の基礎を理解することができる。	

		2nd	家族を語る テーマについて学習する	名詞の性と形容詞に関する規則の基礎を理解することができる。
		3rd	年齢を言う テーマについて学習する	フランス語の数字を活用できる。
		4th	時刻を言う テーマについて学習する	フランス語の数字を活用できる。
		5th	フランス文化の紹介（語彙：パリの鉄道の駅／色） テーマについて学習する	語彙を増やし、フランス文化に興味を持つ。
		6th	紹介する テーマについて学習する	動詞の活用の基礎を理解することができる。
		7th	準備日常生活の表現 テーマについて学習する	動詞の活用の基礎を理解することができる。
		8th	既修事項の復讐 テーマについて学習する	名詞の性の規則と動詞の活用の基礎を理解することができる。
	4th Quarter	9th	量を表す テーマについて学習する	名詞の性の規則の基礎を理解することができる。
		10th	天候を言う テーマについて学習する	動詞の活用の基礎を理解することができる。
		11th	フランス文化の紹介（語彙：フランスのワイン／曜日） テーマについて学習する	語彙を増やし、フランス文化に興味を持つ。
		12th	比較する テーマについて学習する	名詞の性の規則の基礎を理解することができる。
		13th	過去のことを語る テーマについて学習する	フランス語の動詞の時制の基礎を理解することができる。
		14th	未来のことを語る テーマについて学習する	フランス語の動詞の時制の基礎を理解することができる。
		15th	フランス文化の紹介（ジェスチャー／語彙：曜日） 総復習・試験準備	語彙を増やし、フランス文化に興味を持つ。
		16th	期末試験	

Evaluation Method and Weight (%)

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	Total
Subtotal	70	0	0	20	0	10	100
基礎的能力	70	0	0	20	0	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

Akashi College		Year	2018		Course Title	数学概論	
Course Information							
Course Code		0068		Course Category		General / Elective	
Class Format		Lecture		Credits		School Credit: 1	
Department		Architecture		Student Grade		4th	
Term		Second Semester		Classes per Week		2	
Textbook and/or Teaching Materials		適宜プリントを配布する。					
Instructor		OMODA Yasuhiro					
Course Objectives							
(1) 線型代数の諸概念を理解し、行列やベクトルに関する確実な計算を身につけいろいろな問題をこなせるようになること。 (2) 微積分の諸概念を理解し、確実な計算を身につけいろいろな問題をこなせるようになること。 (3) 抽象的枠組を具体的問題に適用する能力を獲得すること。 (4) 適切な試験答案のつくりかたを身につけること。							
以上いずれについても、各回の小試験と期末試験により達成度をはかる。							
Rubric							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		線形代数の諸概念を十分理解し、行列やベクトルに関する確実な計算を身につけいろいろな問題を十分解くことができる。		線形代数の諸概念を理解し、行列やベクトルに関する確実な計算を身につけいろいろな問題を解くことができる。		線形代数の諸概念を理解できず、行列やベクトルに関する確実な計算を身につけいろいろな問題を解くことができない。	
評価項目2		微積分の諸概念を十分理解し、確実な計算を身につけいろいろな問題を十分解くことができる。		微積分の諸概念を理解し、確実な計算を身につけいろいろな問題を解くことができる。		微積分の諸概念を理解できず、確実な計算を身につけていないのでいろいろな問題を解くことができない。	
評価項目3		抽象的枠組を具体的問題に適用する能力を十分獲得している。		抽象的枠組を具体的問題に適用する能力を獲得している。		抽象的枠組を具体的問題に適用する能力を獲得できていない。	
Assigned Department Objectives							
学習・教育到達度目標 (D) 学習・教育到達度目標 (G) 学習・教育到達度目標 (H)							
Teaching Method							
Outline		高専で学習した数学に初歩の確率論の学習を含め、これらに関して復習と問題演習をおこなう。多くの問題を解くことによって数学的能力を高め、さらに高度な数学に親しめる能力を身につけることを目標とする。付随的に、大学編入試験に臨む学生の受験対策の機会にもなるようにしたい。					
Style		講義と演習と小テストを軸に授業を進める。					
Notice		自分が必要となる範囲を自分自身で見定めて調べるように心がけ、講義の進行とは別に各自でどんどん学習を進めていくべきである。受け身の受講姿勢では編入試験対策として有効にはならないので注意。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課					
Course Plan							
			Theme		Goals		
2nd Semester r	3rd Quarter	1st	線形代数 1		基本変形を用いた計算が出来る。		
		2nd	線形代数 2		固有値、固有ベクトルに関する計算が出来る。		
		3rd	線形代数 3		一次独立性について理解し、判定できる。		
		4th	線形代数 4		基底について理解し、計算できる。		
		5th	線形代数 5		表現行列の計算ができる。		
		6th	さまざまな複合的問題 1		適切な試験答案のつくりかたを身につけている。		
		7th	さまざまな複合的問題 2		適切な試験答案のつくりかたを身につけている。		
		8th	中間試験		適切な試験答案のつくりかたを身につける。		
	4th Quarter	9th	1 変数の微積分		1 変数関数の積分について理解している。		
		10th	多変数関数の微積分		多変数関数の微分について理解している。		
		11th	多変数関数の微積分		多変数関数の積分について理解している。		
		12th	多変数関数の微積分		多変数関数の微積分について問題が解ける。		
		13th	微分方程式		簡単な 1 階線形微分方程式を解くことができる。定数係数 2 階斉次線形微分方程式を解くことができる。		
		14th	さまざまな複合的問題 3		適切な試験答案のつくりかたを身につけている。		
		15th	さまざまな複合的問題 4		適切な試験答案のつくりかたを身につけている。		
		16th	期末試験				
Evaluation Method and Weight (%)							
	試験	小テスト	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	Total
Subtotal	50	50	0	0	0	0	100
基礎的能力	50	50	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

Akashi College		Year	2018	Course Title	海外研修Ⅱ
Course Information					
Course Code	0069		Course Category	General / Elective	
Class Format	Practical training		Credits	School Credit: 1	
Department	Architecture		Student Grade	4th	
Term	Year-round		Classes per Week	1	
Textbook and/or Teaching Materials	なし				
Instructor	All faculty of the department				
Course Objectives					
(1)海外における研修への参加を通じて、教養をより高めるための取り組みができる。 (2)異文化の中での研修に参加することで、広い視野を持つことができる。 (3)現地で関わる人々と英語などを用いてコミュニケーションができる。					
Rubric					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	海外における研修への参加を通じて、教養をより高めるための取り組みがよくできる。		海外における研修への参加を通じて、教養をより高めるための取り組みができる。		海外における研修への参加を通じて、教養をより高めるための取り組みができない。
評価項目2	異文化の中での研修に参加することで、広い視野を持つことができる。		異文化の中での研修に参加することで、広い視野を持つことができる。		異文化の中での研修に参加することができない。
評価項目3	現地で関わる人々と英語などを用いてコミュニケーションがよくできる。		現地で関わる人々と英語などを用いてコミュニケーションができる。		現地で関わる人々と英語などを用いてコミュニケーションができない。
Assigned Department Objectives					
学習・教育到達度目標 (A) 学習・教育到達度目標 (B) 学習・教育到達度目標 (E)					
Teaching Method					
Outline	海外における各種の研修体験を通じて、多面的に物事を考える能力やコミュニケーション能力を身に付けることが本科目のねらいである。研修期間は、夏季休業期間などとしてもよい。研修日数は、5日間以上とする。本科目は、海外での研修と、事前指導(マナー教育、研修先の下調べ)、事後の報告会、関係機関に配布する報告書の作成などの自己学習時間の合計が45時間以上に相当する学習内容である。参加する研修が、本科目に該当するかどうかは、教務委員会にて判断する。				
Style	事前オリエンテーション, 現地実習, 報告会				
Notice	学級担任又は指導教員と緊密に連絡を取り合うこと。研修期間中は、積極的に現地の人たちと関わり、コミュニケーションをとるように努めるとともに、服装・言葉遣い等、研修生として相応しい態度で取り組むこと。合格の対象としない欠席条件(割合) 条件なし				
Course Plan					
			Theme	Goals	
1st Semester	1st Quarter	1st			
		2nd			
		3rd			
		4th			
		5th			
		6th			
		7th			
		8th			
	2nd Quarter	9th			
		10th			
		11th			
		12th			
		13th			
		14th			
		15th			
		16th	期末試験実施せず		
2nd Semester	3rd Quarter	1st			
		2nd			
		3rd			
		4th			
		5th			
		6th			
		7th			
		8th			
	4th Quarter	9th			
		10th			
		11th			
		12th			
		13th			

		14th					
		15th					
		16th	期末試験実施せず				
Evaluation Method and Weight (%)							
	報告書	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	Total
Subtotal	50	50	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	50	50	0	0	0	0	100

Akashi College		Year	2018	Course Title	C o + w o r k Ⅲ A
Course Information					
Course Code	0070		Course Category	Specialized / Compulsory	
Class Format	Seminar		Credits	School Credit: 1	
Department	Architecture		Student Grade	4th	
Term	First Semester		Classes per Week	2	
Textbook and/or Teaching Materials	各チームの活動の内容に応じて適宜使用する。				
Instructor	All faculty				
Course Objectives					
自立に関する到達目標：主体性や自己管理能力が身に付いている。 協働に関する到達目標：他者を尊重しながらチームで作業ができる。 創造に関する到達目標：情報を収集・整理して課題を発見し提案することができる。					
Rubric					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
自立に関する到達目標	スケジュール管理、報告、連絡、相談、目標の立案について、他者と一緒にできる		スケジュール管理、報告、連絡、相談、目標の立案について、自己で完結してできる		できない
協働に関する到達目標	自分と意見の異なる人の意見を受け入れ、自分の意見も述べながら、チーム全体を合意形成に導くことが他者と一緒に行える		自分と意見の異なる人の意見を受け入れ、自分の意見も述べながら、チームの中で役割分担をもって活動できる		できない
創造に関する到達目標	自主的に情報収集することができ、整理しまとめ、自分の意見やアイデアを加えて他人に説明することができる		自主的に情報収集することができ、整理しまとめ、自分の意見やアイデアを出すことが自己で完結してできる		できない
Assigned Department Objectives					
学習・教育到達度目標 (B) 学習・教育到達度目標 (H)					
Teaching Method					
Outline	自立、協働、創造の能力を養成することを目的とし、多様な環境（他学科・他学年の学生との交わり、学外の人々との交わりなど）の中で、チームにどんな貢献ができるかを考えて自立的に役割を果たし、メンバーと協働し、チームワークを発揮して、創造性が養われる学習活動を行う。各チームでメンバー全員にとって何らかの挑戦（チャレンジ）を有し、チーム以外の誰かを幸せにする活動を担当教員とチームで決定する。活動計画書を作成の上、活動を行う。報告会や振り返り会を経て、活動計画の修正を行いながら、活動を進める。				
Style	2、3、4年生、4学科の学生を無作為に選んで構成された8名～9名の学科学年横断のチームによる学習活動を進める。チーム内で自己紹介、アイスブレイクを通じてチーム内の人間関係を構築したのち、チームで取り組む課題を発見し、解決に向けた提案、計画、役割分担、実践を行う。取り組み課題を通じて自立、協働、創造にかかる力を身に付け、これらの能力を養うという目標を達成するために、授業に積極的に関わることが必要である。授業開始後は、チームの担当教員との連絡が取れるよう確認すること。自己目標を立てるにあたっては、授業で配布されるルーブリックを参照すること。また、ルーブリックは、自己評価や相互評価に加え、本科目の成績評価にも用いる。毎週、授業の終わりにはふりかえりを行うためのふりかえりシートに記入し、次の目標を立てる。				
Notice	(1) 個人の取り組み 80% (自立 (40%) + 協働 (40%) + 創造 (20%)) (2) チームの取り組みと成果 20% (協働 (50%) + 創造 (50%)) 上記 (1) は、ルーブリックを用いた学生の自己評価、相互評価と教員の評価をもとに、チームの担当教員が評価を行う。(2) は前期末の報告会（中間報告会）での複数の教員による評価とする。60点以上を合格とする。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/4以上の欠課				
Course Plan					
			Theme	Goals	
1st Semester	1st Quarter	1st	全体授業ガイダンス、チームメンバーの発表、チームビルディング 授業ガイダンスを受け、全体スケジュール、活動に関する諸注意、評価方法等を確認する。チームメンバー、チーム担当教員の発表を受けチームメンバーの顔合わせ、チームビルディングを行う。	自立、協働、創造の能力を身に付ける	
		2nd	活動目標の決定および活動内容の計画、自己目標を各自で定めて記録する。チーム活動に向け、テーマに沿ってアイデアを出し議論をする。 決定した活動目標に沿って、実施方法、役割分担、スケジュール等を決定し活動計画書にまとめる。	自立、協働、創造の能力を身に付ける	
		3rd	活動目標の決定および活動内容の計画 チーム活動の目標決定に向け、テーマに沿ってアイデアを出し議論をする。決定した活動目標に沿って、方法、役割分担、スケジュール等を決定し活動計画書にまとめる。完成後は活動を開始する。	自立、協働、創造の能力を身に付ける	
		4th	活動目標の決定および活動内容の計画 チーム活動の目標決定に向け、テーマに沿ってアイデアを出し議論をする。決定した活動目標に沿って、方法、役割分担、スケジュール等を決定し活動計画書にまとめる。完成後は活動を開始する。	自立、協働、創造の能力を身に付ける	
		5th	活動目標の決定および活動内容の計画 チーム活動の目標決定に向け、テーマに沿ってアイデアを出し議論をする。決定した活動目標に沿って、方法、役割分担、スケジュール等を決定し活動計画書にまとめる。活動計画書を提出する。	自立、協働、創造の能力を身に付ける	
		6th	チーム活動 活動計画書に従ってチームで活動を行う。スケジュールの遅延や実施方法の不備等が明らかになった場合、活動計画の修正・変更を行う。	自立、協働、創造の能力を身に付ける	

		7th	チーム活動 活動計画書に従ってチームで活動を行う。	自立、協働、創造の能力を身に付ける
		8th	(中間試験 実施せず)	
	2nd Quarter	9th	チーム活動 活動計画書に従ってチームで活動を行う。スケジュールの遅延や実施方法の不備等が明らかになった場合、活動計画の修正・変更を行う。6週～12週の間にテーマ相互検討会を実施する。	自立、協働、創造の能力を身に付ける
		10th	チーム活動 活動計画書に従ってチームで活動を行う。スケジュールの遅延や実施方法の不備等が明らかになった場合、活動計画の修正・変更を行う。中間報告会の準備を行う。	自立、協働、創造の能力を身に付ける
		11th	チーム活動 活動計画書に従ってチームで活動を行う。スケジュールの遅延や実施方法の不備等が明らかになった場合、活動計画の修正・変更を行う。中間報告会の準備を行う。	自立、協働、創造の能力を身に付ける
		12th	チーム活動 活動計画書に従ってチームで活動を行う。スケジュールの遅延や実施方法の不備等が明らかになった場合、活動計画の修正・変更を行う。中間報告会の準備を行う。	自立、協働、創造の能力を身に付ける
		13th	前期末報告会（中間報告会） 活動内容を共有するためにチームの活動について報告を行う。他のチームの報告を聞く。	自立、協働、創造の能力を身に付ける
		14th	振り返り会・これまでの活動のまとめ 中間報告会の振り返りを行うと共にこれまでのチーム活動を省み、今後の活動計画を確認する。各自の行動を省みて、自立、協働、創造に関して目標達成した点や反省点を自己および相互に記録する。	自立、協働、創造の能力を身に付ける
		15th	振り返り会・これまでの活動のまとめ 中間報告会の振り返りを行うと共にこれまでのチーム活動を省み、今後の活動計画を確認する。自己および相互の行動の記録をもとにチーム担当教員よりフィードバックを受ける。	自立、協働、創造の能力を身に付ける
		16th	期末試験 実施せず	

Evaluation Method and Weight (%)

	個人評価（プロセス評価）（自立）	個人評価（プロセス評価）（協働）	個人評価（プロセス評価）（創造）	チーム評価（成果物、報告会）（協働）	チーム評価（成果物、報告会）（創造）	Total
Subtotal	32	32	16	10	10	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	32	32	16	10	10	100

Akashi College		Year	2018	Course Title	C o + w o r k Ⅲ B
Course Information					
Course Code	0071		Course Category	Specialized / Compulsory	
Class Format	Seminar		Credits	School Credit: 1	
Department	Architecture		Student Grade	4th	
Term	Second Semester		Classes per Week	2	
Textbook and/or Teaching Materials	各チームの活動の内容に応じて適宜使用する。				
Instructor	All faculty				
Course Objectives					
自立に関する到達目標：主体性や自己管理能力が身に付いている。 協働に関する到達目標：他者を尊重しながらチームで作業ができる。 創造に関する到達目標：情報を収集・整理して課題を発見し提案することができる。					
Rubric					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
自立に関する到達目標	スケジュール管理、報告、連絡、相談、目標の立案について、他者と一緒に行える		スケジュール管理、報告、連絡、相談、目標の立案について、自己で完結してできる		できない
協働に関する到達目標	自分と意見の異なる人の意見を受け入れ、自分の意見も述べながら、チーム全体を合意形成に導くことが他者と一緒に行える		自分と意見の異なる人の意見を受け入れ、自分の意見も述べながら、チームの中で役割分担をもって活動できる		できない
創造に関する到達目標	自主的に情報収集することができ、整理しまとめ、自分の意見やアイデアを加えて他人に説明することができる		自主的に情報収集することができ、整理しまとめ、自分の意見やアイデアを出すことが自己で完結してできる		できない
Assigned Department Objectives					
学習・教育到達度目標 (B) 学習・教育到達度目標 (H)					
Teaching Method					
Outline	自立、協働、創造の能力を養成することを目的とし、多様な環境（他学科・他学年の学生との交わり、学外の人々との交わりなど）の中で、チームにどんな貢献ができるかを考えて自立的に役割を果たし、メンバーと協働し、チームワークを発揮して、創造性が養われる学習活動を行う。各チームでメンバー全員にとって何らかの挑戦（チャレンジ）を有する活動を担当教員とチームで決定する。活動計画書を作成の上、活動を行う。報告会や振り返り会を経て、活動計画の修正を行いながら、活動を進める。				
Style	2、3、4年生、4学科の学生を無作為に選んで構成された8名～9名の学科学年横断のチームによる学習活動を進める。チーム内で自己紹介、アイスブレイクを通じてチーム内の人間関係を構築したのち、チームで取り組む課題を発見し、解決に向けた提案、計画、役割分担、実践を行う。取り組み課題を通じて自立、協働、創造にかかる力を身に付け、これらの能力を養うという目標を達成するために、授業に積極的に関わることが必要である。授業開始後は、チームの担当教員との連絡が取れるよう確認すること。自己目標を立てるにあたっては、授業で配布されるルーブリックを参照すること。また、ルーブリックは、自己評価や相互評価に加え、本科目の成績評価にも用いる。				
Notice	(1) 個人の取り組み 80% (自立 (40%) + 協働 (40%) + 創造 (20%)) (2) チームの取り組みと成果 20% (協働 (50%) + 創造 (50%)) 上記 (1) は、ルーブリックを用いた学生の自己評価、相互評価と教員の評価をもとに、チームの担当教員が評価を行う。(2) は最終報告会での複数の教員による評価とする。60点以上を合格とする。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/4以上の欠課				
Course Plan					
			Theme	Goals	
2nd Semester r	3rd Quarter	1st	活動目標の決定および活動内容の計画 自立、協働、創造に関する自己目標を各自で定めて記録する。活動計画書に従ってチームで活動を行う。スケジュールの遅延や実施方法の不備等が明らかになった場合、活動計画の修正・変更を行う。	自立、協働、創造の能力を身に付ける	
		2nd	チーム活動 活動計画書に従ってチームで活動を行う。スケジュールの遅延や実施方法の不備等が明らかになった場合、活動計画の修正・変更を行う。	自立、協働、創造の能力を身に付ける	
		3rd	チーム活動 活動計画書に従ってチームで活動を行う。スケジュールの遅延や実施方法の不備等が明らかになった場合、活動計画の修正・変更を行う。	自立、協働、創造の能力を身に付ける	
		4th	チーム活動 活動計画書に従ってチームで活動を行う。スケジュールの遅延や実施方法の不備等が明らかになった場合、活動計画の修正・変更を行う。	自立、協働、創造の能力を身に付ける	
		5th	チーム活動 活動計画書に従ってチームで活動を行う。スケジュールの遅延や実施方法の不備等が明らかになった場合、活動計画の修正・変更を行う。	自立、協働、創造の能力を身に付ける	
		6th	チーム活動 活動計画書に従ってチームで活動を行う。スケジュールの遅延や実施方法の不備等が明らかになった場合、活動計画の修正・変更を行う。	自立、協働、創造の能力を身に付ける	
		7th	チーム活動 活動計画書に従ってチームで活動を行う。スケジュールの遅延や実施方法の不備等が明らかになった場合、活動計画の修正・変更を行う。	自立、協働、創造の能力を身に付ける	
		8th	(中間試験 実施せず)		

4th Quarter	9th	チーム活動 活動計画書に従ってチームで活動を行う。スケジュールの遅延や実施方法の不備等が明らかになった場合、活動計画の修正・変更を行う。最終報告会の準備を行う。	自立、協働、創造の能力を身に付ける
	10th	チーム活動 活動計画書に従ってチームで活動を行う。スケジュールの遅延や実施方法の不備等が明らかになった場合、活動計画の修正・変更を行う。最終報告会の準備を行う。	自立、協働、創造の能力を身に付ける
	11th	チーム活動 活動計画書に従ってチームで活動を行う。スケジュールの遅延や実施方法の不備等が明らかになった場合、活動計画の修正・変更を行う。最終報告会の準備を行う。	自立、協働、創造の能力を身に付ける
	12th	チーム活動 活動計画書に従ってチームで活動を行う。スケジュールの遅延や実施方法の不備等が明らかになった場合、活動計画の修正・変更を行う。最終報告会の準備を行う。	自立、協働、創造の能力を身に付ける
	13th	最終報告会 活動内容を共有するためにチームの活動について報告を行う。他のチームの報告を聞く。	自立、協働、創造の能力を身に付ける
	14th	振り返り会・これまでの活動のまとめ 報告会の振り返りを行うと共にこれまでのチーム活動を省み、チームの評価を行う。各自の行動を省みて、自立、協働、創造に関して目標達成した点や反省点を自己および相互に記録する。	自立、協働、創造の能力を身に付ける
	15th	振り返り会・これまでの活動のまとめ 最終報告会の振り返りを行うと共にこれまでのチーム活動を省みる。自己および相互の行動の記録をもとにチーム担当教員より個別にフィードバックを受ける。	自立、協働、創造の能力を身に付ける
	16th	期末試験 実施せず	

Evaluation Method and Weight (%)

	個人評価（プロセス評価）（自立）	個人評価（プロセス評価）（協働）	個人評価（プロセス評価）（創造）	チーム評価（成果物、報告会）（協働）	チーム評価（成果物、報告会）（創造）	Total
Subtotal	32	32	16	10	10	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	32	32	16	10	10	100

Akashi College		Year	2018		Course Title	応用数学
Course Information						
Course Code	0072			Course Category	Specialized / Compulsory	
Class Format	Lecture			Credits	School Credit: 4	
Department	Architecture			Student Grade	4th	
Term	Year-round			Classes per Week	4	
Textbook and/or Teaching Materials	上野健爾編：高専テキストシリーズ 応用数学 森北出版 上野健爾編：高専テキストシリーズ 応用数学問題集 森北出版					
Instructor	,KAWATA Shoutarou					
Course Objectives						
(1)ベクトル解析における基礎的な計算ができる。 (2)複素関数論における基礎的な計算ができる。 (3)ラプラス変換における基礎的な計算ができる。 (4)フーリエ変換における基礎的な計算ができる。						
Rubric						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目 1	ベクトル解析における基礎的な計算が十分にできる		ベクトル解析における基礎的な計算ができる		ベクトル解析における基礎的な計算ができない	
評価項目 2	複素関数論における基礎的な計算が十分にできる		複素関数論における基礎的な計算ができる		複素関数論における基礎的な計算ができない	
評価項目 3	ラプラス変換における基礎的な計算が十分にできる		ラプラス変換における基礎的な計算ができる		ラプラス変換における基礎的な計算ができない	
評価項目 4	フーリエ変換における基礎的な計算が十分にできる		フーリエ変換における基礎的な計算ができる		フーリエ変換における基礎的な計算ができない	
Assigned Department Objectives						
学習・教育到達度目標 (D) 学習・教育到達度目標 (F) 学習・教育到達度目標 (H)						
Teaching Method						
Outline	理工学の幅広い分野で用いられる数学的手法である、ベクトル解析、複素関数論、ラプラス変換、フーリエ解析について学習する。					
Style	講義と演習を行う。適宜、課題や小テスト等を実施する。					
Notice	第3学年までに学習した数学の内容を理解しておくこと。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課					
Course Plan						
1st Semester r	1st Quarter	1st	ベクトル	ベクトルに関する基本的な計算ができる		
		2nd	勾配、発散、回転	勾配、発散、回転の意味を理解し計算ができる		
		3rd	線積分	線積分の計算ができる		
		4th	面積分	面積分の計算ができる		
		5th	ガウスの発散定理	ガウスの発散定理を用いた計算ができる		
		6th	ストークスの定理	ストークスの定理を用いた計算ができる		
		7th	総括	これまでに学んだ内容に関する問題が解ける		
		8th	中間試験			
	2nd Quarter	9th	複素数と複素関数	基本的な複素関数の定義を理解し計算できる		
		10th	正則関数	正則性の判定ができ、正則関数の微分を計算できる		
		11th	複素関数の積分	複素関数の積分を計算できる		
		12th	コーシーの積分表示	コーシーの積分表示を用いた積分の計算ができる		
		13th	ローラン展開	ローラン展開の計算ができる		
		14th	留数定理	留数をもちいた積分の計算と、留数定理を用いた実積分の計算ができる		
		15th	総括	これまでに学んだ内容に関する問題が解ける		
		16th	期末試験			
2nd Semester r	3rd Quarter	1st	ラプラス変換	ラプラス変換の計算ができる		
		2nd	ラプラス変換	逆ラプラス変換の計算ができる		
		3rd	ラプラス変換	ラプラス変換を用いて微分方程式を解くことができる		
		4th	デルタ関数と線形システム	単位ステップ関数とデルタ関数のラプラス変換を計算できる		
		5th	デルタ関数と線形システム	合成積の計算と、合成積を用いた逆ラプラス変換の計算ができる		
		6th	デルタ関数と線形システム	線形システムの伝達関数、インパルス応答、単位ステップ応答、任意の入力に対する出力を計算できる		
		7th	総括	これまでに学んだ内容に関する問題が解ける		
		8th	中間試験			
	4th Quarter	9th	フーリエ級数	三角関数どうしの積の積分の計算ができる		
		10th	フーリエ級数	フーリエ級数の計算ができる		
		11th	フーリエ級数	フーリエ級数を用いて偏微分方程式を解くことができる		
		12th	フーリエ変換	複素フーリエ級数の計算ができる		

		13th	フーリエ変換	フーリエ変換と逆フーリエ変換の計算ができる
		14th	フーリエ変換	離散フーリエ変換と逆離散フーリエ変換の計算ができる
		15th	総括	これまでに学んだ内容に関する問題が解ける
		16th	期末試験	

Evaluation Method and Weight (%)			
	試験	平常点（課題・演習・小テスト等）	Total
Subtotal	50	50	100
基礎的能力	50	50	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0

Akashi College		Year	2018		Course Title	物理学入門
Course Information						
Course Code		0073		Course Category	Specialized / Compulsory	
Class Format		Lecture		Credits	Academic Credit: 2	
Department		Architecture		Student Grade	4th	
Term		Second Semester		Classes per Week	2	
Textbook and/or Teaching Materials		小暮陽三 編集:「高専の応用物理」、森北出版株式会社				
Instructor		KAKUNO Yoshinori				
Course Objectives						
(1)力学の三法則を理解して,実際の問題を考えることができる (2)力学における保存則を理解する (3)質点系、剛体の運動に関する問題を解くことができる						
Rubric						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		力学の三法則を理解して,実際の問題を適切に考えることができる	力学の三法則を理解して,実際の問題を考えることができる		力学の三法則を理解して,実際の問題を適切に考えることができない	
評価項目2		力学における保存則を十分理解する	力学における保存則を理解する		力学における保存則を十分理解できない	
評価項目3		質点系、剛体の運動に関する問題を適切に解くことができる	質点系、剛体の運動に関する問題を解くことができる		質点系、剛体の運動に関する問題を解くことができない	
Assigned Department Objectives						
学習・教育到達度目標 (D)						
Teaching Method						
Outline		力学の基本および質点系、剛体の力学について講義を行う。質点の運動の捉え方や基礎的な力学の法則について学び、力学の考え方について学習する。				
Style		講義形式				
Notice		物理学に関する知識を覚えるのではなく、基本的な考え方を理解することに重点を置いて学習すること。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課 本科目は、授業で保証する学習時間と、予習・復習及び課題レポート作成に 必要な標準的な自己学習時間の総計が、90時間に相当する学習内容である。				
Course Plan						
			Theme		Goals	
2nd Semester	3rd Quarter	1st	速度と加速度 質点の位置ベクトルと速度、加速度との関係について説明する。		速度と加速度の概念を説明できる。 物体の変位、速度、加速度を微分・積分を用いて相互に計算することができる。	
		2nd	運動の法則 運動の三法則について説明する。		慣性の法則について説明できる。 作用と反作用の関係について説明できる。 運動の法則について説明できる。	
		3rd	慣性力 慣性系と非慣性系、慣性力について説明する。		運動方程式を用いた計算ができる。 簡単な運動について微分方程式の形で運動方程式を立て、初期値問題として解くことができる。	
		4th	エネルギー 力学的エネルギーの保存則について説明する。		仕事と仕事率に関する計算ができる。 物体の運動エネルギーに関する計算ができる。 重力による位置エネルギーに関する計算ができる。	
		5th	質点系の力学1 二体問題について説明する。		二体問題について説明できる。	
		6th	質点系の力学2 質点系の運動量と重心について説明する。		物体の質量と速度から運動量を求めることができる。	
		7th	演習問題1 力学の基本、質点系の力学についての演習		力学の基本、質点系の力学についての問題を解くことができる。	
		8th	中間試験			
	4th Quarter	9th	質点系の力学3 質点系の運動量の保存則について説明する。		運動量保存則について理解し、様々な物理量の計算に利用できる。	
		10th	質点系の力学4 質点系の角運動量と角運動量の保存則について説明する。		質点系の角運動量と角運動量の保存則について説明できる。	
		11th	剛体の力学1 回転軸の周りの回転運動について説明する。		剛体における力のつり合いに関する計算ができる。	
		12th	剛体の力学2 慣性モーメントおよびその計算方法について説明する。		一様な棒などの簡単な形状に対する慣性モーメントを求めることができる。	
		13th	剛体の力学3 回転しながら並進運動する物体について説明する。		剛体の回転運動について、回転の運動方程式を立てて解くことができる。	
		14th	剛体の力学4 同上		剛体の回転運動について、回転の運動方程式を立てて解くことができる。	
		15th	前期のまとめ 剛体の力学についての演習		剛体の力学についての問題を解くことができる。	
		16th	期末試験			
Evaluation Method and Weight (%)						
		試験	レポート	相互評価	Total	

Subtotal	60	40	0	100
基礎的能力	0	0	0	0
專門的能力	60	40	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0

Akashi College		Year	2018		Course Title	建築情報デザイン
Course Information						
Course Code	0074			Course Category	Specialized / Compulsory	
Class Format	Lecture			Credits	Academic Credit: 2	
Department	Architecture			Student Grade	4th	
Term	First Semester			Classes per Week	2	
Textbook and/or Teaching Materials	Vectorworksベーシックマスター 建築とインテリアのためのPhotoshop Illustratorテクニック配布プリント					
Instructor	KUDOH Kazumi					
Course Objectives						
1. CAD(VectorWorks) とレンダリングソフトの操作による3Dの基本操作の習得と3D図面表現の作成プロセスの理解。 2. 図や画像作成をはじめとして、グラフィックデザインに関する基礎的事項を理解し、卒業研究や各種レポート課題に活かせる実践的な表現能力を身につけることをめざす。						
Rubric						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	建築の3Dモデリングを的確に行うことができる。		建築の3Dモデリングを行うことができる。		建築の3Dモデリングを行うことができない。	
評価項目2	建築の3Dモデルのレンダリングを的確に行うことができる。		建築の3Dモデルのレンダリングを行うことができる。		建築の3Dモデルのレンダリングを行うことができない。	
評価項目3	ビットマップデータとベクターデータを的確に扱え、ポスターを作成することができる。		ビットマップデータとベクターデータを扱え、ポスターを作成することができる。		ビットマップデータとベクターデータを扱え、ポスターを作成することができない。	
評価項目4	レイアウトデザインの基礎を理解し的確に実践できる。		レイアウトデザインの基礎を理解し実践できる。		レイアウトデザインの基礎を理解していない。	
Assigned Department Objectives						
学習・教育到達度目標 (D) 学習・教育到達度目標 (E)						
Teaching Method						
Outline	建築設計や都市計画の分野におけるコンピューター利用の基礎を習得し、積極的にコンピューターを利用する姿勢を身につける。VectorWorksによる3Dの基本操作を習得し、建築設計演習の課題等で図面作成に活用できるような基礎的能力とコンピューター利用を日常化できるような基本的姿勢を育成する。そうしたCADやCGなどによる図面などの視覚的表現能力とともに、図やグラフなどを多用した文章表現を習得する。					
Style	チュートリアル課題を通して、CADとCGソフトを使用して建築モデルを表現する技術を習得する。					
Notice	各授業ごとに理解すべき内容を適格に把握し、積極的なコンピューター利用を通じて基礎的な操作法を身につけること。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課					
Course Plan						
			Theme		Goals	
1st Semester	1st Quarter	1st	CAD(VectorWorks)ソフトの3D基本操作 基本操作である3Dツール、コマンド、モデリング、視点と投影方法、レンダリングと光源について理解し操作方法を習得する。		3 D-CADにより建築モデリングの基礎が理解出来る。	
		2nd	建物のモデリング1 建築平面図を元に、屋根、壁、ドアなどをモデリングして外観パースを作成する。モデリング1では基礎と壁、屋根を作成する。		3 D-CADにより建築モデルを作成できる。	
		3rd	建物のモデリング2 建築平面図を元に、屋根、壁、ドアなどをモデリングして外観パースを作成する。モデリング2では建物の外形を完成させ、ドアとアプローチを作成する。		3 D-CADにより建築モデルを作成できる。	
		4th	建物のモデリング3 建築平面図を元に、屋根、壁、ドアなどをモデリングして外観パースを作成する。モデリング3では地面をつくり、光源を追加し、完成したパースを映像ファイルにして保存する。		3 D-CADにより建築モデルを作成できる。	
		5th	モデリングの応用操作 建築モデリングのポイントである壁・屋根・建具について詳しく解説し、レイヤリンクとシンボルの使い方、床、壁の変形方法についても解説する。		3 D-CADにより建築モデルを作成できる。	
		6th	レンダリング Render Worksを用いたレンダリングの基本操作を習得する。テクスチャの編集と作成、画像ファイルの保存について学習する。		3 D-CADにより建築レンダリングの基礎が理解出来る。	
		7th	建物のレンダリング 4週までにモデリングした建物をRender Worksを用いてレンダリングを行い光源操作を学習する。		3 D-CADにより建築モデルのレンダリングを行い、光源操作ができる。	
		8th	建物のレンダリング 4週までにモデリングした建物をRender Worksを用いてレンダリングを行い完成させて提出する。		3 D-CADにより建築モデルのレンダリングを作成できる。	
	2nd Quarter	9th	Illustrattoの基礎 チュートリアルメニューを活用し基本操作を確認する。		ソフトウェアを用い、各種建築図面を作成でき、プレゼンテーションのためのポスターが作成のためのデータの相互利用ができる。	
		10th	Illustrattoの実践 サンプルデータを使い、実際に操作しながらIllustratorの機能を体験		ソフトウェアを用い、各種建築図面を作成でき、ベクターデータの基礎で操作ができる。	

		11th	画像処理の基礎 画像の加工法を学ぶ。	ソフトウェアを用い、各種建築図面を作成でき、画像処理ができる。
		12th	応用技術の習得 プロジェクト、文字入力と編集、特殊効果など、Illustratorを使いこなす技術を学ぶ。VectorWorksからのデータの取り込みや変換を学ぶ。	ソフトウェアを用い、各種建築図面を作成でき、プレゼンテーションのためのテキストデータの基礎的技術を使用することができる。
		13th	レイアウト技術の基礎 ジャンプ率、視覚度、図版率、色相にかんする基礎的な技術を学ぶ。	ソフトウェアを用い、各種建築図面を作成でき、ポスターレイアウトの基礎が理解できる。
		14th	ポスター作成の技術習得 作品例を参照しながら、自分の興味のある事柄についてポスターの構想を練る。	ソフトウェアを用い、各種建築図面を作成でき、プレゼンテーションのためのポスターが作成できる。
		15th	ポスター作成 自分で選んだ事柄を表現するA3大のポスターを製作する。	ソフトウェアを用い、各種建築図面を作成でき、プレゼンテーションのためのポスターが作成できる。
		16th	期末試験実施せず	

Evaluation Method and Weight (%)

	試験	住宅3Dモデル	演習課題3Dモデル	名刺ほか	ポスター	その他	Total
Subtotal	0	10	40	10	40	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	10	40	10	40	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

Akashi College		Year	2018		Course Title	建築構造力学Ⅲ A
Course Information						
Course Code	0075			Course Category	Specialized / Compulsory	
Class Format	Lecture			Credits	School Credit: 1	
Department	Architecture			Student Grade	4th	
Term	First Semester			Classes per Week	2	
Textbook and/or Teaching Materials	教科書は、中川肇「基礎から学ぶ建築構造力学」鈴木基行著:構造力学徹底演習、森北出版 理論と演習からのアプローチ」(株井上書院)を使用する。(参考図書)					
Instructor	NAKAGAWA Hajime					
Course Objectives						
(1)静定構造物（梁、ラーメン、トラス構造）の変形及びの応力を仮想仕事の原理を用いて求めることができる。 (2)不静定梁の応力を仮想仕事の原理を用いて求めることができる。不静定梁の応力図を描くことができる。						
Rubric						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	構造力学における仕事やひずみエネルギーの概念について説明できる。		構造力学における仕事やひずみエネルギーの概念について説明できる。		構造力学における仕事やひずみエネルギーの概念について説明できない。	
評価項目2	仕事やエネルギーの概念を用いて、構造物（例えば梁、ラーメン、トラスなど）の支点反力、応力（図）、変形（たわみ、たわみ角）を計算できる。		仕事やエネルギーの概念を用いて、構造物（例えば梁、ラーメン、トラスなど）の支点反力、応力（図）、変形（たわみ、たわみ角）を計算できる。		仕事やエネルギーの概念を用いて、構造物（例えば梁、ラーメン、トラスなど）の支点反力、応力（図）、変形（たわみ、たわみ角）を計算できない。	
評価項目3	静定基本系（例えば、仮想仕事法など）を用い、不静定構造物の応力と、支点反力を求めることができる。		静定基本系（例えば、仮想仕事法など）を用い、不静定構造物の応力と、支点反力を求めることができる。		静定基本系（例えば、仮想仕事法など）を用い、不静定構造物の応力と、支点反力を求めることができない。	
Assigned Department Objectives						
学習・教育到達度目標 (D) 学習・教育到達度目標 (F) 学習・教育到達度目標 (H)						
Teaching Method						
Outline	建築構造力学は建築構造及び構造設計の基本となる学問である。本講義は、建築構造力学I(2年)、II(3年)の応用として、静定、不静定構造物との力学的な違い及び不静定構造物の解法である応力法や変位法について学習する。グローバル教育の一つとして、試験、演習は英語での出題とする。					
Style	授業は自著「基礎から学ぶ建築構造力学」の12～15章を用いて、講義、演習形式で行う。					
Notice	授業中はしっかり聞き、板書を取る。演習課題は自分で解き、確実に理解すること。判らない箇所は必ず質問し理解した上で先に進むこと。2、3年生の建築構造力学の復習を十分行っておくこと。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課					
Course Plan						
			Theme		Goals	
1st Semester r	1st Quarter	1st	構造物の安定・不安定、静定と不静定(1) 構造物の安定・不安定及び静定・不静定について講義する。		構造物の安定・不安定及び静定・不静定について理解できる。	
		2nd	構造物の安定・不安定、静定と不静定(2) 建築構造力学ⅠとⅡの復習を含めた演習課題(1)を行う。		2、3年生の建築構造力学及び1週目の内容を演習を通じて理解できる。	
		3rd	仕事とひずみエネルギー(1) 概要、外力仕事と内力仕事について講義する。		仕事とひずみエネルギーについて理解できる。	
		4th	仕事とひずみエネルギー(2) 各種ひずみエネルギーについて講義する。		軸方向力、曲げモーメントによる歪エネルギーの概念が理解できる。	
		5th	仕事とひずみエネルギー(3) 第4週に引き続き、ひずみエネルギーを説明し、仮想仕事の原理を用いた静定梁の変形について講義する。小テスト(3)		せん断力による歪エネルギーの概念及び仮想仕事の原理が理解できる。	
		6th	仕事とひずみエネルギー(4) カスチリアノの定理を用いた静定梁の変形について講義する。		カスチリアノの定理を用いた静定梁の変形が理解できる。	
		7th	仕事とひずみエネルギー(5) 演習課題(2)を行う。		3～6週の内容を演習を通じて理解できる。	
		8th	中間試験 第1～7週までの範囲から試験を行う。			
	2nd Quarter	9th	静定構造物の変形(1) 仮想仕事の原理を用いた静定トラスの変形について講義する。		仮想仕事の原理を用いた静定トラスの変形が理解できる。	
		10th	静定構造物の変形(2) 仮想仕事の原理を用いた静定ラーメンの変形について講義する。		仮想仕事の原理を用いた静定ラーメンの変形が理解できる。	
		11th	静定構造物の変形(3) 演習課題(3)を行う。		9、10週の内容を演習を通じて理解できる。	
		12th	不静定構造物(1) 概要と不静定次数について講義する。		不静定構造物の概要及び不静定次数について説明できる。	
		13th	不静定構造物(2) 仮想仕事の原理を用いた不静定梁の応力解法を講義する。		仮想仕事の原理を用いた不静定梁の応力解法が理解できる。	
		14th	不静定構造物(3) 不静定連続梁の応力計算を例題を通して解説する。		不静定連続梁の応力計算を例題を通して理解できる。	

		15th	不静定構造物(4) 演習課題(4)を行う。				12～14週の内容を演習を通じて理解できる。
		16th	期末試験				
Evaluation Method and Weight (%)							
	試験	演習					Total
Subtotal	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	80	20	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

Akashi College		Year	2018		Course Title	建築構造力学Ⅲ B	
Course Information							
Course Code		0076		Course Category		Specialized / Compulsory	
Class Format		Lecture		Credits		School Credit: 1	
Department		Architecture		Student Grade		4th	
Term		Second Semester		Classes per Week		2	
Textbook and/or Teaching Materials		教科書は、中川肇「基礎から学ぶ建築構造力学」鈴木基行著:構造力学徹底演習、森北出版 理論と演習からのアプローチ」(株井上書院)を使用する。(参考図書)					
Instructor		NAKAGAWA Hajime					
Course Objectives							
(1)たわみ角法を用いて不静定構造物の応力を求めることができる。また、応力図を描くことができる。 (2)固定モーメント法を用いて不静定構造物の応力を求めることができる。また、応力図を描くことができる。							
Rubric							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		いずれかの方法(変位法(たわみ角法)、固定モーメント法など)により、不静定構造物の支点反力、応力(図)を計算できる。		いずれかの方法(変位法(たわみ角法)、固定モーメント法など)により、不静定構造物の支点反力、応力(図)を計算できる。		いずれかの方法(変位法(たわみ角法)、固定モーメント法など)により、不静定構造物の支点反力、応力(図)を計算できない。	
Assigned Department Objectives							
学習・教育到達度目標 (D) 学習・教育到達度目標 (F) 学習・教育到達度目標 (H)							
Teaching Method							
Outline		建築構造力学は建築構造及び構造設計の基本となる学問である。本講は、建築構造力学I(2年)、II(3年)の応用として、不静定構造物の代表的な解法である、たわみ角法や固定モーメント法について学習する。グローバル教育の一つとして、試験、演習は英語での出題とする。					
Style		自著「基礎から学ぶ建築構造力学」の教科書を用いて、講義と演習形式で授業を行う。					
Notice		授業中はしっかり聞き、板書を取る。演習課題は自分で解き、確実に理解すること。判らない箇所は必ず質問し理解した上で先に進むこと。2、3年生の建築構造力学の復習を十分行っておくこと。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課					
Course Plan							
			Theme		Goals		
2nd Semester r	3rd Quarter	1st	たわみ角法(1) たわみ角法の概要、基本式の誘導について講義する。		たわみ角法の概要、基本式の誘導が理解できる。		
		2nd	たわみ角法(2) 第1週に引き続き、基本式の誘導と簡単な不静定梁の応力計算を解説する。		第1週に引き続き、基本式の誘導と簡単な不静定梁の応力計算が理解できる。		
		3rd	たわみ角法(3) 節点方程式について講義を行い、たわみ角法を用いた不静定連続梁、不静定ラーメン構造物の例題を解説する。		節点方程式について講義を聞き、たわみ角法を用いた不静定連続梁、不静定ラーメン構造物の例題を通じて内容が理解できる。		
		4th	たわみ角法(4) 例題を通じて、たわみ角法を理解させる。		たわみ角法に関する基本的な内容が理解できる。		
		5th	たわみ角法(5) 章末の演習問題を自主的に解く。適宜、学生の質問を受け、理解させる。		教科書の章末の練習問題を解くことによって、4週までの内容が理解できる。		
		6th	たわみ角法(6) 演習問題に取り組む。		1～5章の内容を演習を通じて理解する。		
		7th	たわみ角法(7) 部材の等価剛性、分割率、到達率について講義し、簡単な例題を説明する。		部材の等価剛性、分割率、到達率の内容が理解できる。		
		8th	中間試験 第1～7週までの範囲から試験を行う。				
	4th Quarter	9th	たわみ角法(8) 節点を移動する不静定ラーメン構造の解法を講義し、簡単な例題を解説する。		節点を移動する不静定ラーメン構造の解法を講義し、簡単な例題を通じて理解できる。		
		10th	たわみ角法(9) 節点が移動する不静定ラーメン構造の例題を解説し、練習問題を解く。		節点が移動する不静定ラーメン構造の例題を解説し、練習問題を解き理解する。		
		11th	固定モーメント法(1) 固定モーメント法の概念、概要、図解法を説明する。簡単な不静定連続梁の問題を解説する。		固定モーメント法の概念、概要、図解法を説明を聞き、簡単な不静定連続梁の問題を解くことができる。		
		12th	固定モーメント法(2) 固定モーメント法を用いた不静定ラーメン構造の例題を解説する。		固定モーメント法を用いた不静定ラーメン構造の例題を通じて理解できる。		
		13th	固定モーメント法(3) 教科書の章末の練習問題を自主的に解く。学生の質問を適宜受け、指導する。		巻末問題を解くことによって、11、12週の内容が理解できる。		
		14th	固定モーメント法(4) 演習問題(2)を行う。		11～13週の内容を演習を通じて理解できる。		
		15th	大学編入学試験及び就職試験に関する演習 過去に編入学試験に出題された建築構造、材料、施工及び就職試験に出題されやすい専門分野(建築計画、建築史、環境・設備、構造、施工)に関する演習を行う。		編入学試験及び就職試験対策として、過去問を解き、理解を深めることができる。		
		16th	期末試験				

Evaluation Method and Weight (%)							
	試験	演習					Total
Subtotal	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	80	20	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

Akashi College		Year	2018		Course Title	建築工学実験
Course Information						
Course Code	0077			Course Category	Specialized / Compulsory	
Class Format	Experiment			Credits	School Credit: 2	
Department	Architecture			Student Grade	4th	
Term	Year-round			Classes per Week	2	
Textbook and/or Teaching Materials	日本建築学会:「建築材料実験用教材」、日本建築学会野口貴文ほか『ベーシック建築材料』彰国社					
Instructor	,KAKUNO Yoshinori					
Course Objectives						
(1)コンクリートや鋼材の機械的性質に関する材料実験の目的や方法が理解できる。 (2)鉄筋コンクリート梁や鉄骨梁の力学的性質に関する構造実験の目的や方法が理解できる。 (3)実験の目的・方法・結果等を踏まえてレポートの作成ができる。						
Rubric						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	材料実験の目的や方法を十分に理解している。		材料実験の目的や方法を理解している。		材料実験の目的や方法を理解していない。	
評価項目2	構造実験の目的や方法を十分に理解している。		構造実験の目的や方法を理解している。		構造実験の目的や方法を理解していない。	
評価項目3	実験レポートの要件（目的、方法、結果等）を十分に満足している。		実験レポートの要件（目的、方法、結果等）を満足している。		実験レポートの要件（目的、方法、結果等）を満足していない。	
Assigned Department Objectives						
学習・教育到達度目標 (B) 学習・教育到達度目標 (D) 学習・教育到達度目標 (G)						
Teaching Method						
Outline	主要構造材料としてのコンクリートや鋼材（鉄筋）の材料的・構造的特性を実験を通して学ぶ。骨材の材料実験、コンクリートの調査設計、強度試験、鉄筋コンクリート梁の載荷実験、H型鋼の載荷実験などを行う。また、建築の材料・設計・施工・測量等に関するビデオ鑑賞により理解を深める。複数教員担当方式（田坂60時間、角野60時間）					
Style	実験毎に目的、方法、結果のまとめ等について説明する。実験はグループで行い、グループ毎にレポートを作成する。提出されたレポートはルーブリックに基づく相互評価を行う。また、ビデオ鑑賞を行い、レポートを作成する。					
Notice	講義と実験を関連づけて理解すること。定められた試験方法を的確に行なうこと。実験データは各自で記録・保管し、レポートに反映させること。授業には電卓を持参すること。安全に留意し、実験に相応しい服装や態度であること。合格の対象としない欠席条件(割合) 1/5以上の欠課					
Course Plan						
			Theme	Goals		
1st Semester	1st Quarter	1st	概要説明 実験計画・日程などについて説明する。	実験の目的や意義、及び安全管理について理解できる。		
		2nd	実験1(1) 実験1(砂及び砂利の単位容積質量試験)説明	単位容積質量試験の目的、方法、結果の表示が理解できる。		
		3rd	実験1(2) 実験1(前半)、ビデオ鑑賞(後半)	グループ活動として実験を実施できる。実験結果のまとめやビデオ鑑賞のレポート作成ができる。		
		4th	実験1(3) 実験1(後半)、ビデオ鑑賞(前半)	グループ活動として実験を実施できる。実験結果のまとめやビデオ鑑賞のレポート作成ができる。		
		5th	実験2(1) 実験2(砂及び砂利のふるい分け試験)説明	骨材のふるい分け試験の目的、方法、結果の表示が理解できる。		
		6th	実験2(2) 実験2(前半)、ビデオ鑑賞(後半)	グループ活動として実験を実施できる。実験結果のまとめやビデオ鑑賞のレポート作成ができる。		
		7th	実験2(3) 実験2(後半)、ビデオ鑑賞(前半)	グループ活動として実験を実施できる。実験結果のまとめやビデオ鑑賞のレポート作成ができる。		
		8th	中間試験			
	2nd Quarter	9th	実験3(1) 実験3(コンクリートのスランブ試験)説明	コンクリートのスランブ試験の目的、方法、結果の表示が理解できる。		
		10th	実験3(2) 実験3(前半)、ビデオ鑑賞(後半)	グループ活動として実験を実施できる。実験結果のまとめやビデオ鑑賞のレポート作成ができる。		
		11th	実験3(3) 実験3(後半)、ビデオ鑑賞(前半)	グループ活動として実験を実施できる。実験結果のまとめやビデオ鑑賞のレポート作成ができる。		
		12th	調査設計 コンクリートの調査設計について説明する。	JASS5に基づく調査設計の方法が理解できる。		
		13th	実験4(1) 実験4(コンクリートの圧縮強度試験)説明	コンクリートの圧縮強度試験の目的、方法、結果の表示が理解できる。		
		14th	実験4(2) 実験4(前半)、ビデオ鑑賞(後半)	グループ活動として実験を実施できる。実験結果のまとめやビデオ鑑賞のレポート作成ができる。		
		15th	実験4(3) 実験4(後半)、ビデオ鑑賞(前半)	グループ活動として実験を実施できる。実験結果のまとめやビデオ鑑賞のレポート作成ができる。		
		16th	期末試験			
2nd Semester	3rd Quarter	1st	実験5(1) 実験5(鉄筋コンクリート梁の載荷実験)説明	鉄筋コンクリート梁の載荷実験の目的、方法、結果の表示が理解できる。		
		2nd	実験5(2) 実験5(前半)、ビデオ鑑賞(後半) 試験体の製作	グループ活動として実験を実施できる。実験結果のまとめやビデオ鑑賞のレポート作成ができる。		
		3rd	実験5(3) 実験5(後半)、ビデオ鑑賞(前半) 試験体の製作	グループ活動として実験を実施できる。実験結果のまとめやビデオ鑑賞のレポート作成ができる。		

		4th	載荷実験レポートの説明 実験レポートの内容について説明する。	実験結果の理論的な予測や結果の取り纏め方法について理解できる。
		5th	実験5(4) 実験5(前半)、ビデオ鑑賞(後半) 載荷実験	グループ活動として実験を実施できる。実験結果のまとめやビデオ鑑賞のレポート作成ができる。
		6th	実験5(5) 実験5(後半)、ビデオ鑑賞(前半) 載荷実験	グループ活動として実験を実施できる。実験結果のまとめやビデオ鑑賞のレポート作成ができる。
		7th	実験のまとめ 実験データの取り纏め。	実験結果の総括とレポート作成ができる。
		8th	中間試験	
	4th Quarter	9th	実験6(1) 実験6(鉄筋引張試験)説明	鉄筋引張試験の目的、方法、結果の表示が理解できる。
		10th	実験6(2) 実験6(前半)、ビデオ鑑賞(後半)	グループ活動として実験を実施できる。実験結果のまとめやビデオ鑑賞のレポート作成ができる。
		11th	実験6(3) 実験6(後半)、ビデオ鑑賞(前半)	グループ活動として実験を実施できる。実験結果のまとめやビデオ鑑賞のレポート作成ができる。
		12th	実験7(1) 実験7(H型鋼の曲げ実験)説明	H型鋼の曲げ実験の目的、方法、結果の表示が理解できる。
		13th	実験7(2) 実験7(前半)、ビデオ鑑賞(後半)	グループ活動として実験を実施できる。実験結果のまとめやビデオ鑑賞のレポート作成ができる。
		14th	実験7(3) 実験7(後半)、ビデオ鑑賞(前半)	グループ活動として実験を実施できる。実験結果のまとめやビデオ鑑賞のレポート作成ができる。
		15th	実験のまとめ 実験データの取り纏め。	エクセルを用いた実験結果の取り纏めができる。
		16th	期末試験	

Evaluation Method and Weight (%)

	試験	レポート	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	Total
Subtotal	40	60	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	40	60	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

Akashi College		Year	2018		Course Title	鉄筋コンクリート構造	
Course Information							
Course Code		0078		Course Category		Specialized / Compulsory	
Class Format		Lecture		Credits		Academic Credit: 2	
Department		Architecture		Student Grade		4th	
Term		First Semester		Classes per Week		2	
Textbook and/or Teaching Materials		榎谷栄次:「鉄筋コンクリート構造の設計」、森北出版日本建築学会:「鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説」、日本建築学会					
Instructor							
Course Objectives							
(1)長方形断面の梁及び柱の力学的特性が理解できる。 (2)材料の許容応力度に基づく断面設計(主筋とせん断補強筋の算定)ができる。							
Rubric							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		梁や柱の力学的特性を十分理解している。		梁や柱の力学的特性を理解している。		梁や柱の力学的特性を理解していない。	
評価項目2		梁や柱の断面設計法を十分に理解し実行できる。		梁や柱の断面設計法を理解し実行できる。		梁や柱の断面設計法を理解、実行できない。	
Assigned Department Objectives							
学習・教育到達度目標 (D) 学習・教育到達度目標 (F) 学習・教育到達度目標 (H)							
Teaching Method							
Outline		コンクリートと鉄筋の材料特性を学び、許容応力度に基づく設計法の概要を学習する。主に、建築物の主要構造部材である曲げを受ける梁、曲げと軸力を受ける柱の力学的特性と断面設計法について学習する。また、梁及び柱のせん断力に対する抵抗性能を確保するためのせん断補強筋の設計法について学ぶ。					
Style		講義形式による説明、eラーニング (Moodle) を活用した予習、復習及びピアインストラクション等の授業外学習。					
Notice		コンクリートと鉄筋の材料特性をよく理解し、それを部材の断面設計に生かすよう心がけること。電卓を持参し、授業中に活用すること。eラーニングを使用した授業外学習に取り組むこと。本科目は、授業で保障する学習時間と、予習・復習・課題レポート等に必要な標準的自己学習時間の総計が90時間に相当する学習内容である。合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課					
Course Plan							
			Theme		Goals		
1st Semester	1st Quarter	1st	序 鉄筋コンクリート構造の歴史、長所と短所、複合構造としての成立条件などについて述べる。		鉄筋コンクリートの歴史や長所・短所等について理解できる。		
		2nd	材料と許容応力度-1 コンクリートと鉄筋の諸特性について述べる。		コンクリートと鉄筋の材料特性と許容応力度について理解できる。		
		3rd	材料と許容応力度-2 コンクリートと鉄筋の許容応力度について述べる。		コンクリートと鉄筋の材料特性と許容応力度について理解できる。		
		4th	曲げを受ける梁-1 単筋梁の力学的性質について述べる。		単筋梁の中立軸位置、各部応力、つり合い断面等について理解できる。		
		5th	曲げを受ける梁-2 単筋梁断面の許容曲げモーメント、終局曲げモーメント等について述べる。		単筋梁の断面設計が理解できる。		
		6th	曲げを受ける梁-3 複筋梁の力学的性質について述べる。		複筋梁の中立軸位置、各部応力、つり合い断面等について理解できる。		
		7th	曲げを受ける梁-4 複筋梁断面の許容応力度設計について述べる。		複筋梁の断面設計が理解できる。断面算定図を用いた断面算定ができる。		
		8th	中間試験				
	2nd Quarter	9th	曲げと軸力を受ける柱-1 柱断面の力学的特性について述べる。		柱断面の中立軸位置、各部応力、つり合い断面等について理解できる。		
		10th	曲げと軸力を受ける柱-2 柱断面の力学的特性について述べる。		柱断面の中立軸位置、各部応力、つり合い断面等について理解できる。		
		11th	曲げと軸力を受ける柱-3 柱の許容軸力、許容曲げモーメントについて述べる。		柱断面の許容軸力、許容曲げモーメントが理解できる。		
		12th	曲げと軸力を受ける柱-4 柱断面の許容応力度設計について述べる。		柱断面の断面算定図が理解できる。また、断面算定図を用いて主筋の断面算定ができる。		
		13th	せん断補強-1 梁断面のせん断応力度分布、許容せん断力等について述べる。		せん断補強の目的や意義、及びコンクリートや補強筋が負担するせん断力等が理解できる。		
		14th	せん断補強-2 梁のせん断補強設計について述べる。		梁の設計用せん断力や許容せん断力を理解し、あばら筋の算定ができる。		
		15th	せん断補強-3 柱のせん断補強設計について述べる。		柱の設計用せん断力や許容せん断力を理解し、帯筋の算定ができる。		
		16th	期末試験				
Evaluation Method and Weight (%)							
	試験	レポート	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	Total
Subtotal	50	50	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	50	50	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

Akashi College		Year	2018		Course Title	鋼構造 A
Course Information						
Course Code		0079		Course Category	Specialized / Compulsory	
Class Format		Lecture		Credits	School Credit: 1	
Department		Architecture		Student Grade	4th	
Term		First Semester		Classes per Week	2	
Textbook and/or Teaching Materials		高梨晃一、福島暁男共著:基礎からの鉄骨構造 第2版、森北出版				
Instructor		NAKAGAWA Hajime				
Course Objectives						
(1)鉄骨構造の高力ボルト接合、溶接接合の概要を理解し、構造計算ができる。 (2)鋼材の許容応力度の算定ができ、引張材、圧縮材の断面設計ができる。 (3)実際の鉄骨構造を自宅周辺で撮影し、授業を学習したことをレポート課題を通じて理解することができる。						
Rubric						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1		S造の特徴・構造形式について説明できる。	S造の特徴・構造形式について説明できる。	S造の特徴・構造形式について説明できない。		
評価項目2		高力ボルト摩擦接合の機構について説明できる。	高力ボルト摩擦接合の機構について説明できる。	高力ボルト摩擦接合の機構について説明できない。		
評価項目3		溶接接合の種類と設計法について説明できる。	溶接接合の種類と設計法について説明できる。	溶接接合の種類と設計法について説明できない。		
評価項目4		引張材の概要、設計法について説明できる。	引張材の概要、設計法について説明できる。	引張材の概要、設計法について説明できない。		
Assigned Department Objectives						
学習・教育到達度目標 (D) 学習・教育到達度目標 (F) 学習・教育到達度目標 (H)						
Teaching Method						
Outline	鋼(鉄骨)構造は工場で生産された形鋼を柱や梁などの構造部材として主に用い、部材を高力ボルトや溶接で接合して架構を構成する構造である。本講義では、鋼材の一般的な性質や許容応力度、高力ボルトや溶接による部材の接合方法を学習する。また、引張材、圧縮材の設計法を学習する。学校で学習する内容が実社会での設計、施工業務にどのように関係しているを実例を挙げて紹介する。					
Style	「基礎からの鉄骨構造」の教科書（森北出版）を用いて授業を行う。各章が終了ごとにレポート課題を出す。また、授業で学習した内容と世の中の鉄骨構造を対比する意味で自由課題を設定する。					
Notice	鋼(鉄骨)構造に関する基礎的事項をできる限り実例を挙げて紹介するが、板書は確実に取り、各章ごとのレポート課題で確実に理解してもらいたい。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課					
Course Plan						
			Theme	Goals		
1st Semester	1st Quarter	1st	鋼材の種類と性質(1) 鋼構造の長所と短所、鋼材の種類及び機械的性質について講義する。	鋼構造の長所と短所、鋼材の種類及び機械的性質について説明できる。		
		2nd	鋼材の種類と性質(2) 構造設計法、荷重、許容応力度について講義する。	構造設計法、荷重、許容応力度について説明できる。		
		3rd	高力ボルト接合(1) 高力ボルト接合の概要を説明し、許容応力度について講義する。	高力ボルト接合の概要を説明し、許容応力度について説明できる。		
		4th	高力ボルト接合(2) 高力ボルト接合の許容応力度設計について講義する。	高力ボルト接合の許容応力度設計について説明できる。		
		5th	高力ボルト接合(3) 高力ボルト接合の破断の検定について講義し、例題を解説する。レポート課題(1)	高力ボルト接合の破断の検定について説明できる。		
		6th	溶接接合(1) 溶接接合の概要を説明し、溶接継目、溶接記号を講義する。小テスト(1)	溶接接合の概要を説明し、溶接継目、溶接記号の授業を聞き、理解できる。		
		7th	溶接接合(2) 溶接継目の許容応力度設計について講義する。	溶接継目の許容応力度設計について、説明できる。		
		8th	中間試験 第1～5週の範囲から試験を行う。			
	2nd Quarter	9th	溶接接合(3) 軸力、曲げ、せん断力を受ける溶接継目の検定について講義する。	軸力、曲げ、せん断力を受ける溶接継目の検定について説明できる。		
		10th	溶接接合(4) 溶接継目の破断の検討について講義を行い、例題を解説する。レポート課題(2)	溶接継目の破断の検討について説明できる。		
		11th	引張材(1) 引張材の概要及び許容応力度設計法について講義する。	引張材の概要及び許容応力度設計法について説明できる。		
		12th	引張材(2) 引張材の破断の検討について講義する。	引張材の破断の検討について説明できる。		
		13th	引張材(3) 例題を解説する。レポート課題(3)	巻末の例題を説明し、11、12週の引張材の設計法が理解できる。		
		14th	圧縮材(A-1) 棒の曲げ座屈の実験を行い、Eulerの座屈荷重を誘導する。小テスト(2)	棒の曲げ座屈の実験を行い、Eulerの座屈荷重を誘導ができ、説明ができる。		

	15th	圧縮材(A-2) 圧縮材の設計式について講義する。			圧縮材の設計式について説明ができる。		
	16th	期末試験					
Evaluation Method and Weight (%)							
	試験	レポート課題	小テスト	自主課題	ポートフォリオ	その他	Total
Subtotal	70	10	10	10	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	10	10	10	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

Akashi College		Year	2018		Course Title	鋼構造 B
Course Information						
Course Code		0080		Course Category	Specialized / Compulsory	
Class Format		Lecture		Credits	School Credit: 1	
Department		Architecture		Student Grade	4th	
Term		Second Semester		Classes per Week	2	
Textbook and/or Teaching Materials		高梨晃一、福島暁男共著:基礎からの鉄骨構造 第2版、森北出版				
Instructor		NAKAGAWA Hajime				
Course Objectives						
(1)鋼材の許容応力度の算定ができ、柱、梁の断面設計ができる。 (2)梁継手の設計はレポート課題に取り組み、各種の接合設計ができる。 (3)実際の鉄骨構造を自宅周辺で撮影し、授業を学習したことをレポート課題を通じて理解することができる。						
Rubric						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1		軸力、曲げを受ける部材の設計の計算ができる。	軸力、曲げを受ける部材の設計の計算ができる。	軸力、曲げを受ける部材の設計の計算ができない。		
評価項目2		曲げ材の設計の計算ができる。	曲げ材の設計の計算ができる。	曲げ材の設計の計算ができない。		
評価項目3		接合部（柱、梁継手等）の設計・計算ができる。	接合部（柱、梁継手等）の設計・計算ができる。	接合部（柱、梁継手等）の設計・計算ができない。		
Assigned Department Objectives						
学習・教育到達度目標 (D) 学習・教育到達度目標 (F) 学習・教育到達度目標 (H)						
Teaching Method						
Outline	鋼(鉄骨)構造は工場で生産された形鋼を柱や梁などの構造部材として主に用い、部材を高力ボルトや溶接で接合して架構を構成する構造である。本講義では、圧縮材、曲げ材、曲げと軸力を受ける材の断面設計法及び梁、柱継手、柱・梁接合部の設計法を学習する。学校で学習する内容が実社会での設計、施工業務にどのように関係しているを実例を挙げて紹介する					
Style	「基礎からの鉄骨構造」の教科書を使用し、授業を行う。各章が終了することにレポート課題を出す。					
Notice	鋼(鉄骨)構造に関する基礎的事項をできる限り実例を挙げて紹介するが、板書は確実に取り、各章ごとのレポート課題で確実に理解してもらいたい。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課					
Course Plan						
			Theme	Goals		
2nd Semester	3rd Quarter	1st	圧縮材 (B-1) 圧縮材の設計式について講義する。	圧縮材の設計式について説明できる。		
		2nd	圧縮材 (B-2) 圧縮材に関する幅厚比を説明し、巻末の設計例を解説する。レポート課題(1)	圧縮材に関する幅厚比を説明及び巻末の設計例を聞き、圧縮材が設計できるようになる。		
		3rd	曲げ材(1) 曲げ材(梁材)の概要、応力について講義する。小テスト(1)	曲げ材(梁材)の概要、応力について講義を聞き、理解できる。		
		4th	曲げ材(2) 曲げ材の横振れ座屈（一様振れと拘束振れ）について講義する。	曲げ材の横振れ座屈（一様振れと拘束振れ）について講義を聞き、横振れが説明できる。		
		5th	曲げ材(3) 第4週に引き続き、曲げ材の横振れ座屈（一様振れと拘束振れ）について講義する。	曲げ材の横振れ座屈（一様振れと拘束振れ）について講義を聞き、横振れが説明できる。		
		6th	曲げ材(4) 曲げ材の許容曲げ応力度と設計法について講義する。	曲げ材の許容曲げ応力度と設計法について説明できる。		
		7th	曲げ材(5) 曲げ材の設計を理解するために、巻末の設計例を解説する。レポート課題 (2)	曲げ材の設計を理解するために、巻末の設計例の解説を聞き、曲げ材が設計できる。		
		8th	中間試験 第1～7週の範囲から試験を行う。			
	4th Quarter	9th	軸力と曲げを受ける材(1) 柱には曲げ、せん断、軸力が作用するために、簡単な例題を通し、軸力と曲げの関係を講義する。	柱には曲げ、せん断、軸力が作用するために、簡単な例題を通し、軸力と曲げの関係を理解できる。		
		10th	軸力と曲げを受ける材(2) 軸力と曲げを受ける材の設計法について講義する。	軸力と曲げを受ける材の設計法について講義を聞き、理解できる。		
		11th	軸力と曲げを受ける材(3) 軸力と曲げを受ける材の設計を理解するために、教科書巻末の設計例を解説する。レポート課題(3)	軸力と曲げを受ける材の設計を理解するために、教科書巻末の設計例の解説を聞き、柱材が設計できる。		
		12th	接合部(1) 柱、梁部材の接合方法を実例で説明し、接合部の概要、梁継手の設計法を講義する。	柱、梁部材の接合方法を実例で説明し、接合部の概要、梁継手の設計法が理解できる。		
		13th	接合部(2) 第11週に引き続き、梁継手の設計法を講義する。また、教科書巻末の設計例を解説し、梁継手の設計法を理解する。	第11週に引き続き、梁継手の設計法を講義する。また、教科書巻末の設計例を解説し、梁継手の設計法が理解できる。		
		14th	接合部(3) 第12週に引き続き、梁継手の設計例を解説する。柱継手の概要、設計法について講義する。レポート課題(4)	第12週に引き続き、梁継手の設計例を解説する。柱継手の概要、設計法が理解できる。		

		15th	接合部(4) 柱梁接合部の接合方法、設計法の概要を講義する。小テスト(2)			柱梁接合部の接合方法、設計法の概要の講義を聞き説明できる。	
		16th	期末試験				
Evaluation Method and Weight (%)							
	試験	レポート課題	小テスト				Total
Subtotal	70	15	15	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	15	15	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

Akashi College		Year	2018		Course Title	建築計画Ⅲ	
Course Information							
Course Code	0081			Course Category	Specialized / Compulsory		
Class Format	Seminar			Credits	School Credit: 1		
Department	Architecture			Student Grade	4th		
Term	First Semester			Classes per Week	2		
Textbook and/or Teaching Materials	現代建築学 新訂 建築計画2						
Instructor	OTSUKA Takehiko						
Course Objectives							
1)建築物の寿命はどのように捉えられるか理解し、建築空間の長寿命化のための計画手法を説明できる。 2)計画・設計プロセスの諸段階を知り、設計を進めていく上で必要な基本的な平面型の知識、全体計画のまとめ方等々を理解している。 3)地域の問題の住民による自主的解決に関連して建築協定の意義を理解している。 4)人間性豊かな住空間を創造するため、人間学的視点の必要性や、高齢者施設の設立目標などを理解している。							
Rubric							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	住宅の設計手法についての確に説明できる。		住宅の設計手法について説明できる。		住宅の設計手法について説明できない。		
評価項目2	計画・設計の方法などについての確に説明できる。		計画・設計の方法などについて説明できる。		計画・設計の方法などについて説明できない。		
評価項目3	建築協定についての確に説明できる。		建築協定について説明できる。		建築協定について説明できない。		
評価項目4	建築設計において総合的、人間学的視点が必要であることを具体的に理解できる。		建築設計において総合的、人間学的視点が必要であることを理解できる。		建築設計において総合的、人間学的視点が必要であることを理解できない。		
Assigned Department Objectives							
学習・教育到達度目標 (D) 学習・教育到達度目標 (E) 学習・教育到達度目標 (H)							
Teaching Method							
Outline	建築は人間の生活を支える器であり、生活を左右するが、建築計画学は生活を豊かにする力を科学的に認識し、理論化する学問である。本講義はそうした視点から計画課題の明確化、設計の進め方について講義する。						
Style	講義。全講義のうち2回は建築設計の第一線で活躍する建築家が建築設計業務の実際について講義する。						
Notice	建築には、例えば、様々な人々の生活パターンに対応する多様性、機能と空間構成の関係、機能内容の時代的变化、等々の多くの側面がある。建築の計画・設計について考えるときは諸側面を総合的に捉えるように心がけること。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課						
Course Plan							
			Theme	Goals			
1st Semester	1st Quarter	1st	授業の進め方 授業の進め方および建築計画学を勉強する上でのポイントの説明。				
		2nd	フレキシビリティとエキスパシビリティ	建築空間に対する利用者の要求は年月とともに変化してゆく。それに対応しうる計画手法を解説。			
		3rd	建築寿命のとらえかた	建築物の寿命といっても多様な捉え方がある。どのような寿命の概念があるのかを概説する。			
		4th	住宅の設計 1	戦災復興からモダンリビングまで概説する			
		5th	住宅の設計手法 2	住生活におけるnLDK論や寝食分離について理解する			
		6th	住宅・住生活の多様化の進展	ニュータウンから高層居住の普及、住宅住生活の多様化			
		7th	低層集合住宅の計画	集住のなわばり学について。			
		8th	計画段階と設計段階	建築設計に先立って企画・計画段階がある。この段階と設計段階を比較し、各々の内容を説明する。			
	2nd Quarter	9th	建築協定の意義	住民による積極的なまちづくりや、地域の問題の住民間の自主的解決といったことに関連する建築協定について解説。			
		10th	空間認知	人間が無意識に創り出し、かつ必要としている空間とはどのようなものか、心理学的、人間学的視点から解説			
		11th	バリアフリー住宅の設計論	高齢者・障害者のバリアフリー住宅の設計について概説する。			
		12th	福祉施設	高齢者福祉施設について。グループホーム、小規模多機能福祉拠点について。			
		13th	複合建築 1	基本事項、建築計画、実例。複合施設の問題点について。			
		14th	複合建築 2	建築の複合化 シェア空間の設計手法について学ぶ			
		15th	補足授業	前期の授業の補足、復習、質問等。			
		16th	期末試験				
Evaluation Method and Weight (%)							
	試験	発表	相互評価	態度	レポート	レジュメ	Total
Subtotal	50	0	0	0	25	25	100
基礎的能力	50	0	0	0	25	25	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0

分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0
---------	---	---	---	---	---	---	---

Akashi College		Year	2018		Course Title	建築計画Ⅳ
Course Information						
Course Code	0082			Course Category	Specialized / Compulsory	
Class Format	Seminar			Credits	School Credit: 1	
Department	Architecture			Student Grade	4th	
Term	Second Semester			Classes per Week	2	
Textbook and/or Teaching Materials	岡田 光正、辻 正矩、吉村 英祐、柏原 士郎、森田 孝夫:「建築計画〈2〉」、鹿島出版会					
Instructor	MOTOZUKA Tomoki					
Course Objectives						
1)居住施設（独立住宅や集合住宅）の計画について説明できる。 2)教育や福祉系の施設（幼稚園、保育所、小・中学校、高等学校など）の計画について説明できる。 3)文化・交流系の施設（美術館、博物館、図書館など）の計画について説明できる。 4)医療・業務系施設（病院、オフィスビル、庁舎、百貨店、ホテル、旅館など）の計画について説明できる。 5)発表に関して、多くの資料を全体的に見渡し、要点をつかみ、何らかの視点から整理して簡潔に構成し直し、人に伝えることができる。						
Rubric						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	居住施設の計画についての確に説明できる。		居住施設の計画について説明できる。		居住施設の計画について説明できない。	
評価項目2	教育、福祉系施設の計画についての確に説明できる。		教育、福祉系施設の計画について説明できる。		教育、福祉系施設の計画について説明できない	
評価項目3	文化・交流系施設の計画についての確に説明できる。		文化・交流系施設の計画について説明できる。		文化・交流系施設の計画について説明できない	
評価項目4	医療・業務系施設の計画についての確に説明できる。		医療・業務系施設の計画について説明できる。		医療・業務系施設の計画について説明できない	
評価項目5	要点をまとめ、再構成し的確に発表できる。		要点をまとめ、再構成し発表できる。		要点をまとめ、再構成し発表できない。	
Assigned Department Objectives						
学習・教育到達度目標 (D) 学習・教育到達度目標 (E) 学習・教育到達度目標 (H)						
Teaching Method						
Outline	本講義は、学校建築、病院建築、住宅等々の建築計画学における各論を中心とする。それらに関して、学生がグループをつくり、発表するという方式で授業を進めてゆく。					
Style	全授業の内11回は学生による発表である。学生は11のグループをつくり、各種建築について建築学科学生として知っておくべき基本的知識を調べ、報告書を提出し、授業で発表する。自ら調べ、資料として整理し、相手に伝えるというプロセスを経ることで知識を深める。学生発表時には本塚が補足、解説をおこなう。					
Notice	発表の1週間前までに発表用レジメ原稿(A4で4枚)を作成し、内容の確認を受け修正を加えること。発表の2日前までには修正したレジメ原稿を本塚まで提出すること。 発表に際しては、パワーポイントを有効に使うこと。各施設の基本計画に関しては一人当たりA4、7から8枚の分量で発表用レジメ原稿とは別にレポートを作成し、提出すること。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課					
Course Plan						
			Theme	Goals		
2nd Semester	3rd Quarter	1st	オリエンテーション(本塚担当)	授業の進め方の説明。グループ分けと各グループが担当する施設の割り振り。		
		2nd	コミュニティセンター(本塚担当)	基本事項、建築計画、実例。発表資料作成時のポイントの解説。		
		3rd	学校（グループ発表）	基本事項。建築計画。実例。教室周りの豊かさ。小学校と地域の関係。運営方式とブロックプラン。耐震化。		
		4th	保育所、幼稚園（グループ発表）	基本事項。建築計画。実例。育児の社会化。保育所のブロックプラン。		
		5th	病院・保健福祉施設（グループ発表）	基本事項。建築計画。実例。PPC。ナースステーションを中心とした病棟のモデル図。病室の計画。		
		6th	集合住宅（グループ発表）	基本事項。建築計画。実例。51Cの成立過程。住棟形態とアクセス方式。タウンハウスの可能性。		
		7th	事務所、銀行（グループ発表）	基本事項。建築計画。実例。貸しオフィスの収益性と計画課題。オフィスレイアウトの計画。		
		8th	庁舎（グループ発表）	基本事項。建築計画。実例。市民サービス。災害への備え。庁舎移転。		
	4th Quarter	9th	商業施設(グループ発表)	基本事項、建築計画、実例。コンバージョン。		
		10th	図書館(グループ発表)	基本事項、建築計画、実例。図書館の出納システム。公共図書館の中央館と分館の機能図。		
		11th	博物館、美術館(グループ発表)	基本事項、建築計画、実例。開かれた文化施設。新しい博物館。		
		12th	オーディトリウム(グループ発表)	基本事項、建築計画、実例。プロセニウム形式。専用ホールと多目的ホール。		
		13th	宿泊施設(グループ発表)	基本事項、建築計画、実例。ホテルの種類。		
		14th	災害時の空間資源利用(本塚担当)	基本事項、建築計画、実例。災害時に必要な機能。空間資源マネジメントの考え方。避難所。		
		15th	伝統的建築物の保全と再活用(本塚担当)	基本事項、計画変更、実例。リノベーション。保全と保存。		
		16th	期末試験			

Evaluation Method and Weight (%)

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	レポート	その他	Total
Subtotal	50	25	0	0	0	25	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	50	25	0	0	0	25	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0

Akashi College		Year	2018		Course Title	建築設計演習Ⅳ A
Course Information						
Course Code	0083			Course Category	Specialized / Compulsory	
Class Format	Seminar			Credits	School Credit: 2	
Department	Architecture			Student Grade	4th	
Term	First Semester			Classes per Week	4	
Textbook and/or Teaching Materials	テキスト：日本建築学会編：コンパクト建築設計資料集成,丸善,2005その他、演習課題の内容に応じた資料を適宜配布する					
Instructor	KUDOH Kazumi,MIZUSHIMA Akane,KOBAYASHI Naoki					
Course Objectives						
1) 複雑な与条件をもとにコンセプトをまとめ、動線・ゾーニングのエスキスができる 2) 模型を製作し、ソフトウェアを活用して提案内容を図面やスケッチ、写真などを用いて分かりやすくプレゼンボードに表現することができる 3) プレゼンボードを用いて提案内容を簡潔に伝え、質疑意見に対して討論することができる						
Rubric						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	自分一人で複雑な与条件を整理し、エスキスを重ねて提案内容をまとめることができる		教員のアドバイスを受けながら複雑な与条件を整理し、エスキスを重ねて提案内容をまとめることができる		複雑な与条件を整理し、エスキスを踏まえて提案内容をまとめることができない	
評価項目2	自身で適切な表現を選択し、提案内容を分かりやすくプレゼンボードに表現することができる		提案内容を分かりやすくプレゼンボードに表現することができる		提案内容を分かりやすくプレゼンボードに表現することができない	
評価項目3	プレゼンボードを用いて提案内容を簡潔に伝え、質疑意見に対して討論することができる		プレゼンボードを用いて提案内容を伝え、質疑意見に対して受け答えすることができる		プレゼンボードを用いて提案内容を簡潔に伝え、質疑意見に対して討論することができない	
Assigned Department Objectives						
学習・教育到達度目標 (D) 学習・教育到達度目標 (E) 学習・教育到達度目標 (F)						
Teaching Method						
Outline	本科目では、これまで学んできた設計の基礎的事項をさらに発展させ、複雑に絡み合った様々な条件のもとでの空間設計能力を身につけることを目的とする。 具体的には1) 地域に密着した小学校の設計と2) 全国高専デザインコンペティションを課題とする。					
Style	本授業ではエスキスや講評を中心に進める。					
Notice	日常から建築分野に関わる多様な情報に対する関心を高め、建築物の現地見学を自主的に実践し、独創的な発想を育成するとともに、建築設計に有効な手法や態度を学びとること 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課					
Course Plan						
			Theme		Goals	
1st Semester	1st Quarter	1st	オリエンテーション 本授業の進め方と課題の意義や内容に関する説明		今日の学校建築に求められていることが説明できる	
		2nd	第1課題「小学校の設計」-敷地見学 対象敷地の見学を行い、見学レポートを制作する		敷地や周辺環境を読み取りレポートにまとめることができる	
		3rd	第1課題「小学校の設計」- 構想計画I 計画条件を整理し、全体構想を練る		与条件を整理し、全体構想をまとめることができる	
		4th	第1課題「小学校の設計」-構想計画II ミニレクチャーと構想計画の講評		構想計画を説明することができる	
		5th	第1課題「小学校の設計」-基本計画 ボリュームの検討・図面の作製		規模や機能を決定することができる	
		6th	第1課題「小学校の設計」-中間発表 基本計画の発表を行う		基本計画をまとめる	
		7th	第1課題「小学校の設計」-最終設計I 図面を製作する		平面図、断面図、立面図を完成させる	
		8th	第1課題「小学校の設計」-最終設計II CADを用いて図面を制作する		CADを用いた図面を完成させる	
	2nd Quarter	9th	第1課題「小学校の設計」-最終設計III CADを用いて図面を制作し、プレゼンボードを完成させる		プレゼンボードを完成させる	
		10th	第1課題「小学校の設計」-講評会 完成した作品についての説明し、講評を受ける		プレゼンボードを用いて説明し、講評に対して自分の意見を述べる	
		11th	第1課題「小学校の設計」のブラッシュアップ&第2課題の説明 講評会により明らかになった課題を修正し、プレゼンボードの完成度を高める 競技設計課題の内容を読みとる		講評を受けて修正した内容をプレゼンボードにまとめる	
		12th	第2課題「全国高専デザインコンペティション競技設計課題」 草案の作製する 具体的な草案を作製する		提案内容をまとめる	
		13th	第2課題「全国高専デザインコンペティション競技設計課題」 プレゼンボードを作製する グループごとにエスキスチェックを行う。CADを用いた図面制作作業に着手する		提案をプレゼンボードをまとめる	

		14th	第2課題「全国高専デザインコンペティション競技設計課題」 プレゼンボードを作製する エスキスチェックを踏まえ、プレゼンボードの作製を行う	提案をプレゼンボードをまとめる
		15th	第2課題「全国高専デザインコンペティション競技設計課題」 講評を受け提出図面を完成させる 講評会により課題を明らかにする。学内選考に応募に備え、改善する	提案をスライドを用いて分かりやすくプレゼンテーションする
		16th	期末試験実施せず	

Evaluation Method and Weight (%)

	レポート・エスキス	最終成果物	発表	態度		Total
Subtotal	20	70	10	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0
専門的能力	20	70	0	0	0	90
分野横断的能力	0	0	10	0	0	10

Akashi College		Year	2018		Course Title	建築設計演習Ⅳ B	
Course Information							
Course Code		0084		Course Category		Specialized / Compulsory	
Class Format		Seminar		Credits		Academic Credit: 4	
Department		Architecture		Student Grade		4th	
Term		Second Semester		Classes per Week		4	
Textbook and/or Teaching Materials		演習課題の内容に応じて適切な資料を印刷し配布する。					
Instructor		KAMIYA Akio,MOTOZUKA Tomoki					
Course Objectives							
1)庁舎建築の設計で、多様な人々の動線、様々な機能空間のゾーニング等々を合理的にまとめ上げ、建築空間として構成することができる。 2)集合住宅の設計で、プライベート・セミプライベート・セミパブリック・パブリックという段階的空間構成をもち、住民同士が自然と互いに顔見知りとなり、住民が地域に帰属意識をもつことができる集合住宅を設計できる。 3)敷地と周辺地域および景観などに配慮し、配置、意匠を検討できる。 4)講評会等において、コンセプトなどをまとめ、プレゼンテーションができる。 5)ソフトウェアを用い、各種建築図面を作成できる。							
Rubric							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		複雑な機能をもつ庁舎建築を的確に設計できる。		複雑な機能をもつ庁舎建築を設計できる。		複雑な機能をもつ庁舎建築を設計できない。	
評価項目2		段階的空間構成をもった集合住宅を的確に設計できる。		段階的空間構成をもった集合住宅を設計できる。		段階的空間構成をもった集合住宅を設計できない。	
評価項目3		周辺地域、景観などに的確に配慮した設計ができる。		周辺地域、景観などに配慮した設計ができる。		周辺地域、景観などに配慮した設計ができない。	
評価項目4		的確にプレゼンテーションができる。		プレゼンテーションができる。		適切なプレゼンテーションができない。	
評価項目5		ソフトウェアを的確にもちい図面作成ができる。		ソフトウェアをもちい図面作成ができる。		ソフトウェアをもちい図面作成ができない。	
Assigned Department Objectives							
学習・教育到達度目標 (D) 学習・教育到達度目標 (E) 学習・教育到達度目標 (F)							
Teaching Method							
Outline		建築設計演習ⅣBは、計画、環境、構造分野の専門科目で得られた成果を総合化し、まとめあげる基礎的能力を育成することを目標としている。建築設計に関して学んできた基礎的事項を活かし、機能的に複雑な建築物の空間設計演習を実施する。課題対象となる建築や空間の社会的位置づけや発展過程等を学び、各学生が望ましいと考える設計の方向性を絞り込んでいく学習のプロセスを多様な情報により支援する。					
Style		設計の各段階で、どのように考えればより優れた建築になるかを具体的に示し指導する。					
Notice		日常から建築分野に関わる多様な情報に対する関心を高め、建築物の現地見学を自主的に実践すること。設計に当たってはスタディ模型などを使って空間を立体的に捉えていくこと。自分がその中を歩き回り、住み込んでいること等をイメージし、その空間を体感しつつ設計すること。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課					
Course Plan							
			Theme		Goals		
2nd Semester	3rd Quarter	1st	第1課題「庁舎の設計」その1		課題説明。草案(エスキス)作業に着手し、計画設計に必要な情報を収集する。		
		2nd	第1課題「庁舎の設計」その2		草案の完成度を高めながら、指導教員との意見交換を活発に行う。エスキスを完成し提出する。		
		3rd	第1課題「庁舎の設計」その3		エスキスの講評会を開催し、草案の手直しを行う。CADによる設計作業を開始する。		
		4th	第1課題「庁舎の設計」その4		CADによる設計作業Ⅱ 敷地内での配置、建築の構成をまとめる。		
		5th	第1課題「庁舎の設計」その5		CADによる設計作業Ⅲ 配置図、平面図、断面図、立面図等をまとめ、各図面間の整合性を確認する。		
		6th	第1課題「庁舎の設計」その6		CADによる設計作業Ⅳ 設計図全体の完成度を高め、完成し提出する。		
		7th	第1課題「庁舎の設計」その7		講評会を開催し各学生が作品内容を説明する。修正が指摘された部分について手直しを行う。		
		8th	第2課題「まちづくりと協調する集合住宅の設計」その1 まちづくりおよび集合住宅に関する講義		敷地環境と建築法規制に関して情報収集を行う。草案(エスキス)作業に着手し、計画設計に必要な情報を収集する。		
	4th Quarter	9th	第2課題「まちづくりと協調する集合住宅の設計」その2		建築のおよその規模を定め、日影規制の点検を行う。草案の完成度を高めながら、指導教員との意見交換を活発に行う。エスキスを完成し提出する。		
		10th	第2課題「まちづくりと協調する集合住宅の設計」その3		エスキスの講評会を開催し、草案の手直しを行う。CADによる設計作業を開始する。		
		11th	第2課題「まちづくりと協調する集合住宅の設計」その4		CADによる設計作業Ⅱ 敷地内での配置、建築の構成をまとめる。		
		12th	第2課題「まちづくりと協調する集合住宅の設計」その5		CADによる設計作業Ⅲ 空間構成を明らかにした平面図、断面図等をまとめる。		
		13th	第2課題「まちづくりと協調する集合住宅の設計」その6		CADによる設計作業Ⅳ 配置図、平面図、断面図、立面図等をまとめ、各図面間の整合性を確認する。 外観や景観設計を行う。CGによる図の採用で表現を充実する。		

		14th	第2課題「まちづくりと協調する集合住宅の設計」その7	CADによる設計作業Ⅴ 設計図全体の完成度を高め、完成し提出する。
		15th	第2課題「まちづくりと協調する集合住宅の設計」その8	講評会を開催し各学生が作品内容を説明する。修正が指摘された部分について手直しを行う。
		16th	期末試験実施せず	

Evaluation Method and Weight (%)							
	設計作品	エスキス	発表	態度	ポートフォリオ	その他	Total
Subtotal	70	20	10	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	20	10	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

Akashi College		Year	2018		Course Title	建築環境工学Ⅱ
Course Information						
Course Code	0085			Course Category	Specialized / Compulsory	
Class Format	Lecture			Credits	Academic Credit: 2	
Department	Architecture			Student Grade	4th	
Term	First Semester			Classes per Week	2	
Textbook and/or Teaching Materials	建築環境工学（初学者の建築講座） 倉渕 隆著					
Instructor	HIRAISHI Toshihiro					
Course Objectives						
本講義では、省エネルギーと快適性を両立するために必要な知識を習得する。その後、自らが選んだテーマについて調査とプレゼンテーションを行い、そのプレゼンテーションに対して相互に質問することで理解を深める。講義内容は、建築のどの専門分野に就いても実社会で必要とされ地球環境保全、新エネルギー利用等の今日的なテーマを含んでいる。						
Rubric						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
知識	建築環境工学に関する基礎知識を習得し、具体例をあげて説明できる。		建築環境工学に関する基礎知識を説明できる。		建築環境工学に関する基礎知識を説明できない。	
プレゼンテーション能力	建築環境工学の知識についてクラスメイトが理解できるプレゼンテーションが的確にできる。		建築環境工学の知識についてクラスメイトが理解できるプレゼンテーションができる。		建築環境工学の知識についてクラスメイトが理解できるプレゼンテーションができない。	
質問力	クラスメイトのプレゼンテーションについての的確な質疑ができる。		クラスメイトのプレゼンテーションについて質疑できる。		クラスメイトのプレゼンテーションについて質疑できない。	
Assigned Department Objectives						
学習・教育到達度目標 (A) 学習・教育到達度目標 (C) 学習・教育到達度目標 (D)						
Teaching Method						
Outline	快適性と省エネルギーの両立をどのように達成するか、その建築学的手法を理解し、定常状態での予測計算が出来る。					
Style	第1～7週:光環境及び音環境の概要に関して必要な基礎知識を得る。 第8～14週は 第1～7週に学んだ内容の中からそれぞれの学生が興味を持ったテーマを選び、そのテーマについて5分間のプレゼンテーションと3分間の学生からの質疑を行う。題材が重ならないように7週目に調整を行う。					
Notice	プレゼンテーションでは自分が調べた内容を伝える方法を工夫し、聴衆は質問をすることで相互の理解を深める。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課					
Course Plan						
			Theme	Goals		
1st Semester	1st Quarter	1st	建設地と太陽位置、日照時間および日照時間図、日照および日射の調節方法について解説する。	建設地と太陽位置、日照時間および日照時間図、日照および日射の調節方法について説明できる。		
		2nd	日照と日射の使い分け、紫外線、赤外線、可視光線の効果の違いについて解説する。	日照と日射の使い分け、紫外線、赤外線、可視光線の効果の違いについて説明できる。		
		3rd	視覚と光の関係、明視、グレアの現象、表色系、彩計画について解説する。	視覚と光の関係、明視、グレアの現象、表色系、彩計画について説明できる。		
		4th	採光および採光計画の解説、人工照明、照明計画および照度の計算をする。 照度計を用いて室内の照度を測定し均斉度を求める。	採光および採光計画の解説、人工照明、照明計画および照度の計算できる。照度計を用いて実験ができる。		
		5th	音の単位、聴覚の仕組み、音心理の三大特性、大きさとうるささ、音の伝搬、減衰、回折について解説する。	音の単位、聴覚の仕組み、音心理の三大特性、大きさとうるささ、音の伝搬、減衰、回折について説明できる。		
		6th	吸音と遮音、残響、遮音材料の仕組み、音響計画について解説する。	吸音と遮音、残響、遮音材料の仕組み、音響計画について説明できる。		
		7th	残響時間の計算をする。 各自が調べる課題の調整と決定。9週以降の授業の進め方と注意点の説明。	残響時間の計算できる。		
		8th	1週からの7週に学んだ範囲の中からテーマの5分間プレゼンテーション、3分間質疑。未解答の質問に対しては翌週に解答する。	1週からの7週に学んだ範囲の中からテーマの5分間プレゼンテーション、3分間質疑ができる。		
	2nd Quarter	9th	1週からの7週に学んだ範囲の中からテーマの5分間プレゼンテーション、3分間質疑。未解答の質問に対しては翌週に解答する。	1週からの7週に学んだ範囲の中からテーマの5分間プレゼンテーション、3分間質疑ができる。		
		10th	1週からの7週に学んだ範囲の中からテーマの5分間プレゼンテーション、3分間質疑。未解答の質問に対しては翌週に解答する。	1週からの7週に学んだ範囲の中からテーマの5分間プレゼンテーション、3分間質疑ができる。		
		11th	1週からの7週に学んだ範囲の中からテーマの5分間プレゼンテーション、3分間質疑。未解答の質問に対しては翌週に解答する。	1週からの7週に学んだ範囲の中からテーマの5分間プレゼンテーション、3分間質疑ができる。		
		12th	1週からの7週に学んだ範囲の中からテーマの5分間プレゼンテーション、3分間質疑。未解答の質問に対しては翌週に解答する。	1週からの7週に学んだ範囲の中からテーマの5分間プレゼンテーション、3分間質疑ができる。		
		13th	1週からの7週に学んだ範囲の中からテーマの5分間プレゼンテーション、3分間質疑。未解答の質問に対しては翌週に解答する。	1週からの7週に学んだ範囲の中からテーマの5分間プレゼンテーション、3分間質疑ができる。		
		14th	1週からの7週に学んだ範囲の中からテーマの5分間プレゼンテーション、3分間質疑。未解答の質問に対しては翌週に解答する。	1週からの7週に学んだ範囲の中からテーマの5分間プレゼンテーション、3分間質疑ができる。		

		15th	1週からの7週に学んだ範囲の中からテーマの5分間プレゼンテーション、3分間質疑。未解答の質問に対しては翌週に解答する。			1週からの7週に学んだ範囲の中からテーマの5分間プレゼンテーション、3分間質疑ができる。	
		16th	期末試験				
Evaluation Method and Weight (%)							
	試験	発表	相互評価	質疑回数	ポートフォリオ	その他	Total
Subtotal	70	20	0	10	0	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	0	0	70
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	20	0	10	0	0	30

Akashi College		Year	2018		Course Title	建築ゼミナール
Course Information						
Course Code	0086			Course Category	Specialized / Compulsory	
Class Format	Seminar			Credits	School Credit: 1	
Department	Architecture			Student Grade	4th	
Term	Second Semester			Classes per Week	2	
Textbook and/or Teaching Materials	課題に応じて指導担当教員と相談しながら, 参考文献や資料を活用する.					
Instructor	All faculty of the department					
Course Objectives						
(1) 各分野に関する事項について, 教員の指導のもとに自主的・継続的に調査研究できる能力を養う						
(2) 教員との討議, 発表などを通して適切なコミュニケーション能力を養う						
Rubric						
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1		教員の指導のもとに自主的・継続的な調査研究が十分にできる		教員の指導のもとに自主的・継続的な調査研究ができる		教員の指導のもとに自主的・継続的な調査研究ができない
評価項目2		教員との討議や発表が十分にできる		教員との討議や発表ができる		教員との討議や発表ができない
Assigned Department Objectives						
学習・教育到達度目標 (D) 学習・教育到達度目標 (E)						
Teaching Method						
Outline	配属された指導教員の下で, 各専門分野の課題について文献講読や調査研究などを行い, 研究課題への基本的な取り組み方を学ぶ.					
Style	配属された指導教員の下で, 各専門分野の課題について文献講読や調査研究などを行い, 研究課題への基本的な取り組み方を学ぶ.					
Notice	指導教員の助言・指導を定期的に受けながら, 与えられた課題に対して, 自主的かつ積極的に取り組み, 自分自身で考えること. 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/4以上の欠課					
Course Plan						
			Theme	Goals		
2nd Semester r	3rd Quarter	1st	受講ガイダンス 受講に際しての, 注意と課題のガイダンスを行う	ゼミナールの進め方について理解する		
		2nd	研究室への配属, 課題の決定 配属された指導教員の下で, 課題の決定	配属された指導教員の下で, 課題を決定する		
		3rd	グループ別ゼミナール 配属された指導教員の下で, ゼミナールを行う	配属された指導教員の下で, ゼミナールを行う		
		4th	グループ別ゼミナール 配属された指導教員の下で, ゼミナールを行う	配属された指導教員の下で, ゼミナールを行う		
		5th	グループ別ゼミナール 配属された指導教員の下で, ゼミナールを行う	配属された指導教員の下で, ゼミナールを行う		
		6th	グループ別ゼミナール 配属された指導教員の下で, ゼミナールを行う	配属された指導教員の下で, ゼミナールを行う		
		7th	グループ別ゼミナール 配属された指導教員の下で, ゼミナールを行う	配属された指導教員の下で, ゼミナールを行う		
		8th	グループ別ゼミナール 配属された指導教員の下で, ゼミナールを行う	配属された指導教員の下で, ゼミナールを行う		
	4th Quarter	9th	グループ別ゼミナール 配属された指導教員の下で, ゼミナールを行う	配属された指導教員の下で, ゼミナールを行う		
		10th	グループ別ゼミナール 配属された指導教員の下で, ゼミナールを行う	配属された指導教員の下で, ゼミナールを行う		
		11th	グループ別ゼミナール 配属された指導教員の下で, ゼミナールを行う	配属された指導教員の下で, ゼミナールを行う		
		12th	グループ別ゼミナール 配属された指導教員の下で, ゼミナールを行う	配属された指導教員の下で, ゼミナールを行う		
		13th	グループ別ゼミナール 配属された指導教員の下で, ゼミナールを行う	配属された指導教員の下で, ゼミナールを行う		
		14th	課題研究発表用のポスター作成 これまでの研究の成果をまとめ, 発表用のポスターを作成する.	これまでの研究成果をポスター 1 枚にまとめる		
		15th	課題研究の発表 課題研究の成果をグループ別にポスターで発表する.	ポスターを用いて, わかりやすく発表を行う		
		16th	期末試験実施せず			
Evaluation Method and Weight (%)						
	取り組み状況			発表	Total	
Subtotal	70			30	100	
基礎的能力	0			0	0	
専門的能力	70			0	70	
分野横断的能力	0			30	30	

Akashi College		Year	2018		Course Title	建築史Ⅱ
Course Information						
Course Code	0087			Course Category	Specialized / Elective	
Class Format	Lecture			Credits	School Credit: 1	
Department	Architecture			Student Grade	4th	
Term	First Semester			Classes per Week	2	
Textbook and/or Teaching Materials	Michael Fazio 他「A World History of Architecture」 Laurence King Publishing 参考図書：陣内 秀信他著「図説西洋建築史」彰国社、日本建築学会「西洋建築史図集」彰国社					
Instructor	HIGASHINO Adriana P.					
Course Objectives						
1)講義では西洋史上の建築理念と造形に限定するが、それを通して世界の建築が多様な理念のもとで制作されてきたことを理解する。 2)歴史的には建築制作とは創造主の世界の制作を手助けすることと考えられてきた。そこに制作一般の倫理を読み取ることで、現代社会における制作の意義を理解する。 3)近代技術以前の自然材を加工し建設してきた技術を学び、現在の構造技術との対比のなかで、その限界性と未来への可能性を理解する。 建築史2では西洋建築史について学ぶだけではなく、異文化を実感し、留学した気持ちで講義を楽しむ。復習教材としてスライドはネットでも確認できる						
Rubric						
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
西洋の建築様式古代の特徴が説明できる。		良くてできる		できる		できない
西洋の建築様式中世の特徴が説明できる。		良くてできる		できる		できない
西洋の建築様式近世の特徴が説明できる。		良くてできる		できる		できない
Assigned Department Objectives						
学習・教育到達度目標 (B) 学習・教育到達度目標 (C) 学習・教育到達度目標 (H)						
Teaching Method						
Outline		建築史2では古代から近世までの西洋建築について講義する。講義の特色は豊富な映像教材とバイリンガル(英/日)の解説で、できるだけビジュアルに西洋建築のイメージを掴んでもらう。また理念を表現する造形とそれを成立させる技術も合わせて講義する。映像が中心のため英語力が特別に高くなくても良い。単語と映像を直接的に結ぶ方法で、建築史の専門用語を身につけてください。				
Style						
Notice		2学年で修得した日本建築史を念頭において、西洋建築を理解してほしい。作品を知ることが大切。講義では作品の紹介は限られるので、図書館の西洋建築史関係の書籍を利用して欲しい。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/4以上の欠課				
Course Plan						
			Theme		Goals	
1st Semester	1st Quarter	1st	Pre-historic and Ancient Architecture 前史・古代文明の建築:前史時代古代メソポタミア・エジプトの宗教と建築。		古代（例えば、エジプト、オリエント、エーゲ海、ギリシャ、ローマなど）の特徴について説明できる。	
		2nd	Architecture of Ancient Greece 1 古代ギリシアの建築と造形理念		古代（例えば、エジプト、オリエント、エーゲ海、ギリシャ、ローマなど）の特徴について説明できる。	
		3rd	Architecture of Ancient Greece 2 ギリシャ神殿建築の変遷と古典期の神殿		古代（例えば、エジプト、オリエント、エーゲ海、ギリシャ、ローマなど）の特徴について説明できる。	
		4th	Ancient Roman Architecture 古代ローマの建築:大空間の建設、植民都市の形態の意味と住居、フォーラム、闘技場、パシリカ、劇場など都市施設		古代（例えば、エジプト、オリエント、エーゲ海、ギリシャ、ローマなど）の特徴について説明できる。	
		5th	Roman Houses, Domus, Insula and Villa and cities 古代ローマの住居: 各階級の住居とそれぞれの平面構成、意匠 とローマの都市計画、施設、ローマ人の生活スタイル		古代（例えば、エジプト、オリエント、エーゲ海、ギリシャ、ローマなど）の特徴について説明できる。	
		6th	Early Christian and Byzantine Architecture 初期キリスト教建築とビザンチン建築の理念と造形:バジリカ形式教会の成立、ペンデンティブドーム、ハギア・ソフィア大会堂		中世（例えば、ビザンチン、イスラム、ロマネスク、ゴシックなど）の特徴について説明できる。	
		7th	Islam Architecture イスラム建築の理念と造形: モスクと宮殿の構成、グラナダの大モスクとアルハンブラ宮殿		中世（例えば、ビザンチン、イスラム、ロマネスク、ゴシックなど）の特徴について説明できる。	
		8th	レポート提出：西洋建築史の様式を調べる			
	2nd Quarter	9th	Carolingian Renaissance and Romanesque Architecture ローマ帝国滅後のシャルレマグヌスによる文化・教育改革と修道院建築の誕生。ロマネスクの語義、ヴォールト構造の改良		中世（例えば、ビザンチン、イスラム、ロマネスク、ゴシックなど）の特徴について説明できる。	
		10th	The Gothic Experiment :“The French Style” フランス・ゴシック建築の技術と造形: ゴシック教会堂の社会的役割、様式、構造の仕組み、光の象徴性と高さへの志向		中世（例えば、ビザンチン、イスラム、ロマネスク、ゴシックなど）の特徴について説明できる。	
		11th	The Gothic Experiment: England, Germany, Italy イギリス、ドイツとイタリアのゴシック建築の技術と造形		中世（例えば、ビザンチン、イスラム、ロマネスク、ゴシックなど）の特徴について説明できる。	

		12th	Early Renaissance イタリア初期ルネサンス: 建築家の誕生、ブルネルレスキとフィレンツェ大会堂ドームの技術、アルベルティの建築造形論	近世（例えば、ルネサンス、マニエリスム、バロック、ロココなど）の特徴について説明できる。
		13th	High Renaissance: The Grandeur of Rome イタリア盛期ルネサンスとマニエリスム: プラマンテのテンピエット、ミケランジェロの非古典的な意匠と独創性	近世（例えば、ルネサンス、マニエリスム、バロック、ロココなど）の特徴について説明できる。
		14th	Baroque: Harmony and Spectacle バロク建築: サン・カルロ教会堂の造形、サン・ピエトロ大寺の建設過程、ローマ・カソリックと絶対王政の建築	近世（例えば、ルネサンス、マニエリスム、バロック、ロココなど）の特徴について説明できる。
		15th	Rococo: The Flowering of Late Baroque バロク建築; 16世紀から18世紀のフランス、ドイツ、スペインへの広がり と作品紹介	近世（例えば、ルネサンス、マニエリスム、バロック、ロココなど）の特徴について説明できる。
		16th	西洋建築史年表提出	

Evaluation Method and Weight (%)

	レポート1	レポート2	shortTest				Total
Subtotal	30	50	20	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	30	50	20	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

Akashi College		Year	2018		Course Title	建築インターンシップ
Course Information						
Course Code	0088			Course Category	Specialized / Elective	
Class Format	Practical training			Credits	School Credit: 2	
Department	Architecture			Student Grade	4th	
Term	Year-round			Classes per Week	2	
Textbook and/or Teaching Materials	なし					
Instructor	All faculty of the department					
Course Objectives						
主として建築関連の一般企業または官公庁、NPOなどでの技術体験を通じて、実践的技術感覚を会得すること、社会の中での技術者としてのあり方を学ぶ。そして、技術体験で得た成果を学習に活かすことが本科目の狙いである。目標は次の2点である。 1) 実習先の企業等で協動的に活動し、実際の技術活動の一部を体験すること 2) 体験的に学んだ事柄を視聴覚教材などを用いて、効果的に報告出来ること						
Rubric						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	実習先の企業等で技術活動の一部を協動的に行うことができる		実習先の企業等で技術活動の一部を行うことができる		実習先の企業等で技術活動の一部を行うことができない	
評価項目2	体験的に学んだ事柄を視聴覚教材などを用いて、効果的に報告出来ること		体験的に学んだ事柄を視聴覚教材などを用いて報告出来ること		体験的に学んだ事柄を視聴覚教材などを用いて報告出来ない	
Assigned Department Objectives						
学習・教育到達度目標 (E) 学習・教育到達度目標 (G)						
Teaching Method						
Outline	主として建築関連の一般企業または官公庁、大学、NPOなどでの技術体験を通じて、社会の中での技術者としてのあり方を学ぶ。また、体験で得た成果を学習に活かすことが本科目の狙いである。本科目の学習・教育目標は次の3点である。(1) 実習先の企業等での活動を体験すること(2) 配属された職場で協調して活動できること(3) 体験的に学んだ事柄をスライドなどを用いて、効果的に報告出来ること					
Style	建築関連の一般企業または官公庁、大学、NPOなどに赴き、技術体験をする。体験的に学んだことをスライドなどを用いて、報告する。					
Notice	建築インターンシップ要領を熟読し、4年生担任と緊密に連絡を取り合うこと。期間中は、積極的に技術等の習得に努めるとともに、服装、言葉使い等、建築インターンシップ生に相応しいものであること。実習は実働10日以上、及び80時間以上とする。					
Course Plan						
			Theme	Goals		
1st Semester	1st Quarter	1st	ガイダンス(履修上の注意・インターンシップ先でのマナーなどの注意点)	インターンシップの進め方について理解する		
		2nd	建築関連の一般企業または官公庁、大学、NPOなどでの技術体験	実習先の企業等で実習をおこなう		
		3rd	建築関連の一般企業または官公庁、大学、NPOなどでの技術体験	実習先の企業等で実習をおこなう		
		4th	建築関連の一般企業または官公庁、大学、NPOなどでの技術体験	実習先の企業等で実習をおこなう		
		5th	建築関連の一般企業または官公庁、大学、NPOなどでの技術体験	実習先の企業等で実習をおこなう		
		6th	建築関連の一般企業または官公庁、大学、NPOなどでの技術体験	実習先の企業等で実習をおこなう		
		7th	建築関連の一般企業または官公庁、大学、NPOなどでの技術体験	実習先の企業等で実習をおこなう		
		8th	建築関連の一般企業または官公庁、大学、NPOなどでの技術体験	実習先の企業等で実習をおこなう		
	2nd Quarter	9th	建築関連の一般企業または官公庁、大学、NPOなどでの技術体験	実習先の企業等で実習をおこなう		
		10th	建築関連の一般企業または官公庁、大学、NPOなどでの技術体験	実習先の企業等で実習をおこなう		
		11th	建築関連の一般企業または官公庁、大学、NPOなどでの技術体験	実習先の企業等で実習をおこなう		
		12th	建築関連の一般企業または官公庁、大学、NPOなどでの技術体験	実習先の企業等で実習をおこなう		
		13th	建築関連の一般企業または官公庁、大学、NPOなどでの技術体験	実習先の企業等で実習をおこなう		
		14th	建築関連の一般企業または官公庁、大学、NPOなどでの技術体験	実習先の企業等で実習をおこなう		
		15th	建築関連の一般企業または官公庁、大学、NPOなどでの技術体験	実習先の企業等で実習をおこなう		
		16th	期末試験実施せず			
2nd Semester	3rd Quarter	1st	建築関連の一般企業または官公庁、大学、NPOなどでの技術体験	実習先の企業等で実習をおこなう		
		2nd	建築関連の一般企業または官公庁、大学、NPOなどでの技術体験	実習先の企業等で実習をおこなう		

		3rd	建築関連の一般企業または官公庁、大学、NPOなどでの技術体験	実習先の企業等で実習をおこなう
		4th	建築関連の一般企業または官公庁、大学、NPOなどでの技術体験	実習先の企業等で実習をおこなう
		5th	建築関連の一般企業または官公庁、大学、NPOなどでの技術体験	実習先の企業等で実習をおこなう
		6th	建築関連の一般企業または官公庁、大学、NPOなどでの技術体験	実習先の企業等で実習をおこなう
		7th	建築関連の一般企業または官公庁、大学、NPOなどでの技術体験	実習先の企業等で実習をおこなう
		8th	建築関連の一般企業または官公庁、大学、NPOなどでの技術体験	実習先の企業等で実習をおこなう
	4th Quarter	9th	建築関連の一般企業または官公庁、大学、NPOなどでの技術体験	実習先の企業等で実習をおこなう
		10th	建築関連の一般企業または官公庁、大学、NPOなどでの技術体験	実習先の企業等で実習をおこなう
		11th	建築関連の一般企業または官公庁、大学、NPOなどでの技術体験	実習先の企業等で実習をおこなう
		12th	建築関連の一般企業または官公庁、大学、NPOなどでの技術体験	実習先の企業等で実習をおこなう
		13th	建築関連の一般企業または官公庁、大学、NPOなどでの技術体験	実習先の企業等で実習をおこなう
		14th	建築インターンシップ報告会の準備	建築インターンシップ報告会のためのスライドを作成する
		15th	建築インターンシップ報告会（後期の適当な時期に行う）	建築インターンシップ報告を行う
		16th	期末試験実施せず	

Evaluation Method and Weight (%)

	報告書・日誌・感想文	証明書	報告会	Total
Subtotal	30	30	40	100
基礎的能力	30	0	0	30
専門的能力	0	30	0	30
分野横断的能力	0	0	40	40

Akashi College		Year	2019		Course Title	English V	
Course Information							
Course Code		0089		Course Category		General / Compulsory	
Class Format		Lecture		Credits		Academic Credit: 2	
Department		Architecture		Student Grade		5th	
Term		First Semester		Classes per Week		2	
Textbook and/or Teaching Materials		身近な科学の世界 Science Explorer (Macmillan Languagehouse), Data Base4500(桐原書店) , Next Stage(桐原書店)					
Instructor		MATSUDA Yasutaka					
Course Objectives							
(1)英語の内容を読み取り、英文を書く練習を通して英文読解力や作文力をつけるとともに必要な語彙力をつける。 (2) 音声教材を用いるなどしてヒアリング力や英語運用能力の向上をはかる。 (3)現代社会に関する様々な題材を扱い、技術者として必要な国際性など、幅広い教養を身につける。							
Rubric							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	英語の内容を読み取り、英文を書く練習を通して英文読解力や作文力をつけるとともに必要な語彙力を十分につけることができる。		英語の内容を読み取り、英文を書く練習を通して英文読解力や作文力をつけるとともに必要な語彙力をつけることができる。		英語の内容を読み取り、英文を書く練習を通して英文読解力や作文力をつけるとともに必要な語彙力をつけることができない。		
評価項目2	付属の音声教材を用いるなどしてヒアリング力や英語運用能力の向上を十分にはかることができる。		付属の音声教材を用いるなどしてヒアリング力や英語運用能力の向上をはかることができる。		付属の音声教材を用いるなどしてヒアリング力や英語運用能力の向上をはかることができない。		
評価項目3	現代社会に関する様々な題材を扱い、技術者として必要な国際性など、幅広い教養を十分に身につけることができる。		現代社会に関する様々な題材を扱い、技術者として必要な国際性など、幅広い教養を身につけることができる。		現代社会に関する様々な題材を扱い、技術者として必要な国際性など、幅広い教養を身につけることができない。		
Assigned Department Objectives							
学習・教育到達度目標 (A) 学習・教育到達度目標 (B) 学習・教育到達度目標 (E)							
Teaching Method							
Outline		グローバル化時代の技術者として必要な英語力をつけるために、英語の語彙力や読解力を向上させる。また、読解に必要な構文や文法の知識を身につける。					
Style		毎時間、語彙力の確認テストを実施する。英文を読んで、その内容の理解を確認する演習問題を解く。CDを用いてリスニング力をつける。既習事項を参考に英作文の練習をする。適宜、課題を課す。					
Notice		本科目は、授業で保証する学習時間と、予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が、90時間に相当する学習内容である。前もって配布された課題を確実にやってから授業に出ること。日々の自宅学習によって英語力の向上に努めること。理由なき遅刻や欠席で受験できなかった小テストは0点扱いとする。合格の対象としない欠席条件(割合) 1/4以上の欠課					
Course Plan							
			Theme		Goals		
1st Semester	1st Quarter	1st	オリエンテーション, Unit 1		各Unitの英文について理解し、適切に運用することが出来る。		
		2nd	Unit 2		各Unitの英文について理解し、適切に運用することが出来る。		
		3rd	Unit 3		各Unitの英文について理解し、適切に運用することが出来る。		
		4th	Unit 4		各Unitの英文について理解し、適切に運用することが出来る。		
		5th	Unit 5		各Unitの英文について理解し、適切に運用することが出来る。		
		6th	Unit 6		各Unitの英文について理解し、適切に運用することが出来る。		
		7th	Unit 7		各Unitの英文について理解し、適切に運用することが出来る。		
		8th	中間試験				
	2nd Quarter	9th	中間試験の返却, Unit 8		各Unitの英文について理解し、適切に運用することが出来る。		
		10th	Unit 9		各Unitの英文について理解し、適切に運用することが出来る。		
		11th	Unit 10		各Unitの英文について理解し、適切に運用することが出来る。		
		12th	Unit 11		各Unitの英文について理解し、適切に運用することが出来る。		
		13th	Unit 12		各Unitの英文について理解し、適切に運用することが出来る。		
		14th	Unit 13		各Unitの英文について理解し、適切に運用することが出来る。		
		15th	Unit 14		各Unitの英文について理解し、適切に運用することが出来る。		
		16th	期末試験				
Evaluation Method and Weight (%)							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	課題等	Total
Subtotal	60	0	0	10	0	30	100

基礎的能力	60	0	0	10	0	30	100
專門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

Akashi College		Year	2019		Course Title	Introduction to Japanese Language and Communication	
Course Information							
Course Code		0090		Course Category		General / Elective	
Class Format		Lecture		Credits		Academic Credit: 2	
Department		Architecture		Student Grade		5th	
Term		First Semester		Classes per Week		2	
Textbook and/or Teaching Materials		テキストは使用しない。適宜、プリントを配付する。					
Instructor		ZENTOH Masashi					
Course Objectives							
(1) 実用的な文章（手紙・メール）を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。 (2) 報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。 (3) 報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。							
Rubric							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		問い合わせ・依頼の手紙・メールを効果的に作成できる。		文書・メールの、項目・構成・レイアウトを適切に示すことができる。		手紙・メールのレイアウトに難がある。	
評価項目2		PR文書・レジメ・論文の材料選択が適切である。		PR文書・レジメ・論文に材料を示すことができる。		PR文書・レジメ・論文の材料に不足がある。	
評価項目3		提案書・報告書・論文の構成・展開が適切・効果的である。		提案書・報告書・論文に構成・展開が見られる。		提案書・報告書・論文の構成・展開に難がある。	
Assigned Department Objectives							
学習・教育到達度目標 (A) 学習・教育到達度目標 (E)							
Teaching Method							
Outline		エントリーシート・履歴書・レポート・論文など、目的の異なる様々な文章(文書) 表現について、それぞれの特徴や注意点を概説する。各自、材料を事前に準備し、制限時間内で適切に書く練習を行い、明らかになった問題点を克服し、豊かで正しい表現力を獲得することを目的とする。					
Style		履歴書・PR文書・提案書・報告書・論文の基本的な作成方法・例示の講義と、その習熟・理解度を確認する設問に対する解答を授業内・授業外に作成・提出させ、評価する。					
Notice		本科目は、授業で保証する学習時間と、予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が、90時間に相当する学習内容である。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課					
Course Plan							
			Theme		Goals		
1st Semester r	1st Quarter	1st	オリエンテーション 1 授業の概要 2 テーマ・意図・構成・推敲について		文書作成に際して、箇条書き・符号・見出し・数値を用いて、適切にレイアウトできる。		
		2nd	履歴書・エントリーシート 1 データ部の書き方・自己PR部の書き方・材料収集・効果的表現（記号・構成など） 2 テーマ・事例の検討		各人の進路希望に沿った履歴書・エントリーシートを効果的に作成できる。		
		3rd	志望理由書・研究計画書 1 志望理由書について 2 研究計画書について		各人の希望進路に応じた志望理由と研究（キャリア）計画を適切な形式で効果的に作成できる。		
		4th	小論文 1 1 テーマ：地域貢献・インターンシップ・環境 2 材料収集・構成		各テーマに応じ、適切な材料を用いて、論理的・効果的に小論文を作成することができる。		
		5th	小論文 2 1 テーマ：経済・科学技術 2 材料収集・構成		各テーマに応じ、適切な材料を用いて、論理的・効果的に小論文を作成することができる。		
		6th	報告書・レポート 1 1 別記書き 2 図表・レイアウト		別記書きの形式で図表を効果的に使い、レイアウトに優れた報告書・レジメを作成することができる。		
		7th	テーマ別問題点の整理 1 1 内容面の問題点 2 表現面の問題点		テーマ設定・材料選択・表現技術に優れた各種文書の作成ができる。		
		8th	中間試験				
	2nd Quarter	9th	テーマ別問題点の整理 2 1 テーマの背景 2 問題の進展性		テーマ・問題を有効に設定し、論文の序章を適切に作成できる。		
		10th	報告書・レポート 2 1 企画書・提案書 2 プレゼンテーション		企画書・提案書のレジメ・スライドを作成できる。効果的にプレゼンテーションできる。		
		11th	研究テーマと問題設定 1 テーマ・問題の設定 2 自己分析		テーマを適切に設定し、有効な材料を用いて、文書を構成・展開できる。		
		12th	論文 1 1 計画書 2 構成		説得力のある計画書を作成できる。論文全体の構成表を作成できる。		
		13th	論文 2 1 表記上の注意 2 文献表		注記・引用・文献表を適切に書くことができる。		

		14th	論文 3 1 調査・研究・意義 2 中間報告・審査会・質疑応答	研究方法を明瞭に示し、研究成果の見通しを示すことができる。中間発表・卒業研究発表までの明確な計画表を作成できる。
		15th	課題と整理 1 問題点の課題と整理 2 まとめ	自身の研究計画を見直し、適切に改善できる。
		16th	期末試験	

Evaluation Method and Weight (%)							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	Total
Subtotal	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

Akashi College		Year	2019		Course Title	Law
Course Information						
Course Code	0091			Course Category	General / Elective	
Class Format	Lecture			Credits	Academic Credit: 2	
Department	Architecture			Student Grade	5th	
Term	First Semester			Classes per Week	2	
Textbook and/or Teaching Materials	使用しない。毎回配布するレジュメに沿って授業を進める。（参考となる文献リストは初回授業時に紹介する）					
Instructor	MATSUYAMA Saori					
Course Objectives						
本科目は入門的な科目に位置づけられるため、法学の予備知識は不要である。ただし、法学が実社会と密接な関連をもつ学問であることから、日頃から時事問題には常に注意を向ける姿勢が求められる。また、講師はインタラクティブな授業を想定しているため、受講者に積極的な発言を求めることもある。受講生の主体的な学習態度をもとに以下を達成したい。 本科目では、最初に法学の対象、目的、方法論等、法学に関する基本的な知識の習得を目指す。その後、実定法の体系を確認し、憲法、刑法、及び民法の基礎知識を、具体的な事例や重要判例の分析等を通じて習得する。また、国家間の権利義務関係を規律する国際公法についても理解を深める。そして最終的に、現代社会で生じている様々な事件や事象を、法的に考察する能力を身につけることを目標とする。						
Rubric						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	法学の対象、目的、方法論等、法学に関する基本的な知識を熟知している		法学の対象、目的、方法論等、法学に関する基本的な知識を持っている。		法学の対象、目的、方法論等、法学に関する基本的な知識が不十分。	
評価項目2	憲法、刑法、及び民法に関し、具体的な事例や重要判例を含めた十分な知識がある。また国際公法についてもよく理解している。		憲法、刑法、及び民法に関しある程度の基礎知識があり、具体的な事例や重要判例も一応の知識がある。国際公法についても初歩的な理解がある。		憲法、刑法、及び民法の基礎知識が不十分。国際公法についても理解が不十分。	
評価項目3	現代社会で生じている様々な事件や事象を、的確に法的に考察することができる。		現代社会で生じている様々な事件や事象を考える際に、ある程度法的な思考ができる。		現代社会で生じている様々な事件や事象を捉える際、法的な観点からの思考ができない。	
Assigned Department Objectives						
学習・教育到達度目標 (A) 学習・教育到達度目標 (B) 学習・教育到達度目標 (C)						
Teaching Method						
Outline	本科目では、法律学の基本概念及び法的思考を理解し、社会生活における重要なテーマを通じて、社会と法の在り方や問題について考えていくことを目的とする。また、日本における様々な法律について、基本的人権といった重要事項と関連づけて学習を行う。					
Style	配布資料や板書を用いた講義を中心とするが、インタラクティブな授業にするために受講者には積極的な発言を求める。					
Notice	本科目では法律学の基本概念を体系的に解説するが、受講者の理解度を見て各授業のテーマ、取り上げる順番を変更することがある。 本科目は、授業で保証する学習時間と、予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が、90時間に相当する学習内容である。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課					
Course Plan						
			Theme	Goals		
1st Semester	1st Quarter	1st	ガイダンス・法とは何か 法の概念や分類について学習する。	私達の世界が複数の種類の法によって重畳的に構成されていることを理解する。		
		2nd	法の歴史 法の歴史的な発展過程について学習する。	私達の周囲の法はどのように生まれたのかについて理解する。		
		3rd	法の適用・適用 法源や法の構造、解釈手法について学習する。	法には様々な形式のものがあること、また、法の文言の意味は必ずしも一つではなく、解釈の方法によって異なることを理解する。		
		4th	法と道徳 法と道徳の重なりや違いなど、その関係について学習する。	法と道徳の関係について、ディスカッションを通じて学ぶ。		
		5th	法と裁判（民事裁判制度） 民事裁判制度について学習する。	私達が裁判の当事者になった場合に、どのように進行していくのかを理解する。		
		6th	法と裁判（刑事裁判制度） 刑事裁判制度について学習する。	前回に引き続き、私達が裁判の当事者になった場合に、どのように進行していくのかを理解する。		
		7th	憲法入門（憲法の基本原理） 日本国憲法の基本原理（国民主権、基本的人権の尊重、平和主義）について学習する。	憲法は国家の基本法であり、日本のあらゆる法の最上位にある憲法の根幹理念を理解する。		
		8th	レポート作成	レポート課題を課す。		
	2nd Quarter	9th	憲法における諸権利 憲法には様々な人権規定があり、人権規定の全体的構造を学ぶ。	憲法の重要概念である基本的人権について、憲法がどのように保障しているのかを理解する。		
		10th	憲法における人権：自由権 憲法が保障する自由権について学習する。	自由権について、その基礎概念を理解する。		
		11th	憲法における人権：社会権 憲法が保障する社会権について学習する。	社会権について、その基礎概念を理解する。		
		12th	刑法の基本原則 刑法の機能や犯罪の成立要件について学習する。	ある行為がいかにして刑法上の犯罪として法的に構成されるのかを理解する。		
		13th	民法の基本原則 財産法や家族法の基本原則について学習する。	日常生活における私人間の約束は、民法上の契約を構成しうることを理解する。		

		14th	国際社会と法（国際法の基礎） 国家間関係を規律する国際法の基礎的事項について学習する。	法は個人だけに適用されるのではなく、国家にも適用される。国際法の基礎について理解する。
		15th	国際社会と法（武力紛争法） 武力紛争時における適用規範である武力紛争法の基本原則について学習する。	武力紛争（戦争）時には、平時とは異なる法が適用される。武力紛争法の基本について理解する。
		16th	期末試験	期末試験（筆記）を行う。

Evaluation Method and Weight (%)							
	期末試験	課題（小レポート）	相互評価	平常点（授業態度）	ポートフォリオ	その他	Total
Subtotal	70	20	0	10	0	0	100
基礎的能力	70	20	0	10	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

Akashi College		Year	2019		Course Title	Philosophy
Course Information						
Course Code		0092		Course Category	General / Elective	
Class Format		Lecture		Credits	Academic Credit: 2	
Department		Architecture		Student Grade	5th	
Term		First Semester		Classes per Week	2	
Textbook and/or Teaching Materials		シャロン・ケイ、ポール・トムソン著『中学生からの対話する哲学教室』（玉川大学出版部）。その他の資料については、適宜配布する。				
Instructor		MATSUKAWA Eri				
Course Objectives						
・哲学・倫理学の基本的な問題について、哲学者の思想を学ぶ。 ・技術倫理の基本的な問題とその具体的な状況を学ぶ。 ・「理由を述べる」、「定義する」、「前提を明らかにする」などのシンキングスキルを身につけ、暮らしや社会のなかの身近な問題について、哲学的に考察する力を養う。						
Rubric						
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1		哲学・倫理学の基本的な問題について、代表的な哲学者の思想を十分に理解している。		哲学・倫理学の基本的な問題について、代表的な哲学者の思想を概ね理解している。		哲学・倫理学の基本的な問題について、代表的な哲学者の思想を理解していない。
評価項目2		技術倫理について基本的な知識があり、具体的な状況で問題を理解し、自ら発見することができる。		技術倫理について基本的な知識があり、具体的な状況で問題を理解することができる。		技術倫理について基本的な知識が不十分で、具体的な状況で問題を理解することができない。
評価項目3		「理由を述べる」、「定義する」、「前提を明らかにする」などのシンキングスキルを使いこなし、暮らしや社会のなかの問題について、多角的かつ批判的に考察することができる。		「理由を述べる」、「定義する」、「前提を明らかにする」などのシンキングスキルを知っており、暮らしや社会のなかの問題について、複数の視点から考察することができる。		「理由を述べる」、「定義する」、「前提を明らかにする」などのシンキングスキルの習得が不十分で、暮らしや社会のなかの問題について、複数の視点から考察することができない。
Assigned Department Objectives						
学習・教育到達度目標 (A) 学習・教育到達度目標 (B) 学習・教育到達度目標 (C)						
Teaching Method						
Outline		哲学者の思考やシンキングスキル、哲学対話の技法を学びながら、暮らしや社会における身近な問題について、多角的かつ批判的に思考・議論する力の習得を目指す。また、応用編として、PL法や内部告発など技術者が直面する倫理的問題について、実際の事例や法律を参照しながら分析を行う。				
Style		テキストや資料、スライドを用いた講義を中心として授業を進める。 適宜、グループ・ディスカッションも行う。 毎回課題とアンケートを提出してもらい、理解度を測るとともに、質問や要望があれば翌週以降にフィードバックする。				
Notice		本科目は、授業で保証する学習時間と、予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が、90時間に相当する学習内容である。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課				
Course Plan						
			Theme		Goals	
1st Semester r	1st Quarter	1st	哲学とはなにか？		哲学に関する歴史や様々な考え方を知り、哲学の知の特徴を理解する。	
		2nd	哲学・倫理学の問題 1 愛とはなにか		プラトンとモンテーニュの思想を理解し、理由を挙げながら自分の意見を述べる。	
		3rd	哲学・倫理学の問題 2 美は事実か趣味か		ソクラテスとヒュームの思想を理解し、「美」について定義を挙げながら論じる。	
		4th	哲学・倫理学の問題 3 真になりえないものはあるか		デカルトやゼノン、相対主義の思想を理解し、「真」について具体例を挙げて論じる。	
		5th	哲学・倫理学の問題 4 嘘をつくのはいつも悪いことか		カントとJ.S.ミル（功利主義）の思想を理解し、「嘘」について批判的に検討する。	
		6th	哲学・倫理学の問題5 現実を受け入れるべきものか		ゼノンとエピクロスの思想を理解し、現実を受け入れるべきものか哲学的に考察する。	
		7th	哲学対話1 相手の考えを理解する		シンキングスキルを学び、それを使って相手の考えを理解するための質問をする。	
		8th	レポート作成		哲学・倫理学の問題について多角的かつ批判的に考察し論じる。	
	2nd Quarter	9th	哲学・倫理学の問題6 差別とはなにか		「積極的差別是正措置」や「逆差別」について理解し、具体例を挙げて考察する。	
		10th	哲学・倫理学の問題7 政府がなかったらどうになってしまうのか		ホッブズとロックの思想を理解し、「自然状態」と「社会契約」について考察する。	
		11th	哲学・倫理学の問題8 生きる意味とはなにか		トマス・アクィナスとサルトルの思想を理解し、生きる意味とはなにか論じる。	
		12th	技術倫理1 技術倫理とはなにか		技術倫理の意義や特徴を理解し、具体的な事例について哲学的な問いをつくる。	
		13th	技術倫理 2 製造物責任法（PL法）を考える		製造物責任法について理解し、考えるべき哲学的問いはなにか話し合う。	
		14th	技術倫理 3 内部告発を考える		内部告発について理解し、考えるべき哲学的問いを設定し、考察する。	
		15th	哲学対話2 テーマについて話し合う		哲学的な問いについて対話し、互いの思考の奥にある共通点や差異を明らかにする。	

		16th	期末試験		哲学・倫理学の問題について多角的かつ批判的に考察し論じる。		
Evaluation Method and Weight (%)							
	試験	課題と平常点	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	Total
Subtotal	50	50	0	0	0	0	100
基礎的能力	50	50	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

Akashi College		Year	2019		Course Title	Biophysical Chemistry
Course Information						
Course Code	0093			Course Category	General / Elective	
Class Format	Lecture			Credits	School Credit: 1	
Department	Architecture			Student Grade	5th	
Term	Second Semester			Classes per Week	2	
Textbook and/or Teaching Materials	自作プリント					
Instructor	KURAMITSU Rie					
Course Objectives						
(1) 生命体で起こる化学反応について、物理学及び化学の知識に基づいた考察方法を学ぶ。 (2) 生物学・物理学・化学に関する科学的基礎知識がどのように工学的技術として応用されているかを学ぶ。 (3) 各種理論の理解を深めるために、有機物質を主対象とした実験を通して、物理学的及び化学的実験方法の実際を学ぶ。						
Rubric						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	生命体で起こる化学反応について、物理学及び化学に基づいた考察方法を十分に理解できる。		生命体で起こる化学反応について、物理学及び化学に基づいた考察方法を理解できる。		生命体で起こる化学反応について、物理学及び化学に基づいた考察方法を理解できない。	
評価項目2	化学的基礎知識がどのように工学的技術として応用されているかを十分に理解できる。		化学的基礎知識がどのように工学的技術として応用されているかを理解できる。		化学的基礎知識がどのように工学的技術として応用されているかを理解できない。	
評価項目3	有機物質を主対象とした実験を通して、物理学的及び化学的実験方法の実際を十分に理解できる。		有機物質を主対象とした実験を通して、物理学的及び化学的実験方法の実際を理解できる。		有機物質を主対象とした実験を通して、物理学的及び化学的実験方法の実際を理解できない。	
Assigned Department Objectives						
学習・教育到達度目標 (C) 学習・教育到達度目標 (D) 学習・教育到達度目標 (G)						
Teaching Method						
Outline	物理化学は物質の構造・機能（物性）・反応を物理学の手法を用いて解明する化学の一分野であり、その中で生命体で起こる現象を物理化学の問題として取り扱う部門が生物物理化学である。 生命体で起こる化学反応について、この科目では主にエネルギーフロー及び反応速度に着目して、学習する。 また、各種理論の理解を深めるため、実験を多く取り入れる。					
Style	講義を中心に、それに関する実験及び小テストを取り入れ、理解の強化を図る。					
Notice	これまでに学習した科学的基礎科目（数学・生物学・物理学・化学）の知識が、生命体やそれに関連する身近な現象の理解にどのように役立っているのかを意識しながら学習すること。 なお、人数や時間の関係から、実験は授業の日時を振り替えて行うことがある。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課					
Course Plan						
			Theme		Goals	
2nd Semester r	3rd Quarter	1st	生物物理化学を理解するための化学の基礎知識の確認		生物物理化学を理解するための化学の基礎知識の確認をする。	
		2nd	生物物理化学を理解するための物理学の基礎知識の確認		生物物理化学を理解するための物理学の基礎知識の確認をする。	
		3rd	アミノ酸とタンパク質 特性と機能について		アミノ酸とタンパク質の特性と機能について、習得する。	
		4th	酵素 特性と機能について		酵素の特性と機能について、習得する。	
		5th	化学反応速度論 ミカエリス・メンテンの酵素反応速度論		化学反応速度論、特に、酵素反応速度論について、習得する。	
		6th	炭水化物 特性と機能について		炭水化物の特性と機能について、習得する。	
		7th	脂質と生体膜 特性と機能について		脂質と生体膜の特性と機能について、習得する。	
		8th	中間試験 1－7週までの内容の理解についての確認		1－7週までの内容を確認する。	
	4th Quarter	9th	物質の変化とエネルギー 物質の酸化分解について		物質の変化とエネルギー、特に、酸化分解について、習得する。	
		10th	物質の変化とエネルギー 光合成について		物質の変化とエネルギー、特に、光合成について、習得する。	
		11th	核酸 特性と機能について		核酸の特性と機能について、習得する。	
		12th	遺伝情報 遺伝情報の流れについて		遺伝情報の流れについて、習得する。	
		13th	実験 生化学に関する実験を実施する。 内容は学生と協議する。		生化学実験の方法を、習得する。	
		14th	実験 生化学に関する実験を実施する。 内容は学生と協議する。		生化学実験の方法を、習得する。	
		15th	トピックス 本年度のノーベル賞を中心に生物物理化学の動向を知る。		ノーベル賞（生物学、物理学、化学、医学）を中心に、科学界の動向を、習得する。	
		16th	期末試験 実施せず			

Evaluation Method and Weight (%)				
	平常及び定期試験	課題・レポート	実験操作	Total
Subtotal	40	40	20	100
基礎的能力	40	40	20	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

Akashi College		Year	2019		Course Title	Scientific Technology and the Environment	
Course Information							
Course Code		0094		Course Category		General / Elective	
Class Format		Lecture		Credits		School Credit: 1	
Department		Architecture		Student Grade		5th	
Term		Second Semester		Classes per Week		2	
Textbook and/or Teaching Materials		『日本ファイバー興亡史―荒井溪吉と繊維で読み解く技術・経済の歴史―』井上尚之著、大阪公立大学共同出版会					
Instructor		INOUE Naoyuki					
Course Objectives							
(1) 明治から太平洋戦争後の科学技術の発達の歴史を知る。 (2) 科学技術の発達によっていかに環境破壊が起こったかを知る。 (3) 科学技術と環境破壊の関係を知り、科学技術者はいかに活動すべきかを考える。 (4) 授業中にマイクを回し、教科書を読み、意見を述べる。							
Rubric							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		明治から太平洋戦争後の科学技術の発達の歴史を十分に理解している。		明治から太平洋戦争後の科学技術の発達の歴史を理解している。		明治から太平洋戦争後の科学技術の発達の歴史を理解していない。	
評価項目2		科学技術の発達によっていかに環境破壊が起こったかを十分に理解している。		科学技術の発達によっていかに環境破壊が起こったかを理解している。		科学技術の発達によっていかに環境破壊が起こったかを理解していない。	
評価項目3		科学技術と環境破壊の関係に基づいて科学技術者はいかに活動すべきかを的確に考えることができる。		科学技術と環境破壊の関係に基づいて科学技術者はいかに活動すべきかを考えることができる。		科学技術と環境破壊の関係に基づいて科学技術者はいかに活動すべきかを考えることができない。	
評価項目4		授業で議論している教科書の内容に対して的確な意見を述べることができる。		授業で議論している教科書の内容に対して意見を述べることができる。		授業で議論している教科書の内容に対して意見を述べることができない。	
Assigned Department Objectives							
学習・教育到達度目標 (A) 学習・教育到達度目標 (C) 学習・教育到達度目標 (D)							
Teaching Method							
Outline		明治から太平洋戦争後の25年間、日本の主要輸出産業は繊維産業であった。しかし現在、日本の汎用化学繊維生産量は世界の1%にも満たない。日本の繊維産業は総合化学会社に変身し、高付加価値の炭素繊維やアスベスト代替繊維、さらには油水分離フィルター・水質浄化装置・バグフィルターなど環境保全になくてはならない化学物資を生産している。日本の繊維産業の興亡を通して、技術の進歩と経済の歴史を学習する。更に環境問題に産業界がどのように取り組んでいったかを俯瞰すると共に技術者倫理にも言及する。					
Style		学生による発表を含む講義形式で授業を行う。					
Notice		授業中の発表・態度を重視する。 講師はISO14001の審査員であり、この科目ではその経験を活かして環境問題との関係も含めて技術の進歩と経済の歴史について講義する。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課					
Course Plan							
			Theme		Goals		
2nd Semester	3rd Quarter	1st	明治の産業―生糸		繊維の分類、富岡製糸工場の実態、生糸製造過程、第1次大戦後の製糸業の発展等を学ぶ。		
		2nd	日本の産業革命の中心産業―綿紡績 (1)		松方デフレ政策と大阪紡績会社の成功、日清・日露戦争後の繊維産業の躍進、第1次世界大戦景気と金融恐慌、昭和恐慌、経済の回復と重化学工業の発達等を学ぶ。		
		3rd	見学旅行のため、本科目の授業なし。		見学旅行のため、本科目の授業なし。		
		4th	日本の産業革命の中心産業―綿紡績 (2)		綿紡績過程、女工哀史、豊田佐吉は何をしたのか、日本の特許制度の確立等を学ぶ。		
		5th	再生繊維レーヨンの登場 (1)		銅アンモニアレーヨン (キュブラ)、ビスコースレーヨン、秦逸三とは何者か等を学ぶ。		
		6th	再生繊維レーヨンの登場 (2)		レーヨン黄金期、スフ登場等を学ぶ。		
		7th	それはニューヨークタイムズ「合成シルク」の記事から始まった		ナイロンの報道、ナイロン発表、三井物産と東洋レーヨンの関係、カロザースの生涯、デュポン社の歴史、ナイロン発明の実態等を学ぶ。		
		8th	中間試験				
	4th Quarter	9th	ナイロンショック―荒井溪吉始動 (1)		ナイロンショック、財団法人日本合成繊維研究協会設立、財団法人日本合成繊維研究協会の活動、終戦後の日本経済牽引役―ビニロンとナイロン等を学ぶ。		
		10th	ナイロンショック―荒井溪吉始動 (2)		財団法人理化学研究所と財団法人日本合成繊維研究所との相違、ナイロンとビニロンの工業化、アセテート、塩化ビニリデンと塩化ビニルの生産、ポリエステルとアクリル等を学ぶ。		
		11th	太平洋戦争後の荒井溪吉の活躍 (1)		財団法人日本放射線高分子化学研究協会設立、高分子原料開発技術研究組合設立、鉱工業技術研究組合法成立等を学ぶ。		
		12th	太平洋戦争後の荒井溪吉の活躍 (2)		法人格のない高分子原料開発技術研究組合から法人格のある高分子原料技術研究組合へ、時代は石炭から石油へ、石油からの合成繊維の工程、技術研究組合の隆盛等を学ぶ。		

		13th	太平洋戦争後の環境問題とその解決	4大公害裁判など日本の産業発展に伴う環境問題発生、公害対策基本法制定と環境庁設置、環境基本法、循環型社会形成推進基本法等について学ぶ。
		14th	化学繊維と環境	化学繊維と環境保全、化学繊維製品のリサイクル、ペットボトルのポリエステル繊維へのリサイクル等を学ぶ。
		15th	環境破壊と技術者倫理	人類を幸福にするはずの技術の進歩が逆に人類に不幸を与えた典型が環境破壊である。講師はISO14001の審査員でもあり、これらをもとに技術者倫理はいかにあるべきかを考える。
		16th	期末試験	

Evaluation Method and Weight (%)				
	発表・態度・授業への積極的参加	レポート	定期試験	Total
Subtotal	40	10	50	100
基礎的能力	40	10	50	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0

Akashi College		Year	2019		Course Title	Sports Science I			
Course Information									
Course Code		0095		Course Category		General / Elective			
Class Format		Skill		Credits		School Credit: 1			
Department		Architecture		Student Grade		5th			
Term		First Semester		Classes per Week		2			
Textbook and/or Teaching Materials		新版保健体育概論(近畿地区高専体育研究会編:晃洋書房)							
Instructor		GOTOH Takayuki,MAEDA Tadanori							
Course Objectives									
・授業に参加して自身の健康増進、体力向上に努める。また、ある程度の自己管理能力がある。 ・安全にスポーツを行うための行動がとれる。また、チームで協調、共同することの意義を認識し、そのために必要な行動がとれる。									
Rubric									
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安(可)		未到達レベルの目安	
出席・授業態度		主体的に授業に参加して自身の健康増進、体力向上に努める。自己管理能力が高い。		授業に参加して自身の健康増進、体力向上に努める。ある程度自己管理能力がある。		授業への参加や自身の健康増進、体力向上に消極的。自己管理能力が高くない。		授業に参加しない。自身の健康増進、体力向上に努めない。自己管理能力が低い。	
実技		各種目の練習、ゲームに積極的に参加し、競技力が非常に高い。また、ゲーム等に大きな影響力を持つ。		各種目の練習、ゲームに積極的に参加することができる。また、その技術を身に付けている。		各種目の練習、ゲームに参加することができる。		各種目の練習、ゲームに参加しない。	
リーダーシップ		リーダーの役割をよく理解し、チームワーク力を高めることができる。		リーダーの役割を理解して担う、もしくは引き受けることができる。		リーダーの役割を理解しているが、その役割を担うことはない。		リーダーの役割を理解していない。またその役割を担うこともない。	
Assigned Department Objectives									
学習・教育到達度目標 (A) 学習・教育到達度目標 (B)									
Teaching Method									
Outline		スポーツを日常的に取り入れる習慣を身に付けてもらうべく、その楽しさや奥深さをさらに知ってもらいたい。この授業は、主体的、積極的に参加する姿勢を求めている。グループを作り、リーダーが中心となって授業内容の立案、検討、実施をすべて行ってもらう。実施可能な種目は以下の通りである。野球、ソフトボール、バレーボール、卓球、テニス、サッカー、フットサル、バスケットボール、バドミントン							
Style		下級生で覚えたルールやゲームの進め方、習得した基本技術を基にゲームを通してさらにスキルアップしてもらいたい。また、リーダーを中心にチームで協調、共同しながらチームワーク力を高める楽しさも体験してほしい。受講学生が主体的に、安全かつ雰囲気の良い授業となるような取り組みをし、担当教員がそのサポートをするような授業作りをしたいと考えている。							
Notice		・トレーニングウェア、運動靴を着用すること。 ・アクセサリ類、時計、その他不必要な物の着用や持ち込みを禁止する。 ・遅刻は開始20分までとする。20分以後の参加は認めるが欠席扱いとする。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/4以上の欠課							
Course Plan									
			Theme			Goals			
1st Semester r	1st Quarter	1st	ガイダンス、野球、ソフトボール、サッカー、フットサル、テニス、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球			この授業の目的、目標を理解する。希望種目に分かれチームを作り、リーダーを選出する。			
		2nd	野球、ソフトボール、サッカー、フットサル、テニス、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球			リーダーを中心に準備体操、練習、ゲームを行い、授業の振り返りを行うことができる。			
		3rd	野球、ソフトボール、サッカー、フットサル、テニス、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球			リーダーを中心に準備体操、練習、ゲームを行い、授業の振り返りを行うことができる。			
		4th	野球、ソフトボール、サッカー、フットサル、テニス、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球			リーダーを中心に準備体操、練習、ゲームを行い、授業の振り返りを行うことができる。			
		5th	野球、ソフトボール、サッカー、フットサル、テニス、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球			リーダーを中心に準備体操、練習、ゲームを行い、授業の振り返りを行うことができる。			
		6th	野球、ソフトボール、サッカー、フットサル、テニス、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球			リーダーを中心に準備体操、練習、ゲームを行い、授業の振り返りを行うことができる。			
		7th	野球、ソフトボール、サッカー、フットサル、テニス、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球			リーダーを中心に準備体操、練習、ゲームを行い、授業の振り返りを行うことができる。			
		8th	中間試験実施せず						
	2nd Quarter	9th	野球、ソフトボール、サッカー、フットサル、テニス、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球			希望種目に分かれチームを作り、リーダーを選出する。			
		10th	野球、ソフトボール、サッカー、フットサル、テニス、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球			リーダーを中心に準備体操、練習、ゲームを行い、授業の振り返りを行うことができる。			
		11th	野球、ソフトボール、サッカー、フットサル、テニス、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球			リーダーを中心に準備体操、練習、ゲームを行い、授業の振り返りを行うことができる。			

		12th	野球、ソフトボール、サッカー、フットサル、テニス、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球	リーダーを中心に準備体操、練習、ゲームを行い、授業の振り返りを行うことができる。
		13th	野球、ソフトボール、サッカー、フットサル、テニス、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球	リーダーを中心に準備体操、練習、ゲームを行い、授業の振り返りを行うことができる。
		14th	野球、ソフトボール、サッカー、フットサル、テニス、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球	リーダーを中心に準備体操、練習、ゲームを行い、授業の振り返りを行うことができる。
		15th	野球、ソフトボール、サッカー、フットサル、テニス、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球	リーダーを中心に準備体操、練習、ゲームを行い、授業の振り返りを行うことができる。
		16th	期末試験実施せず	

Evaluation Method and Weight (%)

	出席・授業態度	実技	リーダーシップ	Total
Subtotal	75	10	15	100
基礎的能力	75	0	0	75
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	10	15	25

Akashi College		Year	2019		Course Title	Sports Science II	
Course Information							
Course Code	0096			Course Category	General / Elective		
Class Format	Skill			Credits	School Credit: 1		
Department	Architecture			Student Grade	5th		
Term	Second Semester			Classes per Week	2		
Textbook and/or Teaching Materials	新版保健体育概論(近畿地区高専体育研究会編:晃洋書房)						
Instructor	MAEDA Tadanori,KOBAYASHI Yuki						
Course Objectives							
・授業に参加して自身の健康増進、体力向上に努める。また、ある程度の自己管理能力がある。 ・安全にスポーツを行うための行動がとれる。また、チームで協調、共同することの意義を認識し、そのために必要な行動がとれる。							
Rubric							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安(可)		未到達レベルの目安
出席・態度	主体的に授業に参加して自身の健康増進、体力向上に努める。自己管理能力が高い。		授業に参加して自身の健康増進、体力向上に努める。ある程度自己管理能力がある。		授業への参加や自身の健康増進、体力向上に消極的。自己管理能力が高くない。		授業に参加しない。自身の健康増進、体力向上に努めない。自己管理能力が低い。
実技	各種目の練習、ゲームに積極的に参加し、競技力が非常に高い。また、ゲーム等に大きな影響力を持つ。		各種目の練習、ゲームに積極的に参加することができる。また、その技術を身に付けている。		各種目の練習、ゲームに参加することができる。		各種目の練習、ゲームに参加しない。
リーダーシップ	リーダーの役割をよく理解し、チームワーク力を高めることができる。		リーダーの役割を理解して担う、もしくは引き受けることができる。		リーダーの役割を理解しているが、その役割を担うことはない。		リーダーの役割を理解していない。またその役割を担うこともない。
Assigned Department Objectives							
学習・教育到達度目標 (A) 学習・教育到達度目標 (B)							
Teaching Method							
Outline	スポーツを日常的に取り入れる習慣を身に付けてもらうべく、その楽しさや奥深さをさらに知ってもらいたい。この授業は、主体的、積極的に参加する姿勢を求めている。グループを作り、リーダーが中心となって授業内容の立案、検討、実施をすべて行ってもらおう。実施可能な種目は以下の通りである。野球、ソフトボール、サッカー、フットサル、テニス、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球						
Style	下級生で覚えたルールやゲームの進め方、習得した基本技術を基にゲームを通してさらにスキルアップしてもらいたい。また、リーダーを中心にチームで協調、共同しながらチームワーク力を高める楽しさも体験してほしい。受講学生が主体的に、安全かつ雰囲気のよい授業となるような取り組みをし、担当教員がそのサポートをするような授業作りをしたいと考えている。						
Notice	・トレーニングウェア、運動靴を着用すること。 ・アクセサリ類、時計、その他不必要な物の着用や持ち込みを禁止する。 ・遅刻は開始20分までとする。20分以後の参加は認めるが欠席扱いとする。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/4以上の欠課						
Course Plan							
			Theme			Goals	
2nd Semester	3rd Quarter	1st	スポーツ大会練習			スポーツ大会が安全に行えるよう準備、練習をする。	
		2nd	野球、ソフトボール、サッカー、フットサル、テニス、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球			希望種目に分かれチームを作り、リーダーを選出する。	
		3rd	野球、ソフトボール、サッカー、フットサル、テニス、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球			リーダーを中心に準備体操、練習、ゲームを行い、授業の振り返りを行うことができる。	
		4th	野球、ソフトボール、サッカー、フットサル、テニス、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球			リーダーを中心に準備体操、練習、ゲームを行い、授業の振り返りを行うことができる。	
		5th	野球、ソフトボール、サッカー、フットサル、テニス、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球			リーダーを中心に準備体操、練習、ゲームを行い、授業の振り返りを行うことができる。	
		6th	野球、ソフトボール、サッカー、フットサル、テニス、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球			リーダーを中心に準備体操、練習、ゲームを行い、授業の振り返りを行うことができる。	
		7th	野球、ソフトボール、サッカー、フットサル、テニス、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球			リーダーを中心に準備体操、練習、ゲームを行い、授業の振り返りを行うことができる。	
		8th	中間試験実施せず				
	4th Quarter	9th	野球、ソフトボール、サッカー、フットサル、テニス、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球			希望種目に分かれチームを作り、リーダーを選出する。	
		10th	野球、ソフトボール、サッカー、フットサル、テニス、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球			リーダーを中心に準備体操、練習、ゲームを行い、授業の振り返りを行うことができる。	
		11th	野球、ソフトボール、サッカー、フットサル、テニス、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球			リーダーを中心に準備体操、練習、ゲームを行い、授業の振り返りを行うことができる。	
		12th	野球、ソフトボール、サッカー、フットサル、テニス、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球			リーダーを中心に準備体操、練習、ゲームを行い、授業の振り返りを行うことができる。	

		13th	野球、ソフトボール、サッカー、フットサル、テニス、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球	リーダーを中心に準備体操、練習、ゲームを行い、授業の振り返りを行うことができる。
		14th	野球、ソフトボール、サッカー、フットサル、テニス、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球	リーダーを中心に準備体操、練習、ゲームを行い、授業の振り返りを行うことができる。
		15th	野球、ソフトボール、サッカー、フットサル、テニス、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、卓球	リーダーを中心に準備体操、練習、ゲームを行い、授業の振り返りを行うことができる。
		16th	期末試験実施せず	

Evaluation Method and Weight (%)

	出席・授業態度	実技	リーダーシップ	Total
Subtotal	75	10	15	100
基礎的能力	75	0	0	75
分野横断的能力	0	10	15	25

Akashi College		Year	2019		Course Title	T O E I C I	
Course Information							
Course Code		0097		Course Category		General / Elective	
Class Format		その他		Credits		School Credit: 1	
Department		Architecture		Student Grade		5th	
Term		Year-round		Classes per Week		1	
Textbook and/or Teaching Materials		None					
Instructor		MATSUDA Yasutaka,KITAGAWA Chiho					
Course Objectives							
1) The student will foster cross-cultural understanding and cross-cultural adaptability by tackling exam questions that require knowledge of English and the English-speaking cultural background. The student should acquire 430 or more points in the test, what shows that the students English knowledge fulfills the needs of everyday life and allows business communication within a limited range.							
Rubric							
		Ideal Level		Standard Level		Unacceptable Level	
1) cross-cultural understanding and adaptability		The student has fostered cross-cultural understanding and cross-cultural adaptability by tackling exam questions that require knowledge of English and the English-speaking cultural background.		The student has fostered some cross-cultural understanding and cross-cultural adaptability by tackling exam questions that require knowledge of English and the English-speaking cultural background.		The student has not fostered cross-cultural understanding and cross-cultural adaptability by tackling exam questions that require knowledge of English and the English-speaking cultural background.	
2) English knowledge		The students have acquired English knowledge that fulfills the needs of everyday life and allows business communication within a limited range.		The students have acquired some English knowledge that fulfills the needs of everyday life and allows business communication within a limited range.		The students have not acquired English knowledge that fulfills the needs of everyday life and allows business communication within a limited range.	
Assigned Department Objectives							
学習・教育到達度目標 (A) 学習・教育到達度目標 (B) 学習・教育到達度目標 (E)							
Teaching Method							
Outline		The ability to establish a problem and find the appropriate solution to this problem is a skill necessary at KOSEN (higher education institution). A skill required to live through the 21st century. The students that entered KOSEN need to acquire these skills at an early stage. In this course, the students will learn methods of self-learning and autonomously learning, and not "study" as they have learned at junior high school. Also, while cooperating with colleagues, the students will learn the process of problem discovery and resolution.					
Style		The credits are obtained according to tests results, no classes					
Notice		To apply for the credits is necessary the test scores, and the student should apply for the credits during the period stipulated by the students' affairs office. Applications without the test scores or after the application period will not be accepted. The indicator of English communication capability will be measured utilizing TOEIC (Test of English for International Communication), a test developed by the US Test and Development Public Institution (Educational Testing Service), which has the largest scale and know-how in the world. Through this test, the student will aim to improve his or her English language skills, and motivation to learn English. The test score is also useful for the students' careers.					
Course Plan							
			Theme			Goals	
1st Semester	1st Quarter	1st					
		2nd					
		3rd					
		4th					
		5th					
		6th					
		7th					
		8th	No mid-term Exam				
	2nd Quarter	9th					
		10th					
		11th					
		12th					
		13th					
		14th					
		15th					
		16th	No end-term Exam				
2nd Semester	3rd Quarter	1st					
		2nd					
		3rd					
		4th					
		5th					
		6th					
		7th					

	4th Quarter	8th	No mid-term Exam	
		9th		
		10th		
		11th		
		12th		
		13th		
		14th		
		15th		
		16th	No end-term Exam	

Evaluation Method and Weight (%)							
	Examination	Presentation	Mutual Evaluations between students	Behavior	Portfolio	Other	Total
Subtotal	100	0	0	0	0	0	100
Basic Proficiency	100	0	0	0	0	0	100
Specialized Proficiency	0	0	0	0	0	0	0
Cross Area Proficiency	0	0	0	0	0	0	0

Akashi College		Year	2019		Course Title	T O E I C II
Course Information						
Course Code	0098			Course Category	General / Elective	
Class Format	その他			Credits	School Credit: 2	
Department	Architecture			Student Grade	5th	
Term	Year-round			Classes per Week	2	
Textbook and/or Teaching Materials	None					
Instructor	MATSUDA Yasutaka,KITAGAWA Chiho					
Course Objectives						
1) The student will foster cross-cultural understanding and cross-cultural adaptability by tackling exam questions that require knowledge of English and the English-speaking cultural background. The student should acquire 500 or more points in the test, what shows that the students English knowledge fulfills the needs of everyday life and allows business communication within a limited range.						
Rubric						
	Ideal Level		Standard Level		Unacceptable Level	
1) cross-cultural understanding and adaptability	The student has fostered cross-cultural understanding and cross-cultural adaptability by tackling exam questions that require knowledge of English and the English-speaking cultural background.		The student has fostered some cross-cultural understanding and cross-cultural adaptability by tackling exam questions that require knowledge of English and the English-speaking cultural background.		The student has not fostered cross-cultural understanding and cross-cultural adaptability by tackling exam questions that require knowledge of English and the English-speaking cultural background.	
2) English knowledge	The students have acquired English knowledge that fulfills the needs of everyday life and allows business communication within a limited range.		The students have acquired some English knowledge that fulfills the needs of everyday life and allows business communication within a limited range.		The students have not acquired English knowledge that fulfills the needs of everyday life and allows business communication within a limited range.	
Assigned Department Objectives						
学習・教育到達度目標 (A) 学習・教育到達度目標 (B) 学習・教育到達度目標 (E)						
Teaching Method						
Outline	The ability to establish a problem and find the appropriate solution to this problem is a skill necessary at KOSEN (higher education institution). A skill required to live through the 21st century. The students that entered KOSEN need to acquire these skills at an early stage. In this course, the students will learn methods of self-learning and autonomously learning, and not "study" as they have learned at junior high school. Also, while cooperating with colleagues, the students will learn the process of problem discovery and resolution.					
Style	The credits are obtained according to tests results, no classes					
Notice	To apply for the credits is necessary the test scores, and the student should apply for the credits during the period stipulated by the students' affairs office. Applications without the test scores or after the application period will not be accepted. The indicator of English communication capability will be measured utilizing TOEIC (Test of English for International Communication), a test developed by the US Test and Development Public Institution (Educational Testing Service), which has the largest scale and know-how in the world. Through this test, the student will aim to improve his or her English language skills, and motivation to learn English. The test score is also useful for the students' careers.					
Course Plan						
			Theme		Goals	
1st Semester	1st Quarter	1st				
		2nd				
		3rd				
		4th				
		5th				
		6th				
		7th				
		8th	No mid-term Exam			
	2nd Quarter	9th				
		10th				
		11th				
		12th				
		13th				
		14th				
		15th				
		16th	No end-term Exam			
2nd Semester	3rd Quarter	1st				
		2nd				
		3rd				
		4th				
		5th				
		6th				
		7th				

	4th Quarter	8th	No mid-term Exam	
		9th		
		10th		
		11th		
		12th		
		13th		
		14th		
		15th		
		16th	No end-term Exam	

Evaluation Method and Weight (%)							
	Examination	Presentation	Mutual Evaluations between students	Behavior	Portfolio	Other	Total
Subtotal	100	0	0	0	0	0	100
Basic Proficiency	100	0	0	0	0	0	100
Specialized Proficiency	0	0	0	0	0	0	0
Cross Area Proficiency	0	0	0	0	0	0	0

Akashi College		Year	2019		Course Title	T O E I C Ⅲ	
Course Information							
Course Code		0099		Course Category		General / Elective	
Class Format		その他		Credits		School Credit: 3	
Department		Architecture		Student Grade		5th	
Term		Year-round		Classes per Week		3	
Textbook and/or Teaching Materials		なし					
Instructor		MATSUDA Yasutaka,KITAGAWA Chiho					
Course Objectives							
英語圏の文化的背景の知識を必要とされる試験問題に取り組むことで、異文化理解および異文化適応力を養う。 「日常生活のニーズを充足し、限定された範囲内では業務上のコミュニケーションができる」650点以上を取得することをねらいとする。							
Rubric							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		英語圏の文化的背景の知識を必要とされる試験問題に取り組むことで、異文化理解および異文化適応力を十分に養うことができる。		英語圏の文化的背景の知識を必要とされる試験問題に取り組むことで、異文化理解および異文化適応力を養うことができる。		英語圏の文化的背景の知識を必要とされる試験問題に取り組むことで、異文化理解および異文化適応力を養うことができない。	
評価項目2		日常生活のニーズを充足し、限定された範囲内では業務上のコミュニケーションが十分できる。		日常生活のニーズを充足し、限定された範囲内では業務上のコミュニケーションができる。		日常生活のニーズを充足し、限定された範囲内では業務上のコミュニケーションができない。	
Assigned Department Objectives							
学習・教育到達度目標 (A) 学習・教育到達度目標 (B) 学習・教育到達度目標 (E)							
Teaching Method							
Outline		グローバル化の今日、国境を越えて行き交う情報のほとんどが英語を媒介とするため、英語のコミュニケーション能力を養うことは必須である。世界最大の規模とノウハウを持つ米国のテスト開発公共機関(Educational Testing Service) によって開発されたTOEIC(Test of English for International Communication) を、英語のコミュニケーション能力をはかる指標として活用し、学生の英語運用能力向上を目指すと共に、進路にも役立つようモチベーションのひとつとしたい。					
Style		資格単位なので、授業は行わない。					
Notice		単位認定は、原則指定のTOEICIPテストのスコアにて行います。なお、詳細は掲示等で周知しますので、必ず確認してください。 合格の対象としない欠席条件(割合) 条件なし					
Course Plan							
			Theme			Goals	
1st Semester	1st Quarter	1st					
		2nd					
		3rd					
		4th					
		5th					
		6th					
		7th					
		8th					
	2nd Quarter	9th					
		10th					
		11th					
		12th					
		13th					
		14th					
		15th					
		16th	期末試験実施せず				
2nd Semester	3rd Quarter	1st					
		2nd					
		3rd					
		4th					
		5th					
		6th					
		7th					
		8th					
	4th Quarter	9th					
		10th					
		11th					
		12th					
		13th					
		14th					
		15th					

		16th	期末試験実施せず				
Evaluation Method and Weight (%)							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	Total
Subtotal	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

Akashi College		Year	2019	Course Title	Overseas Training Ⅲ
Course Information					
Course Code	0100		Course Category	General / Elective	
Class Format	Practical training		Credits	School Credit: 1	
Department	Architecture		Student Grade	5th	
Term	Year-round		Classes per Week	1	
Textbook and/or Teaching Materials	なし				
Instructor	All faculty of the department				
Course Objectives					
(1)海外における研修への参加を通じて、教養をより高めるための取り組みができる。 (2)異文化の中での研修に参加することで、広い視野を持つことができる。 (3)現地で関わる人々と英語などを用いてコミュニケーションができる。					
Rubric					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	海外における研修への参加を通じて、教養をより高めるための取り組みがよくなる。		海外における研修への参加を通じて、教養をより高めるための取り組みができる。		海外における研修への参加を通じて、教養をより高めるための取り組みができない。
評価項目2	異文化の中での研修に参加することで、広い視野を持つことができる。		異文化の中での研修に参加することで、広い視野を持つことができる。		異文化の中での研修に参加することができない。
評価項目3	現地で関わる人々と英語などを用いてコミュニケーションがよくなる。		現地で関わる人々と英語などを用いてコミュニケーションができる。		現地で関わる人々と英語などを用いてコミュニケーションができない。
Assigned Department Objectives					
学習・教育到達度目標 (A) 学習・教育到達度目標 (B) 学習・教育到達度目標 (E)					
Teaching Method					
Outline	海外における各種の研修体験を通じて、多面的に物事を考える能力やコミュニケーション能力を身に付けることが本科目のねらいである。研修期間は、夏季休業期間などとしてもよい。研修日数は、5日間以上とする。本科目は、海外での研修と、事前指導(マナー教育、研修先の下調べ)、事後の報告会、関係機関に配布する報告書の作成などの自己学習時間の合計が45時間以上に相当する学習内容である。				
Style	事前オリエンテーション, 現地実習, 報告会				
Notice	学級担任又は指導教員と緊密に連絡を取り合うこと。研修期間中は、積極的に現地の人たちと関わり、コミュニケーションをとるように努めるとともに、服装・言葉遣い等、研修生として相応しい態度で取り組むこと。合格の対象としない欠席条件(割合) 条件なし				
Course Plan					
			Theme	Goals	
1st Semester	1st Quarter	1st			
		2nd			
		3rd			
		4th			
		5th			
		6th			
		7th			
		8th			
	2nd Quarter	9th			
		10th			
		11th			
		12th			
		13th			
		14th			
		15th			
		16th	期末試験実施せず		
2nd Semester	3rd Quarter	1st			
		2nd			
		3rd			
		4th			
		5th			
		6th			
		7th			
		8th			
	4th Quarter	9th			
		10th			
		11th			
		12th			
		13th			

		14th					
		15th					
		16th	期末試験実施せず				
Evaluation Method and Weight (%)							
	報告書	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	Total
Subtotal	50	50	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	50	50	0	0	0	0	100

Akashi College		Year	2019		Course Title	Soil and Foundation Mechanics
Course Information						
Course Code	0101			Course Category	Specialized / Compulsory	
Class Format	Lecture			Credits	Academic Credit: 2	
Department	Architecture			Student Grade	5th	
Term	Second Semester			Classes per Week	2	
Textbook and/or Teaching Materials	畑中宗憲、加倉井正昭、鈴木比呂子 共著「新版 建築基礎構造」 東洋書店新社					
Instructor						
Course Objectives						
1. 基礎と地盤の関係、地盤特性や基礎構造の役割を説明できる。 2. 土の組成や地中水との関連性を説明できる。 3. 地盤内応力を説明できる。 4. 基礎形式の種類や変遷を説明できる。 5. 直接基礎の設計概要を説明でき、地盤支持力や沈下量を計算できる。 6. 杭基礎の分類と施工法を理解し、設計概要を説明できる。 7. 擁壁の設計概要を説明できる。						
Rubric						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1		基礎と地盤の関係、地盤特性や基礎構造の役割を十分に説明できる。	基礎と地盤の関係、地盤特性や基礎構造の役割を説明できる。	基礎と地盤の関係、地盤特性や基礎構造の役割を説明できない。		
評価項目2		土の組成や地中水との関連性を十分に説明できる。	土の組成や地中水との関連性を説明できる。	土の組成や地中水との関連性を説明できない。		
評価項目3		地盤内応力を十分に説明できる。	地盤内応力を説明できる。	地盤内応力を説明できない。		
評価項目4		基礎形式の種類や変遷を十分に説明できる。	基礎形式の種類や変遷を説明できる。	基礎形式の種類や変遷を説明できない。		
評価項目5		直接基礎の設計概要を説明でき、地盤支持力や沈下量を十分に計算できる。	直接基礎の設計概要を説明でき、地盤支持力や沈下量を計算できる。	直接基礎の設計概要を説明でき、地盤支持力や沈下量を計算できない。		
評価項目6		杭基礎の分類と施工法を理解し、設計概要を十分に説明できる。	杭基礎の分類と施工法を理解し、設計概要を説明できる。	杭基礎の分類と施工法を理解し、設計概要を説明できない。		
評価項目7		擁壁の設計概要を十分に説明できる。	擁壁の設計概要を説明できる。	擁壁の設計概要を説明できない。		
Assigned Department Objectives						
学習・教育到達度目標 (D) 学習・教育到達度目標 (F) 学習・教育到達度目標 (H)						
Teaching Method						
Outline	建築物の基礎は地盤の上に建てられている。上部構造からの荷重を安全に支持し、地盤に伝達するための重要な構造である。本講義では建物を支える地盤についての基礎的な知識及び直接基礎、杭基礎の設計の基本的な考え方を学習する。なお、この科目は設計事務所にて建築物の構造設計を実施している教員が、その経験を活かし、最新の設計法等について講義形式で授業を行うものである。					
Style	講義形式の座学を中心として進めるが、適宜、演習形式を含めながら授業を進める。					
Notice	本科目は、授業で保障する学習時間と、予習・演習レポート及び試験の復習等に必要な標準的自己学習時間の総計は、90時間に相当する学習内容である。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課					
Course Plan						
			Theme	Goals		
2nd Semester	3rd Quarter	1st	基礎構造と地盤 基礎と地盤の関係、地盤の育成や特性について説明する。 建物荷重の地盤への応力伝達・仕組みを説明する。	基礎と地盤の関係、地盤特性や基礎構造の役割を説明できる。		
		2nd	土の基本的性質と地下水 土の組成、分類や性質を説明する。 地中の水と各種地盤の関連性について説明する。	土の組成や地中水との関連性を説明できる。		
		3rd	地盤内応力ー圧縮・圧密とせん断強さ 有効圧力、間隙水圧と地中応力等について説明する。	地盤内応力を説明できる。		
		4th	地盤内応力ー物理的性質と各試験方法 砂質土や粘性土の内部摩擦角や粘着力について説明する	地盤内応力を説明できる。		
		5th	地盤内応力ー土圧 主動・静止・受動土圧等について説明する	地盤内応力を説明できる。		
		6th	地盤調査・地盤改良 地盤調査の目的と種類を説明する 地盤改良の目的（沈下・液状化等）と種類を説明する。	地盤調査の目的と種類を説明する		
		7th	基礎形式の変遷・演習 日本での伝統的な基礎形式から現代の住宅基礎形式への変遷を説明する。 土・地盤の物理的・力学的性質に関する演習	基礎形式の種類や変遷を説明できる。		
		8th	中間試験 第1～7週の授業内容に関して試験を行う。			
	4th Quarter	9th	直接基礎の設計（1） 直接基礎の設計概要を説明する。	直接基礎の設計概要を説明でき、地盤支持力や沈下量を計算できる。		

		10th	直接基礎の設計（2） 地盤支持力計算について説明する。	直接基礎の設計概要を説明でき、地盤支持力や沈下量を計算できる。
		11th	直接基礎の設計（3） 沈下量について説明する	直接基礎の設計概要を説明でき、地盤支持力や沈下量を計算できる。
		12th	杭基礎の設計（1） 杭の分類と施工法	杭基礎の分類と施工法を理解し、設計概要を説明できる。
		13th	杭基礎の設計（2） 杭設計法の概要を説明する	杭基礎の分類と施工法を理解し、設計概要を説明できる。
		14th	擁壁の設計 擁壁の設計概要を説明する	擁壁の設計概要を説明できる。
		15th	建築基準法における基礎及び地盤の規定・演習 施行令38条及びその他関連告示等を説明する。 直接基礎と杭基礎の設計に関する演習	直接基礎と杭基礎を設計することができる。
		16th	期末試験	

Evaluation Method and Weight (%)

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	課題レポート	Total
Subtotal	50	0	0	0	0	0	50	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	50	0	0	0	0	0	50	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0

Akashi College		Year	2019		Course Title	Building Services and Air Conditioning A	
Course Information							
Course Code	0102			Course Category	Specialized / Compulsory		
Class Format	Lecture			Credits	School Credit: 1		
Department	Architecture			Student Grade	5th		
Term	First Semester			Classes per Week	2		
Textbook and/or Teaching Materials	建築設備 大塚雅之著 市ヶ谷出版社、配布資料						
Instructor	HIRAISHI Toshihiro						
Course Objectives							
授業計画:第1～8週:給排水衛生・給湯・防災の各設備の概要に関して必要な基礎知識を得る。給水給湯システム、衛生器具、排水・通気システムを理解し、基本的な設計能力を養う。 授業計画:第9～15週: 第1～8週に学んだ設備の中からそれぞれの学生が興味を持った設備を選び、その設備について5分間のプレゼンテーションを行う。題材が重ならないように8週目に調整を行う。」 また、2級建築士レベルの模擬問題を解くことで習得知識の確認をする。							
Rubric							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
給排水衛生設備・防災設備・省エネルギーに関する知識	給排水衛生設備・防災設備・省エネルギー設備の種類と目的、建築設備全般について、その種類と役割についての概要を実例をあげて説明できる。			給排水衛生設備・防災設備・省エネルギー設備の種類と目的、建築設備全般について、その種類と役割についての概要を説明できる。		給排水衛生設備・防災設備・省エネルギー設備の種類と目的、建築設備全般について、その種類と役割についての概要を説明できない。	
プレゼンテーション能力	給排水衛生設備・防災設備・省エネルギー設備を調べその特徴、利用方法についてクラスメイトが理解できるプレゼンテーションが的確にできる。			給排水衛生設備・防災設備・省エネルギー設備を調べその特徴、利用方法についてクラスメイトが理解できるプレゼンテーションができる。		給排水衛生設備・防災設備・省エネルギー設備を調べその特徴、利用方法についてクラスメイトが理解できるプレゼンテーションができない。	
質問力	クラスメイトのプレゼンテーションについての的確な質疑ができる。			クラスメイトのプレゼンテーションについて質疑ができる。		クラスメイトのプレゼンテーションについて質疑ができない。	
Assigned Department Objectives							
学習・教育到達度目標 (A) 学習・教育到達度目標 (D)							
Teaching Method							
Outline	本講義では、給排水衛生設備、防災設備、省エネルギーに関する基礎知識を習得し、設計・施工に必要な知識を説明できることを目標とする。講義内容は、建築のどの専門分野に就いても実社会で必要とされ地球環境保全、新エネルギー利用等の今日的なテーマを含んでいる。						
Style	第1～8週:給排水衛生・給湯・防災の各設備の概要に関して必要な基礎知識を得る。給水給湯システム、衛生器具、排水・通気システムを理解し、基本的な設計能力を養う。 第9～15週は 第1～8週に学んだ設備の中からそれぞれの学生が興味を持った設備を選び、その設備について5分間のプレゼンテーションと3分間の学生からの質疑を行う。題材が重ならないように8週目に調整を行う。						
Notice	明石高専建築学科の建築環境工学Ⅰ 建築環境工学Ⅱ あるいは同等の内容の教科を修得していること。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課						
Course Plan							
			Theme		Goals		
1st Semester	1st Quarter	1st	講義：建築設備の種類と目的 建築設備全般について、その種類と役割についての概要を解説する。		建築設備の種類と目的、建築設備全般について、その種類と役割についての概要を理解し説明できる。		
		2nd	給排水・衛生設備の目的と概要 水力学の基礎、地球上での水の循環、給排水・衛生設備の構成と役割、設計時に注意しなければならない基本原則について解説する。		衛生器具について説明できる。 給水方式について説明できる。		
		3rd	給湯システム 各種給湯システムについてその種類と特質(得失)、給湯温度(使用時の適温と給湯適温)について解説する。 最新配管方式としてのサヤ管ヘッダ方式を説明する。		使用水量について把握できる。 給湯方式について説明できる。		
		4th	排水通気システム 排水配管とトラップの役割、トラップの破封防止対策としての通気システムを解説する。通気管の不要な特殊継手排水システムについても説明する。		給排水管の管径の決定方法について知っている。浄化槽について説明できる。		
		5th	衛生器具・浄化槽・ガス設備 代表的な衛生器具について説明。浄化槽についてはその方式と排水基準、法的規制。ガス設備については種類・供給方式・ガス供給安全対策を解説する。		敷地内外の分流式・合流式排水方式について説明できる。		
		6th	消火・防火設備 燃焼の原理と要素と消火方法、消火設備とその適用の為の法的規制について解説する。		消火設備について説明できる。排煙設備について説明できる。 火災報知設備について説明できる。		
		7th	各自が調べる課題の調整と決定。8週以降の授業の進め方と注意点の説明。		各自、プレゼンテーションの目的と質疑の重要性について説明できる。		
		8th	学生による建築設備の5分間プレゼンテーション、3分間質疑。未解答の質問に対しては翌週に解答する。		設備（再生可能エネルギー・給排水の分野）について説明ができる。質問ができる。		
	2nd Quarter	9th	学生による建築設備の5分間プレゼンテーション、3分間質疑。未解答の質問に対しては翌週に解答する。		設備（再生可能エネルギー・給排水の分野）について説明ができる。質問ができる。		
		10th	学生による建築設備の5分間プレゼンテーション、3分間質疑。未解答の質問に対しては翌週に解答する。		設備（再生可能エネルギー・給排水の分野）について説明ができる。質問ができる。		
		11th	学生による建築設備の5分間プレゼンテーション、3分間質疑。未解答の質問に対しては翌週に解答する。		設備（再生可能エネルギー・給排水の分野）について説明ができる。質問ができる。		

		12th	学生による建築設備の5分間プレゼンテーション、3分間質疑。未解答の質問に対しては翌週に解答する。	設備（再生可能エネルギー・給排水の分野）について説明ができる。質問ができる。
		13th	学生による建築設備の5分間プレゼンテーション、3分間質疑。未解答の質問に対しては翌週に解答する。	設備（再生可能エネルギー・給排水の分野）について説明ができる。質問ができる。
		14th	学生による建築設備の5分間プレゼンテーション、3分間質疑。未解答の質問に対しては翌週に解答する。	設備（再生可能エネルギー・給排水の分野）について説明ができる。質問ができる。
		15th	学生による建築設備の5分間プレゼンテーション、3分間質疑。未解答の質問に対しては翌週に解答する。	設備（再生可能エネルギー・給排水の分野）について説明ができる。質問ができる。
		16th	期末試験	習得した知識を確認する。

Evaluation Method and Weight (%)							
	試験	発表	相互評価	質問回数	ポートフォリオ	その他	Total
Subtotal	70	20	0	10	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	0	0	0	0	0	70
分野横断的能力	0	20	0	10	0	0	30

Akashi College		Year	2019		Course Title	Building Services and Air Conditioning B	
Course Information							
Course Code	0103			Course Category	Specialized / Compulsory		
Class Format	Lecture			Credits	School Credit: 1		
Department	Architecture			Student Grade	5th		
Term	Second Semester			Classes per Week	2		
Textbook and/or Teaching Materials	建築設備 大塚雅之著 市ヶ谷出版社、配布資料						
Instructor	HIRAISHI Toshihiro						
Course Objectives							
授業計画:第1～7週:空調設備、電気設備の各設備の概要に関して必要な基礎知識を得る。空調設備、電気設備を理解し、基本的な設計能力を養う。							
授業計画:第8～15週: 第1～7週に学んだ設備の中からそれぞれの学生が興味を持った設備を選び、その設備について5分間のプレゼンテーションを行う。題材が重ならないように7週目に調整を行う。							
Rubric							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
空調設備、電気設備知識	空調設備、電気設備に関する基礎知識を習得し、設計・施工上必要な知識を具体例をあげて説明できる。		空調設備、電気設備に関する基礎知識を習得し、設計・施工上必要な知識を説明できる。		空調設備、電気設備に関する基礎知識を習得し、設計・施工上必要な知識を説明できない。		
プレゼンテーション能力	空調設備、電気設備のその特徴、利用方法についてクラスメイトが理解できるプレゼンテーションが的確にできる。		空調設備、電気設備のその特徴、利用方法についてクラスメイトが理解できるプレゼンテーションができる。		空調設備、電気設備のその特徴、利用方法についてクラスメイトが理解できるプレゼンテーションができない。		
質問力	クラスメイトのプレゼンテーションについての確な質疑ができる。		クラスメイトのプレゼンテーションについて質疑ができる。		クラスメイトのプレゼンテーションについて質疑ができない。		
Assigned Department Objectives							
学習・教育到達度目標 (A) 学習・教育到達度目標 (D)							
Teaching Method							
Outline	本講義では、空気調和設備および電気設備に関する基礎知識を習得し、設計・施工上必要な知識を説明できることを目標とする。講義内容は、建築のどの専門分野に就いても実社会で必要とされ地球環境保全、新エネルギー利用等の今日的なテーマを含んでいる。						
Style	第1～7週:空気調和設備および電気設備の概要に関して必要な基礎知識を得る。空気調和設備および電気設備システムを理解し、基本的な設計能力を養う。 第8～14週は 第1～7週に学んだ設備の中からそれぞれの学生が興味を持った設備を選び、その設備について5分間のプレゼンテーションと3分間の学生からの質疑を行う。題材が重ならないように8週目に調整を行う。						
Notice	明石高専建築学科の建築環境工学Ⅰ,建築環境工学Ⅱあるいは同等の内容の教科を修得していること。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課						
Course Plan							
			Theme		Goals		
2nd Semester r	3rd Quarter	1st	熱負荷計算法、空気線図、空気の状態値について解説する。		熱負荷計算法、空気線図、空気の状態値について説明できる。		
		2nd	空気調和方式について説明し、自然換気と機械換気について解説する。		空気調和方式について説明し、自然換気と機械換気について説明できる。		
		3rd	空気汚染の種類と室内空気環境基準について説明し、必要換気量について計算する。		空気汚染の種類と室内空気環境基準について説明し、必要換気量について計算できる。		
		4th	各種熱源方式について解説する。		各種熱源方式について説明できる。		
		5th	受変電・幹線設備・動力設備について解説する。		受変電・幹線設備・動力設備について説明できる。		
		6th	照明・コンセント設備・情報・通信設備について解説する。		照明・コンセント設備・情報・通信設備について説明できる。		
		7th	各自が調べる課題の調整と決定。8週以降の授業の進め方と注意点の説明。		各自、プレゼンテーションの目的と質疑の重要性について説明できる。		
		8th	学生による建築設備の5分間プレゼンテーション、3分間質疑。未解答の質問に対しては翌週に解答する。		設備（空気調和設備・電気設備の分野）について説明ができる。質問ができる。		
	4th Quarter	9th	学生による建築設備の5分間プレゼンテーション、3分間質疑。未解答の質問に対しては翌週に解答する。		設備（空気調和設備・電気設備の分野）について説明ができる。質問ができる		
		10th	学生による建築設備の5分間プレゼンテーション、3分間質疑。未解答の質問に対しては翌週に解答する。		設備（空気調和設備・電気設備の分野）について説明ができる。質問ができる		
		11th	学生による建築設備の5分間プレゼンテーション、3分間質疑。未解答の質問に対しては翌週に解答する。		設備（空気調和設備・電気設備の分野）について説明ができる。質問ができる		
		12th	学生による建築設備の5分間プレゼンテーション、3分間質疑。未解答の質問に対しては翌週に解答する。		設備（空気調和設備・電気設備の分野）について説明ができる。質問ができる		
		13th	学生による建築設備の5分間プレゼンテーション、3分間質疑。未解答の質問に対しては翌週に解答する。		設備（空気調和設備・電気設備の分野）について説明ができる。質問ができる		
		14th	学生による建築設備の5分間プレゼンテーション、3分間質疑。未解答の質問に対しては翌週に解答する。		設備（空気調和設備・電気設備の分野）について説明ができる。質問ができる		
		15th	学生による建築設備の5分間プレゼンテーション、3分間質疑。未解答の質問に対しては翌週に解答する。		設備（空気調和設備・電気設備の分野）について説明ができる。質問ができる		
		16th	期末試験		習得した知識を確認する。		
Evaluation Method and Weight (%)							
	試験	発表	相互評価	質問回数	ポートフォリオ	その他	Total
Subtotal	70	20	0	10	0	0	100

基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
專門的能力	70	0	0	0	0	0	70
分野横断的能力	0	20	0	10	0	0	30

Akashi College		Year	2019		Course Title	Building Construction and Process A
Course Information						
Course Code		0104		Course Category	Specialized / Compulsory	
Class Format		Lecture		Credits	School Credit: 1	
Department		Architecture		Student Grade	5th	
Term		First Semester		Classes per Week	2	
Textbook and/or Teaching Materials		初学者の建築講座「建築施工」(第3版)、市ヶ谷出版社、中澤明夫、角田誠共著、(「建築工事施工管理指針、上下巻」社団法人建築協会 編集・発行、「ベーシック建築材料」彰国社、野口貴文ほか共著)				
Instructor		NAKAGAWA Hajime,TANIGUCHI Kosei				
Course Objectives						
(1)建築工事に関する契約、法令、品質管理について学習する。 (2)日本の建設産業の現状、建築生産にあたっての管理手法、各工事の知識など基礎的な工学知識を習得すること。						
Rubric						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1		工事の流れ(仮設・準備・基礎・地業・躯体・仕上げ・設備(電気・空調・給排水・衛生)・解体)について適切に説明できる。	工事の流れ(仮設・準備・基礎・地業・躯体・仕上げ・設備(電気・空調・給排水・衛生)・解体)について説明できる。	工事の流れ(仮設・準備・基礎・地業・躯体・仕上げ・設備(電気・空調・給排水・衛生)・解体)について説明できない。		
評価項目2		請負契約(見積り、積算を含む)、瑕疵・保証について適切に説明できる。	請負契約(見積り、積算を含む)、瑕疵・保証について説明できる。	請負契約(見積り、積算を含む)、瑕疵・保証について説明できない。		
評価項目3		仮設、山留、地業工事について適切に説明できる。	仮設、山留、地業工事について説明できる。	仮設、山留、地業工事について説明できない。		
評価項目4		型枠、コンクリート、鉄筋、鉄骨工事の概要及び各要点が適切に説明できる。	型枠、コンクリート、鉄筋、鉄骨工事の概要及び各要点が説明できる。	型枠、コンクリート、鉄筋、鉄骨工事の概要及び各要点が説明できない。		
Assigned Department Objectives						
学習・教育到達度目標 (C) 学習・教育到達度目標 (D) 学習・教育到達度目標 (E)						
Teaching Method						
Outline	日本の建設産業の現状、建築生産にあたって主に構造躯体に関連する仮設工法や各工事の説明を行い、品質を中心とした管理法を修得する。 この科目は企業において、建設現場での設計監理業務(谷口、中川)を経て得た知識を基に、建築生産に関する各工事について講義、演習で行うものである。					
Style	これまで建築計画、構造、材料に関する知識を活かし、建築生産について、教科書、配布プリントを基に講義及び演習を行う。講義は谷口が13週、演習、レポートは中川が2週、担当する。					
Notice	建築は実際に建造されて目標が達成されます。5年間で学んだ基礎知識を元に、構造、材料、計画の集大成として建築生産を学習されたい。本科目は必修科目であるが、欠席超過に対する補充指導は原則、実施しない。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課					
Course Plan						
			Theme	Goals		
1st Semester	1st Quarter	1st	建築総論(1) 建築生産の特徴を考察し、入札、契約、施主、設計者、施工業者、管理者の役割を説明する。建設関連法規などを説明する。建設産業の現状と展望について説明する。	建築生産の特徴を考察し、入札、契約、施主、設計者、施工業者、管理者の役割を説明する。建設関連法規などを説明できる。		
		2nd	建築総論(2) 建設工事における品質、安全、原価、工程管理について説明する。仮設工事の概要、足場の種類、安全設備、機材などを説明する。	建設工事における品質、安全、原価、工程管理について説明でき、また仮設工事の概要、足場の種類、安全設備、機材などを説明できる。		
		3rd	仮設・準備工事 仮設工事の概要、足場の種類、安全設備、機材を説明する。	仮設工事の概要、足場の種類、安全設備、機材を説明できる。		
		4th	土工事・山留工事 根切り、埋め戻し、排水工法、掘削底地盤の安定及び土の性状・特性(N値、土圧)などの概略を説明する。また、山留め壁と山留め支保工の種類と特徴を説明する。	根切り、埋め戻し、排水工法、掘削底地盤の安定及び土の性状・特性(N値、土圧)などの概略を説明する。また、山留め壁と山留め支保工の種類と特徴を説明できる。		
		5th	地業・基礎工事 直接基礎、砂利、砂、割り栗石、捨てコンクリート地業及び杭地業の工法を説明する。また、施工管理のポイント及び計算方法の概略を説明する。レポート課題(1)の配布	直接基礎、砂利、砂、割り栗石、捨てコンクリート地業及び杭地業の工法を説明できる。また、施工管理のポイント及び計算方法の概略を説明できる。		
		6th	鉄筋コンクリート工事(1) 鉄筋コンクリート構造の特徴と材料について、また施工計画や施工管理のポイントを説明する。鉄筋工事の概要と鉄筋の定着、継ぎ手、フック、間隔、被り厚さなどについて説明する。	鉄筋コンクリート構造の特徴と材料について、また施工計画や施工管理のポイントを説明できる。鉄筋工事の概要と鉄筋の定着、継ぎ手、フック、間隔、被り厚さなどについて説明できる。		
		7th	鉄筋コンクリート工事(2) ガス圧接の原理、施工管理のポイント、検査方法やその他の接合方法を説明する。型枠工事の概要と型枠にかかるコンクリートの側圧、型枠の存置期間について説明する。	ガス圧接の原理、施工管理のポイント、検査方法やその他の接合方法を説明できる。型枠工事の概要と型枠にかかるコンクリートの側圧、型枠の存置期間について説明できる。		
		8th	中間試験 第1〜7週の範囲から試験を行う。			

2nd Quarter	9th	鉄筋コンクリート工事(3) コンクリート工事の概要とコンクリートの品質や基準強度について説明する。	コンクリート工事の概要とコンクリートの品質や基準強度について説明できる。
	10th	鉄筋コンクリート工事(4) コンクリートの品質管理や検査について説明する。また、打込み、締固め、養生などを説明し、コンクリート工事の施工計画や施工管理のポイントを説明する。	コンクリートの品質管理や検査について説明する。また、打込み、締固め、養生などを説明し、コンクリート工事の施工計画や施工管理のポイントを説明できる。
	11th	鉄筋コンクリート工事に関するビデオ学習 鉄筋コンクリート工事に関する現場作業ビデオを鑑賞し学習する。	鉄筋コンクリート工事に関する現場作業ビデオを鑑賞し学習する。工事の内容が理解できる。
	12th	鉄骨工事(1) 鉄骨工事の概要について説明する。用語や材料の説明、工作図、加工・組立・溶接作業の流れ、検査等の工場製作と工事現場施工について説明する。	鉄骨工事の概要について説明できる。用語や材料の説明、工作図、加工・組立・溶接作業の流れ、検査等の工場製作と工事現場施工について説明できる。
	13th	鉄骨工事(2) 高力ボルト接合、溶接接合及びその品質管理などについて説明する。耐火被覆や床工事について説明する。工事現場施工における鉄骨工事の施工計画や施工管理のポイントを説明する。	高力ボルト接合、溶接接合及びその品質管理などについて説明する。耐火被覆や床工事について説明できる。工事現場施工における鉄骨工事の施工計画や施工管理のポイントを説明できる。
	14th	鉄骨工事に関するビデオ学習 鉄骨工事に関する現場作業ビデオを鑑賞し学習する。	鉄骨工事に関する現場作業ビデオを鑑賞し学習する。その内容が理解できる。
	15th	演習課題(1) 躯体工事全般に亘る演習及び二級建築士（学科Ⅳ）に関する演習を行う。	演習を通じて、躯体工事全般が理解できる。
	16th	期末試験	

Evaluation Method and Weight (%)

	試験	演習レポート	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	Total
Subtotal	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	30	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

Akashi College		Year	2019		Course Title	Building Construction and Process B	
Course Information							
Course Code	0105			Course Category	Specialized / Compulsory		
Class Format	Lecture			Credits	School Credit: 1		
Department	Architecture			Student Grade	5th		
Term	Second Semester			Classes per Week	2		
Textbook and/or Teaching Materials	初学者の建築講座「建築施工」(第3版)、市ヶ谷出版社、中澤明夫、角田誠共著、(「建築工事施工管理指針、上下巻」社団法人建築協会 編集・発行、「ベーシック建築材料」彰国社、野口貴文ほか共著)						
Instructor	NAKAGAWA Hajime,TANIGUCHI Kosei						
Course Objectives							
(1)建築工事の仕上げに関する、材料の特性、施工法や品質管理について学習する。 (2)日本の建築生産にあたって、主に建築仕上げに関する各工事の基礎的な工学知識を習得すること。 (3)様々な作業を合理的に示す必要のある工程管理については、時系列で示されるネットワーク手法を学習することで工程管理の技術表現を習得する。							
Rubric							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	工程表(ネットワーク、バーチャート)の適切に計算ができる。			工程表(ネットワーク、バーチャート)の計算ができる。		工程表(ネットワーク、バーチャート)の計算ができない。	
評価項目2	防水、屋根工事の内容が十分に理解できる。			防水、屋根工事の内容が理解できる。		防水、屋根工事の内容が理解できない。	
評価項目3	内装、外装工事及び設備工事の内容が十分に理解できる。			内装、外装工事及び設備工事の内容が理解できる。		内装、外装工事及び設備工事の内容が理解できない。	
評価項目4	Hi-RC工事の内容が十分に理解できる。			Hi-RC工事の内容が理解できる。		Hi-RC工事の内容が理解できない。	
Assigned Department Objectives							
学習・教育到達度目標 (C) 学習・教育到達度目標 (D) 学習・教育到達度目標 (E)							
Teaching Method							
Outline	日本の建築生産にあたって、主に建築仕上げに関する各工事の説明を行い、材料の特性および品質確保を中心とした管理法を修得する。工程管理についてはネットワーク手法を習得する。 この科目は企業において、建設現場での設計監理業務(谷口、中川)を経て得た知識を基に、建築生産に関する各工事について講義、演習を行うものである。						
Style	授業を中心に演習、現場見学を実施し理解を深める。講義は谷口が12週、演習・レポートは中川が3週、担当する。						
Notice	建築は実際に建造されて目標が達成されます。5年間で学んだ基礎知識を元に、構造、材料、計画の集大成として建築生産を学習されたい。本科目は必修科目であるが、欠席超過に対する補充指導は原則、実施しない。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課						
Course Plan							
			Theme		Goals		
2nd Semester	3rd Quarter	1st	ネットワーク工程(1) 工程管理、バーチャート工程、ネットワーク工程の相違などを説明する。ネットワーク工程の作り方、日程計算、C.P.M.(クリティカルパス法)などを説明する。		工程管理、バーチャート工程、ネットワーク工程の相違などを説明する。ネットワーク工程の作り方、日程計算、C.P.M.(クリティカルパス法)などを説明できる。		
		2nd	ネットワーク工程(2) 建物のネットワーク工程表の実例を示し、サイクル工程等について説明する。ネットワーク工程の作成と演習を行う。		建物のネットワーク工程表の実例を示し、サイクル工程等について説明する。ネットワーク工程の作成と演習を行い説明できる。		
		3rd	屋根工事、防水工事(1) 屋根、防水工事の種類と概要を説明する。		屋根、防水工事の種類と概要が説明できる。		
		4th	防水工事(2) 屋上アスファルト防水の工種、下地処理、養生などを説明する。施工管理のポイントを説明する。		屋上アスファルト防水の工種、下地処理、養生などを説明し、施工管理のポイントを説明できる。		
		5th	仕上げ工事、左官工事 仕上げ工事全般の考え方と施工管理のポイントを説明する。左官工事の種類を説明し、施工管理のポイントを説明する。		仕上げ工事全般の考え方と施工管理のポイントを説明できる。左官工事の種類を説明し、施工管理のポイントを説明できる。		
		6th	Hi-RC工事 超高層鉄筋コンクリート(Hi-RC)工事のプレキャスト化された構造部材の工場製作から現場建て方に関する工事の概要を説明する。		超高層鉄筋コンクリート(Hi-RC)工事のプレキャスト化された構造部材の工場製作から現場建て方に関する工事の概要を説明できる。		
		7th	演習課題(1) 1～6週までの学習内容について演習及び2級建築士(学科Ⅳ)に関する演習を行う。		1～6週の内容を演習を通じて理解できる。		
		8th	中間試験 第1～7週の範囲から試験を行う。				
	4th Quarter	9th	タイル工事、石工事 タイル工事については材料の特徴、割付け、張付け工法、先付け工法を、石工事については材料の特徴、使用箇所、仕上げ、取り付け工法を説明する。		タイル工事については材料の特徴、割付け、張付け工法、先付け工法を、石工事については材料の特徴、使用箇所、仕上げ、取り付け工法を説明できる。		
		10th	建具、ガラス工事、金属工事 木製建具と金属製建具について説明する。ガラスの種類と特徴について説明する。金属工事の概要を説明する。		木製建具と金属製建具について説明する。ガラスの種類と特徴について説明し、金属工事の概要を説明できる。		
		11th	内装工事 壁・床・天井の下地と仕上げについて説明する。シックハウス問題や施工管理のポイントを説明する。		壁・床・天井の下地と仕上げについて説明できる。シックハウス問題や施工管理のポイントを説明できる。		

		12th	塗装工事 建物内外の塗装工事の概要について説明する。塗料の種類や塗装方法及び施工管理のポイントを説明する。	建物内外の塗装工事の概要について説明できる。塗料の種類や塗装方法及び施工管理のポイントを説明できる。
		13th	設備工事 設備工事の概要について説明する。設備工事の種類や建築工事との関わりについて説明し、合わせて施工管理のポイントを説明する。	設備工事の概要について説明する。設備工事の種類や建築工事との関わりについて説明し、合わせて施工管理のポイントを説明できる。
		14th	演習課題(2) 仕上げ工事全般（9～13週で学習した内容）に関する演習及び2級建築士(学科Ⅳ)に関する演習を行う。	9～13週の内容を演習を通じて理解できる。
		15th	演習課題(3) 建築生産全般に関する演習及び2級建築士(学科Ⅳ)に関する演習を行う。	前期、後期学習した内容を演習を通じて理解できるようにする。
		16th	期末試験	

Evaluation Method and Weight (%)

	試験	演習レポート課題					Total
Subtotal	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	30	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

Akashi College		Year	2019		Course Title	Building Code	
Course Information							
Course Code	0106			Course Category	Specialized / Compulsory		
Class Format	Lecture			Credits	School Credit: 1		
Department	Architecture			Student Grade	5th		
Term	Second Semester			Classes per Week	2		
Textbook and/or Teaching Materials	国土交通省住宅局建築指導課、(財) 建築技術者試験研究会編集:「基本建築関係法令集〔法令編〕」、井上書院日本建築学会:「建築法規用教材」、丸善						
Instructor	UTSUMI Tetsuya						
Course Objectives							
1)建築基準法の体系、法令用語について説明できる。 2)単体規定について説明できる。 3)集団規定について説明できる。 4)確認申請など建築に関する手続きを説明できる。 5)関係法令（建築士法、建設業法、消防法、宅地造成規制法など）について説明できる。							
Rubric							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	建築基準法の体系、法令用語について具体的に説明できる。		建築基準法の体系、法令用語について説明できる。		建築基準法の体系、法令用語について説明できない。		
評価項目2	単体規定について具体的に説明できる。		単体規定について説明できる。		単体規定について説明できない。		
評価項目3	集団規定について具体的に説明できる。		集団規定について説明できる。		集団規定について説明できない。		
評価項目4	確認申請など建築に関する手続きを詳しく説明できる。		確認申請など建築に関する手続きを説明できる。		確認申請など建築に関する手続きを説明できない。		
評価項目5	関係法令（建築士法、建設業法、消防法、宅地造成規制法など）について詳しく説明できる。		関係法令（建築士法、建設業法、消防法、宅地造成規制法など）について説明できる。		関係法令（建築士法、建設業法、消防法、宅地造成規制法など）について説明できない。		
Assigned Department Objectives							
学習・教育到達度目標 (C) 学習・教育到達度目標 (G) 学習・教育到達度目標 (H)							
Teaching Method							
Outline	建築物の設計、工事監理などを行う建築技術者として必要とされる基礎的な建築関連法規に関する知識を修得することを目的とする。建築関係の法令は、多種類にわたり、その表現方法は、多くの事例に適合するように抽象的な記述になっている。また、建築関係の法令は技術法であるために、一般人にはなかなか読解ができない。従って、本講義では法令用語の読み方、用語の定義などの基礎を説明し、その後建築面積の算出方法、建築高さの算出方法、階の算定、単体規定、集団規定などの基本的事項を学習する。内海は、自治体の建築行政、建築指導主事として従事						
Style	建築物の設計、工事監理などを行う建築技術者として必要とされる基礎的な建築関連法規に関する知識を修得する。建築技術者として建築関連法令を遵守することの社会的責任の重要性を理解し、建築関連法規の活用により具体的な建築、都市に関する課題を解決するための基礎的な能力を修得する。						
Notice	テキスト(「基本建築関係法令集」、「建築法規用教材」)をいつも用意すること。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課						
Course Plan							
			Theme		Goals		
2nd Semester	3rd Quarter	1st	建築法規を学ぶための基礎(1)		法令用語の読み方、用語の定義などについて説明できる。		
		2nd	建築法規を学ぶための基礎(2)		面積や高さの算定方法、階の算定などについて説明できる。		
		3rd	単体規定(建築基準法)(1)		一般構造、設備について説明できる。		
		4th	単体規定(建築基準法)(2)		構造強度について説明できる。		
		5th	単体規定(建築基準法)(3)		構造計算による安全の確保について説明できる。		
		6th	単体規定(建築基準法)(4)		建築物の防火・避難について説明できる。		
		7th	単体規定(建築基準法)(5)		建築物の防火・避難について説明できる。		
		8th	中間試験				
	4th Quarter	9th	集団規定(都市計画法・建築基準法)(1)		都市計画のあらまし、用途地域について説明できる。		
		10th	集団規定(都市計画法・建築基準法)(2)		道路と敷地・建築物、建ぺい率について説明できる。		
		11th	集団規定(都市計画法・建築基準法)(3)		容積率、外壁後退、高さの制限について説明できる。		
		12th	集団規定(都市計画法・建築基準法)(4)		斜線制限、日影による高さの制限について説明できる。		
		13th	建築に関する手続きについて		手続きの種類、建築確認、建築許可などについて説明できる。		
		14th	建築士法、建設業法		建築工事の種類と工法、建設業の種類などについて説明できる。		
		15th	消防法、宅地造成等規制法		消防法のあらまし、消防用設備など、宅地造成に関する工事などについて説明できる。		
		16th	期末試験				
Evaluation Method and Weight (%)							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	Total
Subtotal	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	100	0	0	0	0	0	100

分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0
---------	---	---	---	---	---	---	---

Akashi College		Year	2019		Course Title	Graduation Thesis	
Course Information							
Course Code	0107			Course Category	Specialized / Compulsory		
Class Format	Seminar			Credits	School Credit: 7		
Department	Architecture			Student Grade	5th		
Term	Year-round			Classes per Week	前期:4 後期:10		
Textbook and/or Teaching Materials	研究課題に応じて、指導担当教員と相談しながら参考文献や資料を検索し、活用することとする。						
Instructor	All faculty of the department						
Course Objectives							
(1) 学科で学んできた専門分野の多岐にわたる基礎的事項を体系的に捉え、総合化しつつ、構築的に研究を進めてゆく能力、あるいは建築を設計する能力(F、H)。 (2) 教員の指導のもとに自主的にテーマを決定し、文献研究、実験、現地調査、設計などを行う能力(D)。 (3) 教員との討議、中間発表、審査会の発表などを通して適切なコミュニケーション能力を養う(E)。 (4) より専門的な内容に踏み込んだ理論的かつ実践的な考察力と独創性による問題解決能力及びまとめる能力(G)。							
Rubric							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	工学的な課題を論理的・合理的な方法で明確化できる。		工学的な課題を論理的・合理的な方法で明確化できる。		工学的な課題を論理的・合理的な方法で明確化できない。		
評価項目2	課題や要求に対する設計解を提示するための一連のプロセス（課題認識・構想・設計・製作・評価など）を実践できる。		課題や要求に対する設計解を提示するための一連のプロセス（課題認識・構想・設計・製作・評価など）を実践できる。		課題や要求に対する設計解を提示するための一連のプロセス（課題認識・構想・設計・製作・評価など）を実践できない。		
評価項目3	提案する設計解が要求を満たすものであるか評価しなければならないことを把握している。		提案する設計解が要求を満たすものであるか評価しなければならないことを把握している。		提案する設計解が要求を満たすものであるか評価しなければならないことを把握できない。		
Assigned Department Objectives							
学習・教育到達度目標 (D) 学習・教育到達度目標 (E) 学習・教育到達度目標 (F) 学習・教育到達度目標 (G) 学習・教育到達度目標 (H)							
Teaching Method							
Outline	卒業研究の内容と方法は多岐にわたり、たとえば論文において提案や企画を含み図面による表現の必要なもの、あるいは設計においてコンピュータグラフィックスやビデオ制作の必要なもの、等さまざまなものが考えられる。設計を選んだ場合は設計のための付帯論文も提出成果の中に含み、また論文では建築的表現としての設計図の作成、添付を伴うことがある。 学生は、研究の成果を年間の予定にしたがって学科内で行われる発表会や審査会において発表し、建築学科全教員による審査を受ける。						
Style	各指導教員の下、理論的、実験的、フィールドワーク、設計的な観点から研究を進め、成果物を中間発表会、卒業研究審査会で発表する。						
Notice	指導教員の助言・指導を定期的に受けながら研究を進めることとし、自主的な取り組み姿勢が必要とされる。毎週、研究の記録を作成し残すこととする。 合格の対象としない欠席条件(割合) その他						
Course Plan							
			Theme		Goals		
1st Semester	1st Quarter	1st	配属の決定、研究テーマの選択 卒業研究全般にわたる説明。指導教員のもとで、研究を開始する。		卒業研究に関して、概要、目的等が説明できる。		
		2nd	研究テーマの選択、個別、グループ研究 指導教員のもとで、研究に取り組む。		指導教員のもとで、研究に取り組むことができる。		
		3rd	個別、グループ研究 指導教員のもとで、研究に取り組む。		指導教員のもとで、研究に取り組むことができる。		
		4th	個別、グループ研究 指導教員のもとで、研究に取り組む。		指導教員のもとで、研究に取り組むことができる。		
		5th	個別、グループ研究 指導教員のもとで、研究に取り組む。		指導教員のもとで、研究に取り組むことができる。		
		6th	個別、グループ研究 指導教員のもとで、研究に取り組む。		指導教員のもとで、研究に取り組むことができる。		
		7th	個別、グループ研究 指導教員のもとで、研究に取り組む。		指導教員のもとで、研究に取り組むことができる。		
		8th	個別、グループ研究 指導教員のもとで、研究に取り組む。		指導教員のもとで、研究に取り組むことができる。		
	2nd Quarter	9th	個別、グループ研究 指導教員のもとで、研究に取り組む。		指導教員のもとで、研究に取り組むことができる。		
		10th	個別、グループ研究 指導教員のもとで、研究に取り組む。		指導教員のもとで、研究に取り組むことができる。		
		11th	個別、グループ研究 指導教員のもとで、研究に取り組む。		指導教員のもとで、研究に取り組むことができる。		
		12th	個別、グループ研究 指導教員のもとで、研究に取り組む。		指導教員のもとで、研究に取り組むことができる。		
		13th	個別、グループ研究 指導教員のもとで、研究に取り組む。		指導教員のもとで、研究に取り組むことができる。		
		14th	中間発表1 研究の背景、研究目的、研究計画について発表をおこなう。		指導教員のもとで、研究に取り組むことができる。		
		15th	個別、グループ研究 指導教員のもとで、研究に取り組む。		指導教員のもとで、研究に取り組むことができる。		

		16th	期末試験実施せず	中間発表会において、卒業研究の概要と計画を発表することができる。
2nd Semester	3rd Quarter	1st	個別、グループ研究 指導教員のもとで、研究に取り組む。	指導教員のもとで、研究に取り組むことができる。
		2nd	個別、グループ研究 指導教員のもとで、研究に取り組む。	指導教員のもとで、研究に取り組むことができる。
		3rd	個別、グループ研究 指導教員のもとで、研究に取り組む。	指導教員のもとで、研究に取り組むことができる。
		4th	個別、グループ研究 指導教員のもとで、研究に取り組む。	指導教員のもとで、研究に取り組むことができる。
		5th	個別、グループ研究 指導教員のもとで、研究に取り組む。	指導教員のもとで、研究に取り組むことができる。
		6th	個別、グループ研究 指導教員のもとで、研究に取り組む。	指導教員のもとで、研究に取り組むことができる。
		7th	中間発表会2 各自、分野別にわかれて中間発表会をおこなう。	指導教員のもとで、研究に取り組むことができる。
		8th	個別、グループ研究 指導教員のもとで、研究に取り組む。	中間発表会において、卒業研究の進捗状況及び成果を発表することができる。
	4th Quarter	9th	個別、グループ研究 指導教員のもとで、研究に取り組む。	指導教員のもとで、研究に取り組むことができる。
		10th	個別、グループ研究 指導教員のもとで、研究に取り組む。	指導教員のもとで、研究に取り組むことができる。
		11th	個別、グループ研究 指導教員のもとで、研究に取り組む。	指導教員のもとで、研究に取り組むことができる。
		12th	個別、グループ研究 指導教員のもとで、研究に取り組む。	指導教員のもとで、研究に取り組むことができる。
		13th	論文、設計作品提出 各自、論文あるいは設計作品を提出。	論文あるいは設計作品に纏め、提出することができる。
		14th	論文、作品審査 主査、副査の教員が審査をおこなう。	卒業研究発表会に向けて、発表データの作成することができる。
		15th	卒業研究発表会 学生全員による卒業研究成果の発表。	卒業研究発表会において、その成果を発表することができる。
		16th	期末試験実施せず	

Evaluation Method and Weight (%)

	論文・作品	発表	梗概	取組状況			Total
Subtotal	60	20	10	10	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	60	20	10	10	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

Akashi College		Year	2019		Course Title	Special Problems in Structural Theory and Design A
Course Information						
Course Code	0108			Course Category	Specialized / Elective	
Class Format	Lecture			Credits	School Credit: 1	
Department	Architecture			Student Grade	5th	
Term	First Semester			Classes per Week	2	
Textbook and/or Teaching Materials	自作の教科書及び教材プリントを配布する。(参考図書)柴田明徳:最新耐震構造解析 第2版、森北出版					
Instructor	NAKAGAWA Hajime					
Course Objectives						
(1)地震被害を受けた建物の破壊等の特徴について説明でき、防災対策の重要性が理解できる。 (2)地震工学の基礎として、マグニチュードの概念と震度階について説明できる。 (3)耐震工学で必要な構造物の運動方程式、地震応答解析が理解できる。 (4)免震、制震構造の概念、設計法の基礎が理解できる。						
Rubric						
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1		地震被害を受けた建物の破壊等の特徴について説明でき、防災対策の重要性が十分に理解できる。		地震被害を受けた建物の破壊等の特徴について説明でき、防災対策の重要性が理解できる。		地震被害を受けた建物の破壊等の特徴について説明でき、防災対策の重要性が理解できない。
評価項目2		地震工学の基礎として、マグニチュードの概念と震度階について適切に説明できる。		地震工学の基礎として、マグニチュードの概念と震度階について説明できる。		地震工学の基礎として、マグニチュードの概念と震度階について説明できない。
評価項目3		耐震工学で必要な構造物の運動方程式、地震応答解析が十分に理解できる。		耐震工学で必要な構造物の運動方程式、地震応答解析が理解できる。		耐震工学で必要な構造物の運動方程式、地震応答解析が理解できない。
評価項目4		免震、制震構造の概念、設計法の基礎が適切に理解できる。		免震、制震構造の概念、設計法の基礎が理解できる。		免震、制震構造の概念、設計法の基礎が理解できない。
Assigned Department Objectives						
学習・教育到達度目標 (D) 学習・教育到達度目標 (F) 学習・教育到達度目標 (H)						
Teaching Method						
Outline		本講義では、東北地方太平洋沖地震及び兵庫県南部地震で人的・建物被害、防災・津波対策と耐震工学の基礎を講義する。心肺蘇生法とAEDの使用法に関する講義及び実習を行う。本科目は、グローバル教育の一つとして、試験、演習、小テストは英語での出題とする。この科目は企業で建築物の振動解析を担当した教員が、その経験を活かし、耐震工学・防災工学の基礎及び免震・制震構造の最先端技術までを講義形式で教えるものである。				
Style		本科目は、講義を中心に授業を行う。定期的に演習及び小テストを行い、学生の理解度を確認する。7月に台湾中正工業高校の短期留学生は本授業を履修しますので、7月の4週間は、英語教材を配布し、日本語と英語のバイリンガル授業を行う。本校はグローバル高専のため、授業において、耐震・防災工学に関する専門用語は英語で解説し、試験、演習は英語での出題とする。				
Notice		4年以下の建築構造力学、4年の鉄筋コンクリート構造、鋼構造などの基礎学力が必要となるので、十分に復習しておくこと。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課				
Course Plan						
			Theme	Goals		
1st Semester	1st Quarter	1st	東北地方太平洋沖地震での津波被害調査及び津波防災対策 2011年の東北地方太平洋沖地震の概要、津波被害調査を紹介する。津波に対する減災、防災対策について講義する。	2011年の東北地方太平洋沖地震の概要、津波被害調査を紹介し、津波に対する減災、防災対策について理解できる。		
		2nd	1次救命処置（心肺蘇生法とAED）の講義と実技 災害時の1次救命処置として、心肺蘇生法、AEDの使用法について講義と実技実習を行う。	災害時の1次救命処置として、心肺蘇生法、AEDの使用法について講義を聞き、実技実習を通じて、1次救命処置が対応できる。		
		3rd	最近の日本国内、海外の地震発生状況(1) 地震の発生メカニズム、地震動の特徴、過去の歴史地震、耐震基準の変遷を説明し、1995年の兵庫県南部地震の人的、物的被害について講義する。	地震動の発生メカニズム、特徴及び地震被害（人的、建物）を理解することができる。		
		4th	最近の日本国内、海外の地震発生状況(2) 2003年の十勝沖地震、2004年の新潟県中越地震での人的、建物被害について講義する。	地震被害（人的、建物）が理解できる。		
		5th	最近の日本国内、海外の地震発生状況(3)、防災工学に関する演習 国内で発生している大地震の概要、防災活動事例を紹介し、今後の防災対策について講義する。 レポート課題(1)、第1～4週で学習した授業内容について演習を行う。	国内外で発生している地震について、演習を通じて理解できる。		
		6th	建築振動学の概要と1質点系の自由振動(1) 建築振動論の概要を述べ、減衰を含まない、含む1質点系の運動方程式を誘導し、夫々の理論解法を講義する。 小テスト(1)	減衰を含まない1質点系の自由振動について理解できる。		
		7th	1質点系の自由振動(2)、耐震工学に関する演習(1) 減衰を含む1質点系の運動方程式を誘導し、複素数を含む理論解法を講義する。第6、7週前半で学習した授業内容について演習を行う。	減衰を含む1質点系の自由振動について理解できる。演習を通じて1～6章の内容が理解できる。		
		8th	中間試験 第1～7週の授業内容に関して試験を行う。	中間試験において、1～7週までの内容が理解できる。		

	2nd Quarter	9th	応答解析法 構造物の振動解析に必要な解析技術を学ぶために、数値積分法として代表的なNew Mark β 法を講義する。	構造物の振動解析に必要な解析技術を学ぶために、数値積分法として代表的なNew Mark β 法が理解できる。			
		10th	入力地震動と応答スペクトルの関係 内陸型地震動、海洋型プレート境界地震動の特徴を説明し、その地震動特性を構造物の応答スペクトルと関連して講義する。	内陸型地震動、海洋型プレート境界地震動の特徴が説明でき、その地震動特性を構造物の応答スペクトルと関連して理解できる。			
		11th	多質点系の運動方程式 多質点系の運動方程式を誘導し、構造物の固有周期を求めるための固有値解析法を講義する。	多質点系の運動方程式を誘導し、構造物の固有周期を求めるための固有値解析法が理解できる。			
		12th	耐震工学に関する演習(2) 第9～11週で学習した授業内容について演習を行う。 小テスト(2)	演習を通じて、9～11週の内容が理解できる。			
		13th	日本の耐震設計法 現行の耐震設計法を講義し、旧耐震規準との比較を紹介する。	現行の日本の耐震設計法を聞き、旧耐震規準との比較が説明できる。			
		14th	免震・制震構造の概念と設計法 免震・制震構造の概念と夫々の装置について説明し、実際の設計例を通し理解を深める。	免震・制震構造の概念と夫々の装置について説明し、実際の設計例を通し理解ができる。			
		15th	レポート課題(1)の発表 防災に関するレポートを6名の学生に発表してもらい、発表に対する討議を行う。	防災に関するレポートを発表し、理解を深め、履修者に対し説明ができる。			
		16th	期末試験	期末試験において、9～15週までの内容が理解できる。			

Evaluation Method and Weight (%)

	試験	演習	小テスト				Total
Subtotal	70	15	15	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	15	15	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

Akashi College		Year	2019		Course Title	Special Problems in Structural Theory and Design B
Course Information						
Course Code		0109		Course Category		Specialized / Elective
Class Format		Lecture		Credits		School Credit: 1
Department		Architecture		Student Grade		5th
Term		Second Semester		Classes per Week		2
Textbook and/or Teaching Materials		自作の教科書及び教材プリントを配布する。(参考図書)杉山英男:木質構造、共立出版(荘所)、PC設計施工規準・同解説、建築学会(市澤)				
Instructor		SHOJO Naoya, ICHISAWA Yuhiko				
Course Objectives						
(1)木質構建造物の過去の地震被害や耐震診断、新しい技術について理解できる。 (2)木質構造の構造形態の種類や材料の種類や特徴を理解し、壁量・偏心率の計算ができる。 (3)コンクリート系構造におけるPC構造の位置づけ、設計法、施工方法を理解し、簡単なPC構造の断面計算ができる。						
Rubric						
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1		木質構建造物の過去の地震被害や耐震診断、新しい技術について十分に理解できる。		木質構建造物の過去の地震被害や耐震診断、新しい技術について理解できる。		木質構建造物の過去の地震被害や耐震診断、新しい技術について理解できない。
評価項目2		木質構造の構造形態の種類や材料の種類や特徴を理解し、壁量・偏心率の計算が十分にできる。		木質構造の構造形態の種類や材料の種類や特徴を理解し、壁量・偏心率の計算ができる。		木質構造の構造形態の種類や材料の種類や特徴を理解し、壁量・偏心率の計算ができない。
評価項目3		コンクリート系構造におけるPC構造の位置づけ、設計法、施工方法を理解し、簡単なPC構造の断面計算が十分にできる。		コンクリート系構造におけるPC構造の位置づけ、設計法、施工方法を理解し、簡単なPC構造の断面計算ができる。		コンクリート系構造におけるPC構造の位置づけ、設計法、施工方法を理解し、簡単なPC構造の断面計算ができない。
Assigned Department Objectives						
学習・教育到達度目標 (D) 学習・教育到達度目標 (F) 学習・教育到達度目標 (H)						
Teaching Method						
Outline		本講義では、前半(荘所が8週担当)を、木質構造の構造形態や用いられる材料に関する基礎知識を講義する。後半(市澤が7週担当)は、鉄筋コンクリート構造の応用として、プレストレスコンクリート構造(以下、PC構造)の基本的な考え方、設計法、施工法を最新の施工事例や実務経験を紹介しながら講義する。なお、この科目の9週目以降の授業は企業で主にPC構造の構造設計を担当している教員が、その経験を活かし、最新の設計手法等について講義形式で授業を行うものである。				
Style		配布資料やスライドを用いた講義および演習を主とする。適宜演習課題を課す。 この科目はオムニバス授業とし8週目までは荘所が担当し、9週目以降は市澤が担当する。				
Notice		4年以下の建築構造力学、鉄筋コンクリート構造、鋼構造などの基礎学力が必要となるので、十分に復習しておくこと。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課				
Course Plan						
			Theme		Goals	
2nd Semester	3rd Quarter	1st	木質構造の地震被害と木材利用の意義 過去の木質構造の地震被害事例を説明し、建築基準法の変遷や木質構造の問題点などを講義する。木材利用の意義を講義する。		過去の木質構造の地震被害事例が説明できる。木材利用の意義を説明できる。	
		2nd	木質構造の種類と特徴 木質構造は種々の構造形態(在来軸組構法、枠組壁工法等)を有する。その構造の種類と特徴の概要について講義する。		木質構造は種々の構造形態(在来軸組構法、枠組壁工法等)を説明できる。	
		3rd	木質構造材料 木質構造材料の種類やその基礎的特性を講義する。		木質構造材料の種類やその基礎的特性を説明できる。	
		4th	構造計画と構造設計ルート 木質構造の力の流れに対する各部位の役割や建物全体に対する構造計画上の要点を説明し、鉛直荷重・水平荷重に対する構造計画上の留意点を講義する。		木質構造の力の流れがイメージでき、構造計画上の留意点を説明できる。	
		5th	壁量計算 平屋建てや2階建ての木質構造住宅の設計に多く用いられている壁量計算の背景や計算方法を講義する。		壁量計算の前提条件を説明でき、壁量計算ができる。	
		6th	偏心率計算 耐力壁の配置バランスによる偏心率の計算方法を講義する。また、偏心検定の簡易法である4分割法についても講義する。		偏心率の計算ができる。	
		7th	木質構造の現状と展望 木質構造の現状と課題および耐震診断等を含めた将来の展望について講義する。		木質構造の現状を把握でき、現在・未来に求められていることを意見できる。	
		8th	中間試験 第1～7週の授業内容に関して試験を行う。			
	4th Quarter	9th	PC構造の歴史・PC建築物の紹介 PC構造がいつ発祥し、どのように発展してきたのか、PC構造の歴史を説明する。実際に建設されたPC建築物の最新事例をパワーポイントで紹介し、PC構造がどのように使用されているのかを説明する。		PC構造の歴史を説明でき、PC建築物の事例を挙げることができる。	

		10th	PC構造の原理・特徴・プレストレスカの導入方法について PC構造の基本的な原理を模型を用いて説明し、その構造原理について理解する。PC構造のメリット及びコンクリートにプレストレスカを導入する方法について説明する。	PC構造の原理・特徴・プレストレスカの導入方法を説明できる。
		11th	PC構造に使用する鋼材の種類・特性・定着工法について PC構造に使用する鋼材(PC鋼材)の種類と材料特性を説明する。プレストレスカを導入するための定着工法について説明する。	PC構造に使用する鋼材の種類・特性・定着工法を説明できる。
		12th	コンクリートの許容応力度と実際に発生する断面応力度について PC構造に使用するコンクリートの種類、設計に適用する許容応力度と実際に発生する断面応力度を説明する。	コンクリートの許容応力度と実際に発生する断面応力度について説明できる。
		13th	PC部材の構造設計演習 PC部材の構造設計演習を行い、PC構造の基本的な構造設計を理解する。簡単なPC部材の構造設計の基本的な流れを説明する。	PC構造の基本的な構造設計の流れを説明でき、簡単なPC部材を設計できる。
		14th	PC構造-PRC構造-RC構造の関係・不静定2次応力について コンクリート系に属するPC構造-PRC構造-RC構造を比較し、それらの構造的特徴を理解する。不静定構造物にプレストレスカを導入した場合に発生するPC構造特有の応力について説明する。	PC構造固有の不静定2次応力について説明できる。PC構造-PRC構造-RC構造を比較し、それらの構造的特徴が説明できる。
		15th	プレストレスカの損失及び有効率について コンクリートに導入されたプレストレスカは時間経過に伴って一定の範囲内で減退する。この原因を説明する。構造設計の際にプレストレスカの損失をどのように適用するのか説明する。	プレストレスカの損失及び有効率を説明できる。
		16th	期末試験	

Evaluation Method and Weight (%)

	試験	レポート	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	Total
Subtotal	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	30	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

Akashi College		Year	2019		Course Title	Exercises in Structural Design
Course Information						
Course Code	0110			Course Category	Specialized / Elective	
Class Format	Seminar			Credits	Academic Credit: 2	
Department	Architecture			Student Grade	5th	
Term	Second Semester			Classes per Week	2	
Textbook and/or Teaching Materials	日本建築学会:「鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説」、高梨晃一ほか:基礎からの鉄骨構造 第2版(森北出版)					
Instructor	NAKAGAWA Hajime					
Course Objectives						
(1)建築構造力学、鉄筋コンクリート構造、鋼構造、耐震工学・地震工学の基礎、建築生産(仮設、地業、躯体工事)に関する演習を行い、学習したことが十分に理解できている。 (2)4年次の鉄筋コンクリート構造、鋼構造に関する小規模な建築物の構造計算を行い、構造図が描ける。						
Rubric						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	建築構造、材料、建築生産に関する演習を行い、その内容が十分に理解できる。		建築構造、材料、建築生産に関する演習を行い、その内容が理解できる。		建築構造、材料、建築生産に関する演習を行い、その内容が理解できない。	
評価項目2	小規模な鉄筋コンクリート構造物或は鉄骨構造物の構造計算を行い、構造図を描くことができる。演習で得られた構造設計例を十分に説明できる。		小規模な鉄筋コンクリート構造物或は鉄骨構造物の構造計算を行い、構造図を描くことができる。演習で得られた構造設計例を説明できる。		小規模な鉄筋コンクリート構造物或は鉄骨構造物の構造計算を行い、構造図を描くことができる。演習で得られた構造設計例を説明できない。	
Assigned Department Objectives						
学習・教育到達度目標 (D) 学習・教育到達度目標 (F) 学習・教育到達度目標 (H)						
Teaching Method						
Outline	本科目は、前半の7週間は、建築構造力学(塑性力学を含む)、RC・S造、構造計画・荷重、耐震設計及び建築生産に関する演習を行う。後半の7週間は、グループワークとして、鉄筋コンクリート構造或は鉄骨構造を選択し、地上3階建ての事務所ビルを市販の構造ソフトを使用し構造設計を行う。本科目は企業で建築構造物の設計を担当した教員が、その経験を活かし、構造演習、小規模な建築物の構造設計を講義・演習形式で行うものである。					
Style	授業は、演習が中心であるが、適宜、講義を行う。前半の2〜7週において、予習を前提にしたレポート課題を出す予定である。後半の9〜15週において、小規模な構造設計のため、週1コマ以外の時間で演習に取り組む必要がある。これを事後のレポート課題とする。					
Notice	本科目は、授業で保証する学習時間と、予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が、90時間に相当する学習内容である。4年以下の建築構造力学、4年次の鉄筋コンクリート構造、鋼構造、5年前期の建築構造特論A、建築生産Aを十分に復習をすること。また、9週目以降は、グループ学習を通じて、学生の主体性、協調性に期待し構造設計に取り組むこと。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課					
Course Plan						
			Theme		Goals	
2nd Semester	3rd Quarter	1st	授業計画と概要説明		本科目で学習すべき内容が理解できる。	
		2nd	建築構造演習(1) 静定梁・静定ラーメン構造の演習 静定構造物に関する演習を行う。		演習を通じて、2週目の授業内容が理解できる。	
		3rd	建築構造演習(2) 不静定構造物、構造計画・荷重、耐震設計の演習 不静定構造、構造計画・荷重、耐震設計に関する演習を行う。		演習を通じて、3週目の授業内容が理解できる。	
		4th	建築構造演習(3) 鉄筋コンクリート構造の演習 コンクリート、鉄筋の材料特性に関する演習を行う。		演習を通じて、4週目の授業内容が理解できる。	
		5th	建築構造演習(4) 鋼構造の演習 高力ボルト、溶接、構造部材、接合部に関する演習を行う。		演習を通じて、5週目の授業内容が理解できる。	
		6th	建築構造演習(5) 建築生産の演習 仮設工事、土工事、地業工事に関する演習を行う。		演習を通じて、6週目の授業内容が理解できる。	
		7th	建築構造演習(6) 建築生産の演習 型枠、鉄筋、コンクリート、鉄骨工事に関する演習を行う。		演習を通じて、7週目の授業内容が理解できる。	
		8th	中間試験実施せず			
	4th Quarter	9th	RC造或はS造3階建て事務所ビルの構造設計に関する概要説明		9週以降、小規模な事務所ビルを設計するために、この概要が十分に理解できる。	
		10th	構造設計(1) 構造計画、2次部材(小梁、スラブ)の計算		意匠図から構造図を描き、構造部材(柱、梁)の仮定断面及び小梁・スラブの計算ができる。	
		11th	構造設計(2) 市販の構造ソフトを使用し、構造計算に必要なデータを入力する。		構造フレーム、荷重、設計条件などを間違えなく入力できる。	
		12th	構造設計(3) 市販の構造ソフトを使用し、構造計算に必要なデータを入力する。		構造フレーム、荷重、設計条件などを間違えなく入力できる。	
		13th	構造設計(4) 構造計算結果を考察し、その妥当性を検証する。		許容応力度設計における出力結果の妥当性を検討し、問題ないことを確認できる。	
		14th	構造設計(5) 構造計算書及び構造図の作成		構造計算書及び構造図(梁伏図、軸組図、鉄骨詳細図)を作成できる。	
		15th	構造設計(6) 構造計算書及び構造図の作成		構造計算書及び構造図(梁伏図、軸組図、鉄骨詳細図)を作成できる。	

		16th	期末試験実施せず				
Evaluation Method and Weight (%)							
	試験	演習	取組状況	態度	ポートフォリオ	その他	Total
Subtotal	0	70	30	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	70	30	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

Akashi College		Year	2019		Course Title	City and Regional Planning
Course Information						
Course Code	0111			Course Category	Specialized / Elective	
Class Format	Lecture			Credits	Academic Credit: 2	
Department	Architecture			Student Grade	5th	
Term	First Semester			Classes per Week	2	
Textbook and/or Teaching Materials	テキスト：●三村浩史著、『地域共生の都市計画』、学芸出版社、参考文献：山崎亮『縮充する日本「参加」が創り出す人口減少社会の希望』					
Instructor	OTSUKA Takehiko					
Course Objectives						
授業初めに都市計画に関する記事に関して意見発表を行う。 都市地域計画を受講して以下の能力を習得することを目的とする。 1) 都市地域計画を技術、文化、法律、経済などの多様な文脈と歴史やライフサイクルなどの時間的な展開の中で理解し、都市地域計画手法で説明できる能力 2) 現代の都市空間が抱える諸課題について、ワークショップや見学会を通じて柔軟かつ計画論的・実践的な提案ができる能力 3) 自然・人間・環境との共生に配慮できる能力						
Rubric						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1都市計画の目的と意義、都市計画史の系譜	意義、都市計画史の系譜を適切に説明できる		意義、都市計画史の系譜を説明できる		意義、都市計画史の系譜を適切に説明できない	
土地利用計画、景観計画	土地利用計画、景観計画を適切に説明できる		土地利用計画、景観計画を説明できる		土地利用計画、景観計画を適切に説明できない	
市街地の開発・再開発、防災都市計画、地区計画	市街地の開発・再開発、防災都市計画を適切に説明できる。		市街地の開発・再開発、防災都市計画を説明できる。		市街地の開発・再開発、防災都市計画を説明できない。	
Assigned Department Objectives						
学習・教育到達度目標 (A) 学習・教育到達度目標 (F) 学習・教育到達度目標 (H)						
Teaching Method						
Outline	都市・地域は建築やインフラストラクチャなどから構成される，建築・地区よりも大きく地域・地方よりも小さな空間単位である。本講義では、都市計画・建築学の立場から現代都市の抱える諸問題を経済・社会システムや生活様式の変化と関連づけながら、多面的に理解するとともに我が国の都市計画の歴史の変遷と現代的な課題について学ぶ。都市計画学の目的，これまでの都市史，都市計画制度，都市計画事業などの概要を習得することを目的としている。					
Style	授業の進め方と授業内容・方法： 教科書および教科書の要点をまとめた講義メモを中心に授業を行う。					
Notice	都市地域計画の基本的な考え方、現代都市の抱える諸問題の背景を理解すること。 毎回必ず出席し、不明な点はその場で質問するか、QandAカードに記入する。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課					
Course Plan						
			Theme		Goals	
1st Semester	1st Quarter	1st	授業計画の説明、都市地域計画概論 授業の進め方及び評価についての説明を行ったうえで都市地域計画の概論について説明を行う。		現代社会における都市計画の課題の位置づけについて説明できる。	
		2nd	近代都市計画の変遷（欧米）：欧米における近代都市計画（ドイツ（プロシア）、アメリカ、英国）の歴史的発展について説明する。		近代（欧米）の都市計画論について説明できる	
		3rd	近代都市計画の変遷（日本）：明治、大正、昭和、平成における東京市区改正条例、旧都市計画法そして戦後の新市計画法と関連制度の発展について概説する。		日本の都市計画論について説明できる	
		4th	わが国の土地利用計画・都市施設とまちづくり：日本の土地利用計画の仕組み（用途地域、区分区域制度、開発許可）について説明する		日本の土地利用計画の仕組みについて説明できる	
		5th	建築・開発行為の社会的規制と方法・制度：わが国の建築・開発行為の社会的規制と方法・制度の変遷について説明する。		開発行為等の方法・制度の変遷について説明できる。	
		6th	都市の景観形成とまちづくり： 景観形成・風景計画、用途・形態規制の仕組みについて、マンション建設問題を題材にして、街並・景観保全について説明する（三重県津市殿町）		景観形成・風景計画、用途・形態規制の仕組みについて説明できる。	
		7th	市街地の開発・再開発と整備計画 1：市街地開発に関連する仕組み（市街地再開発事業、土地区画整理事業等）について概説する。		市街地を開発する仕組みについて説明できる。	
		8th	市街地の開発・再開発と整備計画 2：住環境整備事業からエリアマネジメント、立地適正化計画、都市の賑わい計画などの新しい都市計画制度を説明する。		市街地再開発事業について説明できる。	
	2nd Quarter	9th	これからの密集市街のまちづくりを考える：密集市街地の整備課題とまちづくり誘導手法について、神戸市長田区駒ヶ林の整備事例を基に説明を行う。		密集市街地整備事業、地区計画制度について説明できる。	
		10th	参画と協働のまちづくりーミクロの都市計画理論ー：わが国のまちづくり条例、地区計画制度、建築協定・緑化協定などの住民参加・協働のまちづくりの体制について説明できる。		住民参加・協働のまちづくりの体制について説明できる。	
		11th	都市交通と街路計画：市街地形成と都市交通のあり方について、街路計画の手法と理念について説明する。		市街地形成と都市交通のあり方について、街路計画の手法と理念について説明できる。	
		12th	減災まちづくり：地域での減災活動、地域防災計画、災害時要援護者の避難に関して説明を行う。		減災まちづくりについて、説明できる。	

		13th	住宅政策と都市計画によるまちづくり：わが国の住宅マスタープラン、住生活基本計画、空家対策基本計画を説明した上で、住宅政策と都市計画の連携と課題について述べる。	住宅政策とまちづくりの連携について説明できる。
		14th	超高齢・人口減少時代の都市計画・建築計画・設計：建築計画と設計の手法一般について説明したうえで、超高齢・人口減少時代の都市計画・建築計画・設計論（ユニバーサルデザインのまちづくり・い炭素都市の実現、スマートシティ等）について説明を行う。	人口減少社会下でのまちづくりのあり方について、理解する。
		15th	見学会 市街地再開発の現状と課題（神戸市長田区） 阪神淡路大震災後に行われた市街地再開発事業や密集市街地整備事業等の現地見学を行う	阪神淡路大震災後に行われた市街地再開発事業や密集市街地整備事業等の現地見学、ワークショップを行う。
		16th	期末試験	

Evaluation Method and Weight (%)

	試験	レポート	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	Total
Subtotal	50	50	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	50	50	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

Akashi College		Year	2019		Course Title	History of Architecture III
Course Information						
Course Code	0112			Course Category	Specialized / Elective	
Class Format	Lecture			Credits	Academic Credit: 2	
Department	Architecture			Student Grade	5th	
Term	First Semester			Classes per Week	2	
Textbook and/or Teaching Materials	テキスト：鈴木博之編著『近代建築史一部分カラー版』市ヶ谷出版社,2009					
Instructor	HIGASHINO Adriana P.					
Course Objectives						
(1) 近代社会の根底にある「人類に普遍的な価値」が西洋世界において建築ではどのような造形として成立したかを理解するとともに、それが世界に拡大する過程で生じた地域文化との軋轢のなかで、世界が多様な建築文化で成り立っていることを理解し、説明することができる。 (2) 近代社会に生きる建築家たちが、都市問題や住宅問題に取り組んだ建築家の倫理観についても触れ、その意義を理解し、説明することができる。 (3) 歴史上、建築構造学が土木工学を含めた広い技術から生じたこと理解し、隣接分野への関心を深める。 目標を達成するために自己学習が必要である。教科書に目を通してから授業に参加すること。						
Rubric						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	近代建築の代表的な建築理念やモダンデザインの成立過程を理解し、説明することができる。建築家の社会的な取り組みを理解し、説明することができる。		近代建築の代表的な建築理念やモダンデザインの成立過程を理解し、説明することができる。		近代建築の代表的な建築理念やモダンデザインの成立過程を理解し、説明することができない。	
評価項目2	各自調査した近現代建築を批評の視点を明らかにしてレポートにまとめることができる。		各自調査した近現代建築をレポートにまとめることができる。		各自調査した近現代建築をレポートにまとめることができない。	
評価項目3	調査内容をスライド形式でまとめ、論旨を明快にして説明することができる。		調査内容をスライド形式でまとめ、説明することができる。		調査内容をスライド形式でまとめ、説明することができない。	
Assigned Department Objectives						
学習・教育到達度目標 (B) 学習・教育到達度目標 (C) 学習・教育到達度目標 (H)						
Teaching Method						
Outline	20世紀を中心に日本や西洋の近代建築について講じる。近代建築が確立するまでの様々な造形理念を時系列的に紹介し、近代社会が求めた「人類に普遍的な価値」が建築においてどのように帰結したか、またそのことへの批判から様々な方向に広がるポストモダンと呼ばれる状況までの過程を講義する。また、近代建築を成立させた構造技術も合わせて理解を深める。					
Style	授業は講義形式で行い、レポート課題を課す。最後にレポート内容の発表を踏まえて、総評を行う。					
Notice	各週のテキスト該当箇所の予習と復習を行うこと。近現代建築の研究対象を選んで各自調査し、その成果をレポートにまとめること。調査の成果をスライド形式でまとめ、発表の準備をすること。 本科目は、授業で保証する学習時間と、予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が、90時間に相当する学習内容である。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/4以上の欠課					
Course Plan						
			Theme	Goals		
1st Semester r	1st Quarter	1st	西洋近代：近代化の衝撃	19世紀の西洋建築の近代化と近代都市計画の近代化の過程について説明できる。		
		2nd	西洋近代：近代建築の模索	20世紀初頭の近代建築の造形と理念を説明できる。		
		3rd	西洋近代：近代運動の推進	1920年代のヨーロッパ各地の近代建築運動について説明できる。		
		4th	西洋近代：近代運動の普及と反動	1930-40年代の近代建築、アールデコ、全体主義、北欧の建築について説明できる。		
		5th	西洋近代：国際化社会と多様性の萌芽	1950-60年代の近代建築、巨匠の晩年の作品、構造主義について説明できる。		
		6th	日本近代：開国から維新期	初期洋風建築、擬洋風建築、お雇い外国人について説明できる。		
		7th	日本近代：洋風建築の本格的導入	日本人建築家の系譜、伝統建築の再発見の過程について説明できる。		
		8th	中間試験			
	2nd Quarter	9th	日本近代：住宅建築と都市	洋風住宅、公園、集合住宅の諸相について説明できる。		
		10th	日本近代：近代都市のなかの建築	近代都市計画におけるオフィスビル、公共建築、日本の表現について説明できる。		
		11th	日本近代：近代建築の導入と展開	建築運動の台頭、合理主義建築、ライト、タウト、レーモンドの作品について説明できる。		
		12th	現代建築：世界と日本の共振	1960年代の建築、丹下健三、ル・コルビュジエの弟子たち、メタボリズムについて説明できる。		
		13th	現代建築：モダニズムの反省とポストモダン	1970-80年代の建築、フォルマリズム、批判的地域主義、ポストモダニズム、デコンについて説明できる。		
		14th	発表 各自調査した建築の5分間プレゼンテーション	各自まとめた建築家、建築作品について批評的な視点を明らかにして説明することができる。		
		15th	発表 各自調査した建築の5分間プレゼンテーション	各自まとめた建築家、建築作品について批評的な視点を明らかにして説明することができる。		
		16th	期末試験			

Evaluation Method and Weight (%)							
	発表 1	発表 1	動画課題	態度			Total
Subtotal	30	30	40	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	30	30	0	0	0	0	60
分野横断的能力	0	0	40	0	0	0	40

Akashi College		Year	2019		Course Title	Architectural Planning V
Course Information						
Course Code	0113			Course Category	Specialized / Elective	
Class Format	Seminar			Credits	Academic Credit: 2	
Department	Architecture			Student Grade	5th	
Term	First Semester			Classes per Week	2	
Textbook and/or Teaching Materials	空間学事典/日本建築学会/井上書院			他は授業ごとに作成した資料を配付する。		
Instructor	KUDOH Kazumi					
Course Objectives						
(1) 住宅や建築、都市を計画する際、重視すべき自然や社会との共生を実現するための考え方や 技術を理解し説明できる。 (2) 建築計画の応用的な知識や考え方を理解し説明できる。 (3) 建築空間の計画に関する考え方や実務経験に裏付けられた建築計画理論を理解し、歴史的文化的社会的環境が建築にもたらした影響の蓄積を背景に組み立てられた建築計画の考え方について述べるができる。						
Rubric						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	建築計画で重視すべき自然や社会との共生を実現するための考え方 や 技術を理解し的確に説明できる。		建築計画で重視すべき自然や社会との共生を実現するための考え方 や 技術を理解し説明できる。		建築計画で重視すべき自然や社会との共生を実現するための考え方 や 技術を理解できていない。	
評価項目2	建築計画の応用的な知識や考え方を理解し的確に説明できる。		建築計画の応用的な知識や考え方を理解し説明できる。		建築計画の応用的な知識や考え方を理解できていない。	
評価項目3	建築計画理論を理解し、建築計画の考え方を各テーマに対応して的確に述べるができる。		建築計画理論を理解し、建築計画の考え方を各テーマに対応して述べるができる。		建築計画理論を理解し、建築計画の考え方を各テーマに対応して述べるができない。	
Assigned Department Objectives						
学習・教育到達度目標 (A) 学習・教育到達度目標 (E) 学習・教育到達度目標 (H)						
Teaching Method						
Outline	建築計画 1-4 の学習成果の上に、より広範な観点から建築計画を考究し、今日的具体的な問題を解決するための知識と計画技術を学習する。建築計画における多様な問題や考え方、取り組みについてそれを取り巻く様々な社会的視点を取り上げ事例を通して考察する。また、環境に関わる建築計画における現代的課題に関する理論、手法についても学ぶ。					
Style	グループワークを含んだ講義形式とする。週ごとに建築と都市空間の計画的課題についてテーマを設定しグループディスカッションを通して理解を深める。					
Notice	本科目は、授業で保証する学習時間と、予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が90時間に相当する学習内容である。建築計画の応用的な考え方を身につけ、卒業研究等において総合化できるよう取り組むこと。建築史と都市地域計画の履修が望ましい。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課					
Course Plan						
			Theme	Goals		
1st Semester	1st Quarter	1st	ガイダンス 前期授業の狙いと、建築や都市が抱える現代的課題を、事例を通じて概説する。	現代社会における建築と都市の計画の課題の位置付けについて理解できる。		
		2nd	都市問題のはじまりといま 都市問題のはじまりから、近代都市と建築について考察する。現代の都市問題についても言及する。	現代社会における建築と都市の計画の課題の位置付けについて理解できる。		
		3rd	近代の都市と建築（その1） 田園都市からアテネ憲章（CIAM）の都市論を中心に、建築家が提案したモダニズムの理想都市の背景と、現代の都市と建築の関連について考察する。	現代社会における建築と都市の計画の課題の位置付けについて理解できる。		
		4th	近代の都市と建築（その2） モダニズムの建築思想を中心に再考する。近代建築が目指したもの、排除したものは何かを考える。	現代社会における建築と都市の計画の課題の位置付けについて理解できる。		
		5th	パブリックスペース（その1） 建築と都市のサステナビリティ、コミュニケーションと空間について。	現代社会における建築と都市の計画の課題の位置付けについて説明できる。		
		6th	パブリックスペース（その2） 都市空間と都市のイメージについて。	現代社会における建築と都市の計画の課題の位置付けについて説明できる。		
		7th	パブリックスペース（その3） アジア、ヨーロッパ、アフリカの広場や共同空間について事例を通して学ぶ。	住民参加・協働のまちづくりの体制について説明できる。		
		8th	中間試験			
	2nd Quarter	9th	パブリックスペース（その4） サードプレイス、町や集落の空間構造と景観について。	都市と農村の計画について理解できる。		
		10th	建築と社会の課題 少子化と都市の問題	都市と農村の計画について説明できる。		
		11th	有機的建築から地域主義について	都市と建築の計画について説明できる。現代都市の特質と課題について説明できる。		
		12th	景観と地域環境 地域と建築のつながりについて	景観形成の基礎的事項と考え方について理解できる。		
		13th	バナキュラー建築と、フィールドワークについて	建築計画の調査を行うための基礎について理解できる。		
		14th	サードプレイスと建築 事例を調査し、空間的特徴と思想について考察する。	現代都市の特質と課題について説明できる。		

		15th	都市と建築の今日的課題 テーマを設定してグループ毎にプレゼンテーションを 行う。			都市と建築の今日的課題を見出し、課題設定ができる 。調査しまとめたもののプレゼンテーションできる。	
		16th	期末試験				
Evaluation Method and Weight (%)							
	試験	発表	相互評価	レポート	ポートフォリオ	その他	Total
Subtotal	60	5	0	35	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	60	5	0	35	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

Akashi College		Year	2019		Course Title	Architectural Planning VI	
Course Information							
Course Code		0114		Course Category		Specialized / Elective	
Class Format		Seminar		Credits		Academic Credit: 2	
Department		Architecture		Student Grade		5th	
Term		Second Semester		Classes per Week		2	
Textbook and/or Teaching Materials		空間学事典/日本建築学会/井上書院			他は授業ごとに作成した資料を配付する。		
Instructor		KUDOH Kazumi,KIMURA Tatsuya					
Course Objectives							
(1) 講義で得られた建築計画の応用的な知識や考え方を基礎に、課題テーマに対して計画を作成し、意見発表することができる。 (2) 建築空間の計画に関する考え方や実務経験に裏付けられた建築計画理論を理解し、歴史的・文化的・社会的環境が建築にもたらした影響の蓄積を背景に組み立てられた建築計画の考え方が理解できる。 (3) 古くからの歴史が蓄積した地域を、歴史、景観等の観点から現地調査し、地域の将来を考慮した具体的な計画を提案できる。課題に対して建築計画の提案ができる。							
Rubric							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		課題テーマに対して応用的な知識や考え方を活用し、計画を作成しての確な意見発表をすることができる。		課題テーマに対して応用的な知識や考え方を活用し、計画を作成して意見発表をすることができる。		課題テーマに対して応用的な知識や考え方を活用し、計画を作成して意見発表をすることができない。	
評価項目2		建築計画理論を理解し、歴史的・文化的・社会的環境がもたらした影響を背景に組み立てられた建築計画の考え方が十分に理解できる。		建築計画理論を理解し、歴史的・文化的・社会的環境がもたらした影響を背景に組み立てられた建築計画の考え方が理解できる。		建築計画理論を理解し、歴史的・文化的・社会的環境がもたらした影響を背景に組み立てられた建築計画の考え方が理解できていない。	
評価項目3		歴史、景観等の観点から現地調査し、地域の将来を考慮した具体的な計画を的確に提案できる。		歴史、景観等の観点から現地調査し、地域の将来を考慮した具体的な計画を提案できる。		歴史、景観等の観点から現地調査し、地域の将来を考慮した具体的な計画を提案できない。	
Assigned Department Objectives							
学習・教育到達度目標 (A) 学習・教育到達度目標 (E) 学習・教育到達度目標 (H)							
Teaching Method							
Outline		建築計画 1,2 の学習成果の上に、より広範な観点から建築計画を考究し、今日的具体的な問題を解決するための知識と計画技術を学習する。建築計画における多様な問題や考え方、取り組みについてそれを取り巻く様々な社会的視点を取り上げ事例を通して考察する。また、環境に関わる建築計画における現代的課題に関する理論、手法についても学ぶ。室津（江戸時代参勤交代で栄えた港町、兵庫県たつの市）において現地調査をおこない、報告書を作成する。木村 達也は22年間 昭和設計株式会社にて意匠設計に従事。					
Style		具体的な課題を提示し、計画案を提案することにより建築計画の応用的な学力の習得を目指す。計画対象地の見学や、施工現場の見学を行う。グループワークによる計画の作成や、計画についての発表と意見交換を行う。工藤は全ての授業を担当する。木村は7,8週を担当する。					
Notice		本科目は、授業で保証する学習時間と、予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が90時間に相当する学習内容である。建築計画の応用的な考え方を身につけ、卒業研究等において総合化できるよう取り組むこと。見学旅行においては、室津の課題のヒントとなるものを収集すること。建築史と都市地域計画の履修が望ましい。合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課					
Course Plan							
			Theme		Goals		
2nd Semester	3rd Quarter	1st	課題（港町を対象とした調査と計画作成）について課題の説明をおこなう。また現地調査を行う準備として、室津に関する歴史、家屋、町並み等について学習する。		次週の現地調査のための準備的下調べができる。		
		2nd	室津現地調査 室津へ行き、歴史、景観の観点から町並み、資料館、海を望む風景等を実地調査を行う。2,3週をまとめて実施する。		計画案を作成するための基本的な調査ができる。伝統的町並み、風景、地形読み取ることができ、課題を検討することができる。		
		3rd	週室津現地調査 室津へ行き、歴史、景観の観点から町並み、資料館、海を望む風景等を実地調査を行う。2,3週をまとめて実施する。		計画案を作成するための基本的な調査ができる。伝統的町並み、風景、地形読み取ることができ、課題を検討することができる。		
		4th	計画の作成と発表		計画案を作成し。分かりやすく表現し、発表できる。		
		5th	計画の作成と発表		計画案を作成し。分かりやすく表現し、発表できる。		
		6th	現代建築設計の理論と実践（その 1） 設計業務に携わる建築家による建築設計理論に関する講義と見学		建築計画・設計の手法について、設計者による事例を通して現代の課題が理解できる。		
		7th	現代建築設計の理論と実践（その 2） 設計業務に携わる建築家による建築設計理論に関する講義と見学		建築計画・設計の手法について、設計者による事例を通して現代の課題が理解できる。		
		8th	現代建築設計の理論と実践（その 3） 設計業務に携わる建築家による建築設計理論に関する講義と見学		建築計画・設計の手法について、設計者による事例を通して現代の課題が理解できる。		
	4th Quarter	9th	建築構成の手法（その 1） 茶室の空間デザイン グループワーク		日本および海外の代表的な現代建築の特徴について理解し、計画に活用できる。		
		10th	建築構成の手法（その 1） 茶室の空間デザイン グループワーク		日本および海外の代表的な現代建築の特徴について理解し、計画に活用できる。		
		11th	建築構成の手法（その 1） 茶室の空間デザイン グループワーク		建築設計に関わる基本的な寸法の知識を有し、それを活用して計画を行うことができる。		

		12th	建築構成の手法（その 1） 茶室の空間デザイン グループワーク	日本および海外の代表的な現代建築の特徴について理解し、計画に活用できる。
		13th	建築構成の手法（その 1） 茶室の空間デザイン グループワーク	建築設計に関わる基本的な寸法の知識を有し、それを活用して計画を行うことができる。
		14th	建築構成の手法（その 2） 茶室の空間デザイン グループワーク	建築設計に関わる基本的な寸法の知識を有し、それを活用して計画を行うことができる。
		15th	建築構成の手法（その 3） 茶室の空間デザイン グループワーク 計画案のプレゼンテーション	課題テーマに対して計画を作成し、意見発表することができる。
		16th	期末試験実施せず	課題テーマに対して計画を作成し、意見発表することができる。

Evaluation Method and Weight (%)

	試験	発表	相互評価	レポート	ポスター	その他	Total
Subtotal	0	35	0	25	40	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	35	0	25	40	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

Akashi College		Year	2019		Course Title	Architectural Project Practice	
Course Information							
Course Code	0115			Course Category	Specialized / Elective		
Class Format	Seminar			Credits	Academic Credit: 4		
Department	Architecture			Student Grade	5th		
Term	First Semester			Classes per Week	4		
Textbook and/or Teaching Materials	安藤直見ほか「建築のしくみ」丸善、藤木庸介編「名作住宅で学ぶ建築製図」学芸出版社、参考文献：日本建築学会編「コンパクト建築設計資料集成」丸善						
Instructor	SHOJO Naoya,MOTOZUKA Tomoki,						
Course Objectives							
(1) 在来木造工法の構造、部位・部材、立体構成を理解すること (2) 在来木造工法に関する、基本的な建築法規、要求されている空間や機能性を理解したうえで、総合的な計画ができるようになること (3) 2級建築士製図試験に必要な在来木造工法の図面が描けるようになること							
Rubric							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	在来木造工法の構造、部位・部材を理解し、応用的な問題に対し、製図ができる。		在来木造工法の構造、部位・部材を理解することができる。		在来木造工法の構造、部位・部材が理解できない。		
評価項目2	要求されている空間や機能性を理解したうえで、自由度の高い条件設定に対応した計画ができる。		要求されている空間や機能性を理解したうえで、総合的な計画ができる。		要求されている空間や機能性を理解できない。		
評価項目3	2級建築士設計製図試験の合格に必要な在来木造工法の図面が描ける。		基本的な在来木造工法の図面が描ける。		在来木造工法の図面が描けない。		
Assigned Department Objectives							
学習・教育到達度目標 (F) 学習・教育到達度目標 (H)							
Teaching Method							
Outline	実在する在来木造工法住宅の設計図をもとに軸組模型を製作し、在来木造工法の部位・部材、立体構成を学習する。2級建築士設計製図の問題を解き、総合的な計画力、製図法の基本を習得する。 なお、8週～15週のうち5週は設計事務所まで木造住宅の設計を担当していた教員が加わり、その経験を活かした最新の設計手法等について演習形式で授業を行うものである。						
Style	授業は2つの課題に取り組み、計画的に作業を進め、課題を提出する。 課題1 (1～8週)：木造住宅「白の家」の軸組模型の作成、及び図面作製、プレゼンテーション (担当：本塚) 課題2 (9～15週)：2級建築士設計製図 試験課題の解答 (担当：本塚・荘所・河野)						
Notice	合格の対象としない欠席条件(割合) 1/5以上の欠課 テストは行わず、すべての課題を提出することが最低条件 本科目は、授業で保証する学習時間と、課題作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が180時間に相当する学習内容である。						
Course Plan							
			Theme		Goals		
1st Semester	1st Quarter	1st	オリエンテーション 授業の進め方、課題の説明		課題内容を正しく理解する		
		2nd	木造軸組模型の作成 (1) グループに分かれ、模型製作における計画を行う		模型作製の工程を作成、建物の構成を理解し、材料の積算を行うことができる		
		3rd	木造軸組模型の作成 (2) グループに分かれ、模型製作を行う		適切に役割分担を行ってグループで作業することができる		
		4th	木造軸組模型の作成 (3) グループに分かれ、模型製作を行う		適切に役割分担を行ってグループで作業することができる		
		5th	平面図、構造伏図のトレース		建物の空間構成、構造方式を理解し、平面図、構造伏図を完成させることができる		
		6th	立面図、断面図のトレース		建物の立体構成を理解し、立面図、断面図を完成させることができる		
		7th	矩計図のトレース		建物の部材、寸法、構造を理解したうえで、平面図等との整合性のとれた矩計図を完成させることができる		
		8th	プレゼンテーション及び講評会		作製した課題を分かりやすく発表できる		
	2nd Quarter	9th	2級建築士試験に関する説明・木造住宅の設計 (1) 木造住宅のエスキスの練習		2級建築士試験の内容、求められる知識や技術について説明することができる		
		10th	木造住宅の設計 (2) 木造住宅のエスキスの作成		課題文を読み取り、時間内に求められた平面を計画することができる		
		11th	木造住宅の設計 (3) 木造住宅のエスキスの作成		課題文を読み取り、時間内に求められた平面を計画することができる		
		12th	木造住宅の設計 (4) 木造住宅のエスキスの作成		課題文を読み取り、時間内に求められた平面を計画することができる		
		13th	木造住宅の設計 (4) 在来木造工法の伏図、矩計図の作成		平面計画と整合性のある伏図、矩計図の製図ができる		
		14th	木造住宅の設計 (5) 2級建築士設計製図試験問題の解答案の作成		与えられた課題文を理解し、時間内に整合性のある図面を作成することができる		
		15th	講評会 模範解答を確認し相互講評を行う		2級建築士試験で求められている図面とは何か説明することができる		
		16th	期末試験は実施せず				
Evaluation Method and Weight (%)							
	試験	発表・授業態度	相互評価	レポート	図面	その他	Total

Subtotal	0	15	5	20	60	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
專門的能力	0	15	5	20	60	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0